

326

335₁



始



愛知の蔬菜

愛知縣立農事試驗場

326-335

緒言

由來尾三の平野は豊沃無比蔬菜類の栽培に好適し古來より其名聲甚だ高く各種の優品に乏しからず今や人口の増殖と生活程度の向上とは益々蔬菜類の需要を増加し一方交通機關の完備は縣外に對し盛に移輸出を行ふに至り其結果本縣の蔬菜栽培事業は近來長足の進歩を來たし其生産額實に壹千萬圓以上の多額に達し今や全國唯一の生産地たるに至れり茲に現状を調査し「愛知の蔬菜」を題し昨七年三月發刊したるも各地よりの要求甚だ多く今回増補再版に附す當業者須からく熟讀以て斯業の開發に一段の努力を望む



大正
8. 6. 24
内交

大正八年三月

愛知縣立農事試驗場

二、特 性
三、栽 培 法
四、收 穫 及 用 途
第六節 春福大根……………六

一、沿 革
二、特 性
三、栽 培 法
四、收 穫
五、調 製
第七節 胡 蘿 蔔……………七

一、沿 革
二、地 勢 及 土 質
三、栽 培 法
四、收 穫 及 販 賣
第八節 牛 蒡……………八

第九節 蕪 菁……………九

一、沿 革
二、特 性
三、栽 培 法
四、收 穫 及 販 賣
第十節 蓮 根……………一〇

一、沿 革
二、地 勢 及 風 土
三、品 種
四、栽 培 法
五、繁 殖 及 形 態
六、收 穫
七、調 製 及 荷 造
第十一節 甘 藷……………一〇

第一、吉 田 蒔……………一〇

四、收 穫 及 調 製
五、貯 藏 法
第二、碧 海 郡 旭 村 の 甘 藷……………一〇

一、沿 革
二、地 勢 及 土 質
三、栽 培 品 種
四、輸 作 法
五、栽 培 法
六、販 路
第三、渥 美 郡 高 師 村 の 甘 藷……………一〇

一、沿 革
二、地 勢 及 土 質
三、輸 作 法
四、品 種
五、苗 の 仕 立 法
六、整 地 插 秧
七、肥 料
八、其 他 の 手 入

九、收 穫

一〇、調 製 荷 造 り 販 賣
二、貯 藏 法
第十二節 薑……………一〇

一、沿 革
二、品 種 及 特 性
三、栽 培 法
四、收 穫 及 調 製
五、種 薑 の 處 分 法
六、販 賣
七、荷 造
第十三節 蒔 蒔……………一〇

一、主 なる 栽 培 者
二、貯 藏 法
三、栽 培 法
第十四節 土 當 歸……………一〇

三、栽培法
 四、收穫
 五、軟化促成法

第十五節 薯 類
 一、栽培法
 (一)伊勢薯
 (二)本薯
 (三)江戸薯

第十六節 卷 丹
 一、沿草
 二、栽培法

第十七節 欸 冬
 一、沿草
 二、種類
 三、栽培法
 四、收穫及調製

第十八節 愛知白菜
 一、沿草

三、栽培法
 四、收穫
 五、軟化促成法

第十五節 薯 類
 一、栽培法
 (一)伊勢薯
 (二)本薯
 (三)江戸薯

第十六節 卷 丹
 一、沿草
 二、栽培法

第十七節 欸 冬
 一、沿草
 二、種類
 三、栽培法
 四、收穫及調製

第十八節 愛知白菜
 一、沿草

第二十二節 塘 蒿
 一、輪作
 二、育苗及移植
 三、整地及定植
 四、其他の手入

第二十三節 茄 子
 一、沿草
 二、苗の養成
 三、輪作法
 四、定植
 五、施肥中耕
 六、摘芽及敷草
 七、收穫
 八、採種

第二十四節 胡 瓜
 一、栽培法其他

第二十五節 蕃 茄
 一、沿草

二、位置及土質
 三、栽培法
 四、採種栽培

第十九節 大 高 菜
 一、沿草
 二、特性
 三、栽培法
 四、收穫及調製
 五、販賣法及販路

第二十節 甘 藍
 一、沿草
 二、土質
 三、品質
 四、栽培法
 五、收穫
 六、採種法

第二十一節 菠 薐 草
 一、栽培法

第二十六節 冬 瓜
 一、地勢及土質
 二、輪作法
 三、品種
 四、採種法
 五、栽培法

第二十七節 西 瓜
 (一)傳法寺西瓜
 (二)木の山西瓜

第二十八節 南 瓜
 一、沿草
 二、品種
 三、前後作物の關係
 四、栽培法

第二十九節 甜 瓜
 一、沿草
 二、品種
 三、前後作物の關係
 四、栽培法

五、販賣及販路

第三十節 越 瓜……………二七

第三十一節 葱……………二八

一、沿 草

二、地勢及土質

三、輪 作法

四、品種の特徴

五、育 苗

六、定 植

七、施肥中耕

八、收穫調製荷造販路

第三十二節 葱 頭……………三〇

一、沿 草

二、地勢及土質

三、種 類

四、栽 培 法

五、採種法

六、病虫害

第三十三節 菜 豆……………三三

一、沿 草

二、品種の特徴

三、輪 作法

四、育苗法

五、栽培法

第三十四節 蕃 椒……………三五

一、地勢及土質

二、品 種

三、輪 作 地

四、整 地

五、播種及定植

六、施 肥

七、中耕及除草

八、病虫害

九、收穫及調製

一〇、販 賣

第三十五節 落 花生……………三七

(一) 知多郡横須賀地方の方法

(二) 碧海郡旭村地方の方法

第三十六節 早期栽培……………三三

一、茄 子

二、蕃 茄

第二章 收支計算……………三三

第三章 蔬菜類の加工……………三三

一、大根切干

(一) 割干製造法

(二) 長割干製造法

(三) 千切干製造法

(四) 上切干及角切干製造法

(五) 花丸切干製造法

二、蕃茄「ソース」製造法

三、青實豌豆の罐詰

四、澤庵漬の方法

五、干薑製造法

六、甘藷油揚切干

七、筍及秋冬の罐詰

八、甘藷切干

九、乾燥蔬菜

第四章 高等蔬菜……………三八

一、高等蔬菜の趨勢

二、促成栽培事業

三、温室栽培事業

四、温室栽培法

五、促成栽培

第五章 販賣荷造及輸移出……………三九

第一節 販賣及販路……………三九

第二節 荷 造 法……………三九

第三節 移出及輸出……………三九

第六章 蔬菜類苗の養成法……………四〇

第一節 西春日井郡及海部郡地方の方法……………四〇

第二節 碧海郡米津村及矢作町の方法……………四〇

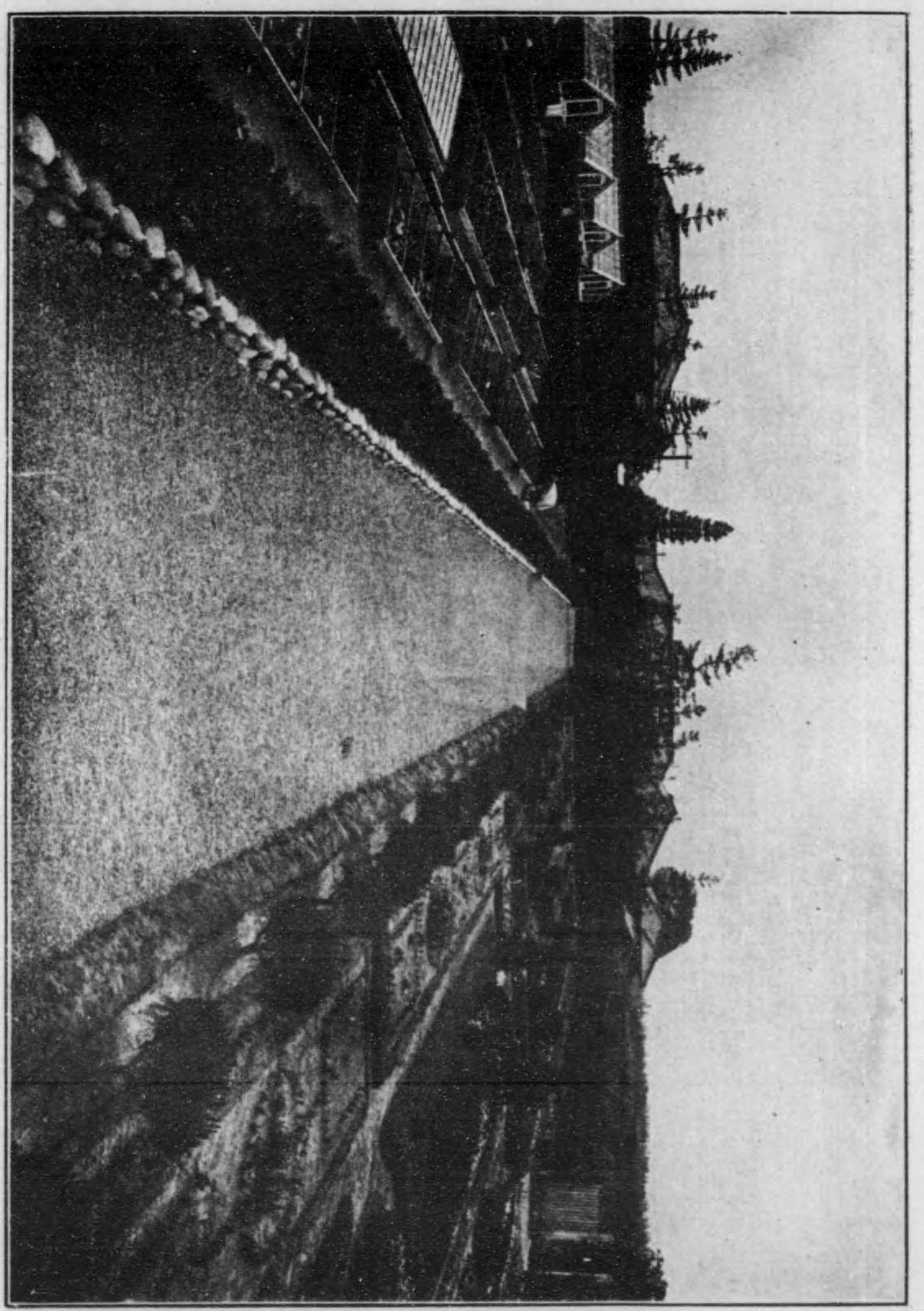
第三節 額田郡岩津村大字の方法大門……………四〇

第七章 水田裏作蔬菜……………四一

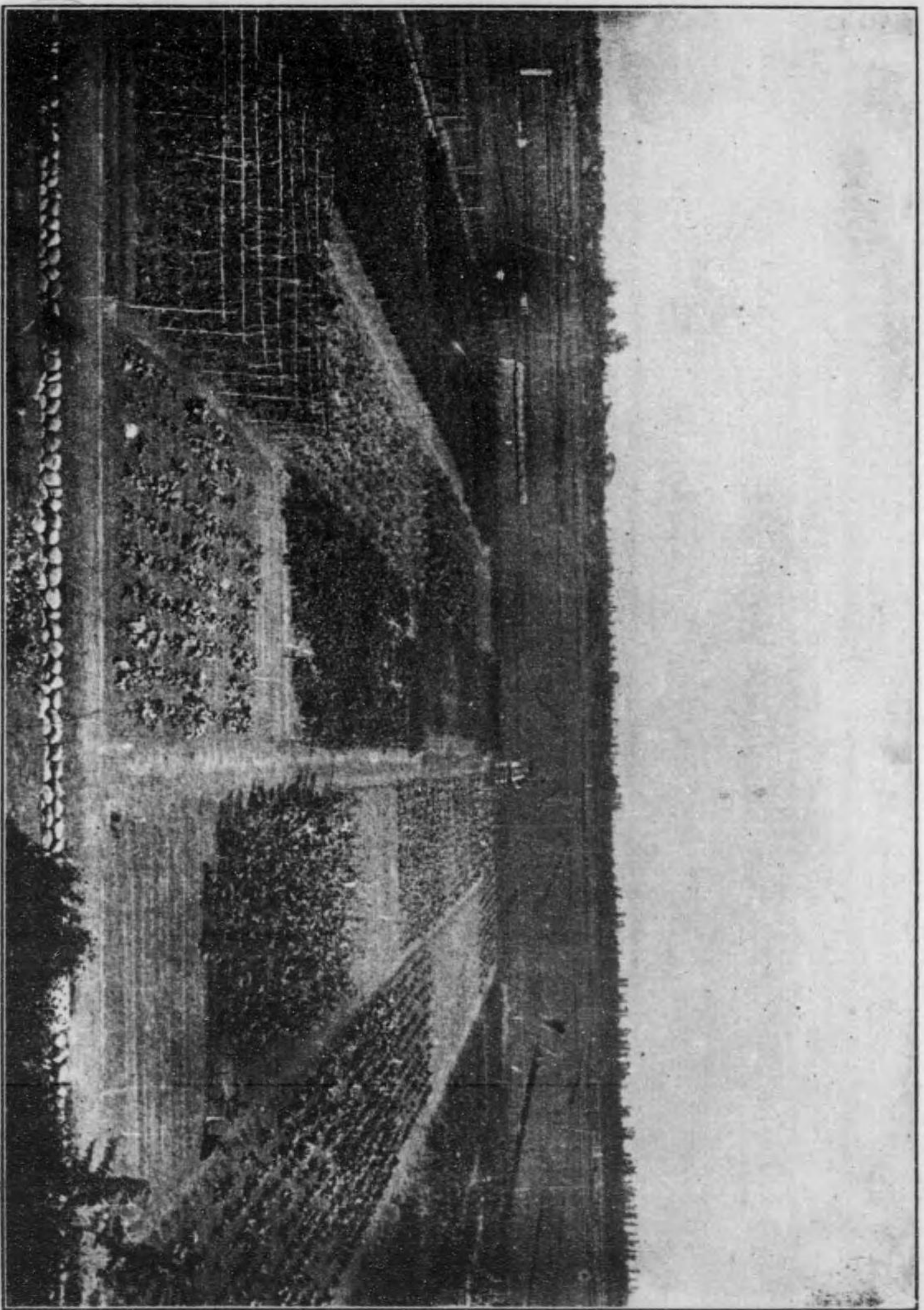
第十二章 本場に於ける蔬菜栽培奨励上の
 施設方法……………二六

一、春 白菜……………二六
 二、苺……………二六
 三、枝 豆……………二六
 四、甘 藍……………二六
 五、小 薺……………二六
 六、蠶 豆……………二六
 七、葱 頭……………二六
 八、馬 鈴 薯……………二六
 九、豌豆……………二六

第八章 蔬菜生産額及生産地……………二五
 第九章 生大根の移出……………二五
 第十章 組合及団体……………二五
 第一節 尾張大根切干同業組合事業成績……………二五
 第二節 愛知白菜採種組合規約……………二五
 第三節 宮重大根採種組合……………二五
 第四節 愛知県果菜促成研究会……………二五
 第五節 方領大根組合……………二五
 第十一章 青物市場……………二六



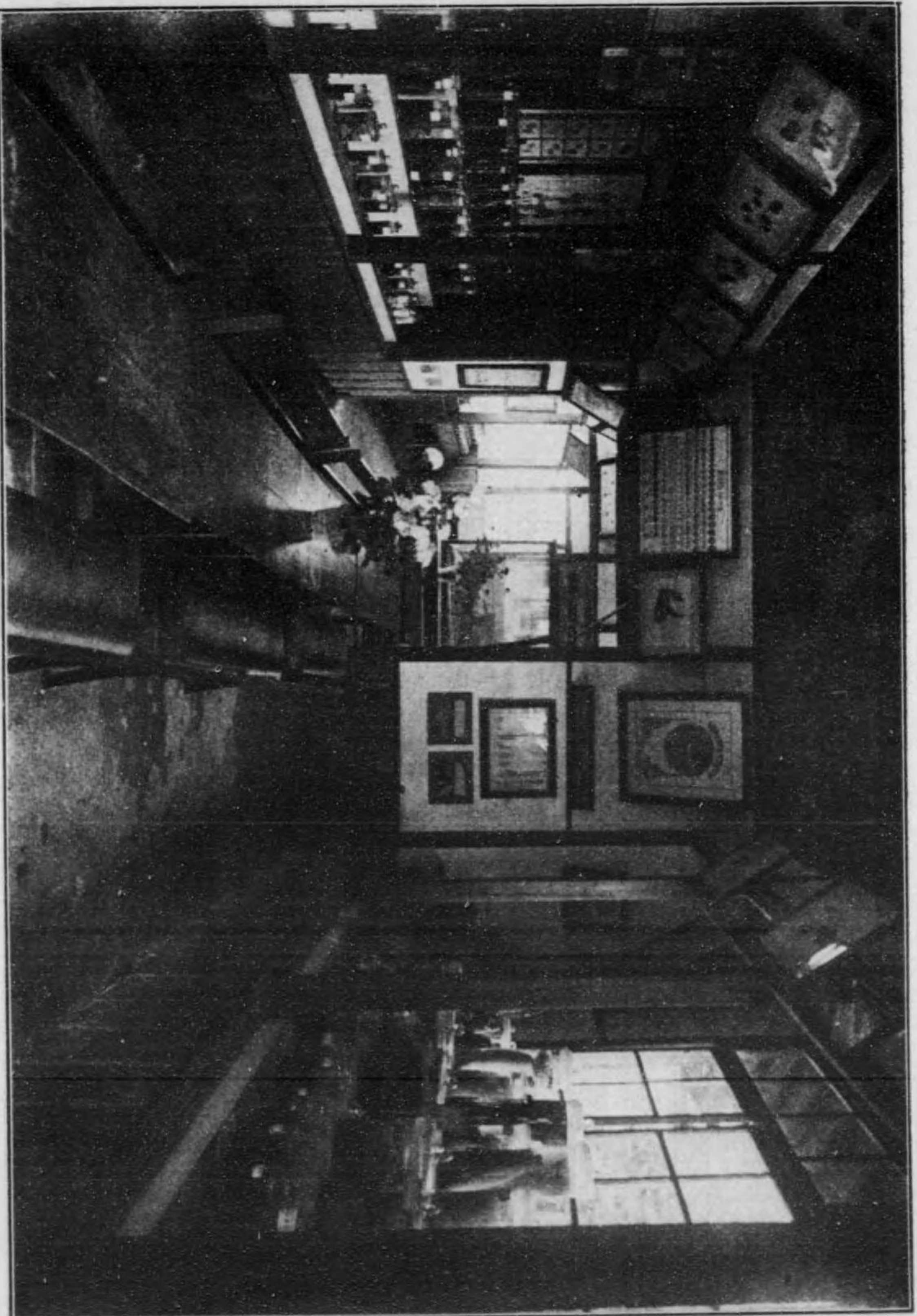
(場本) 所栽培促成及室温



(塙本) 景全園菜蔬



(産場本) シロメクスマヤ



(場本) 室列陳品產生藝園

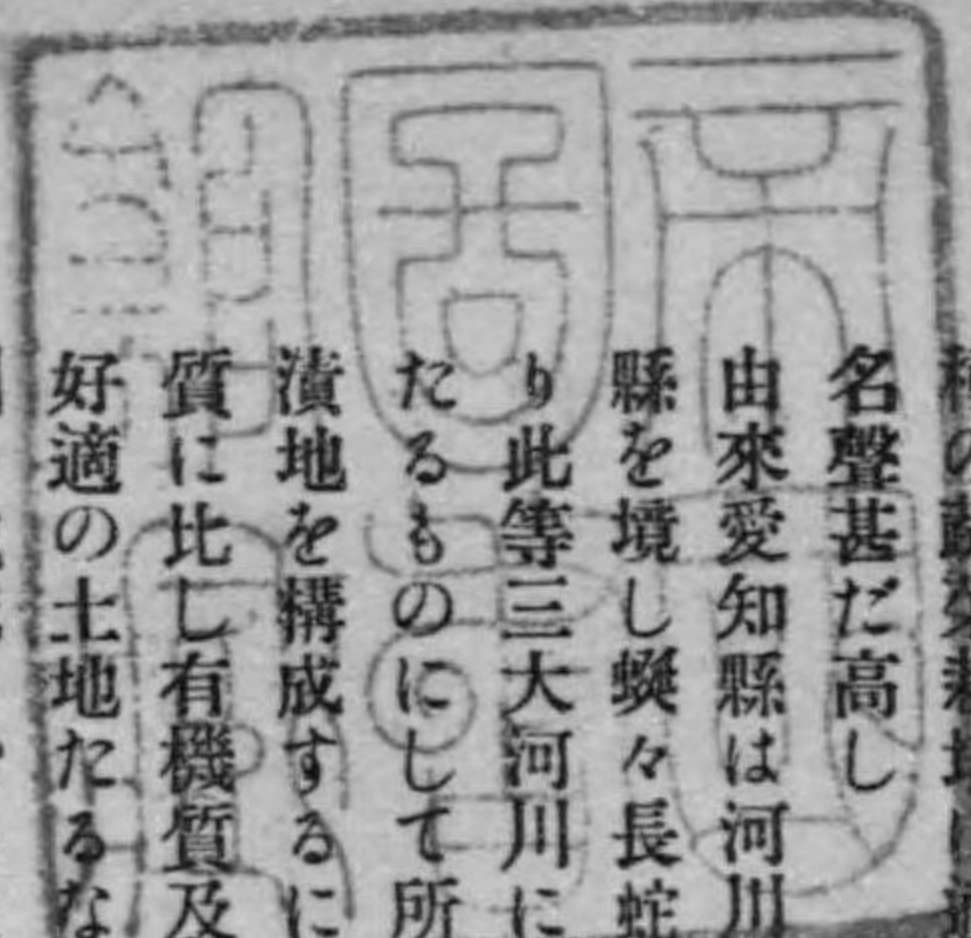
1911

愛知の蔬菜

第一章 愛知縣蔬菜栽培事業の概況

本縣は本土の中央に位し氣候温和土地豊沃にして各種の蔬菜栽培に適し全國唯一の蔬菜生産地として其名聲甚だ高し

由來愛知縣は河川に富み西端木曾川は岐阜、三重兩縣を境し巽々長蛇の如く西三に矢作川東三に豊川あり此等三大河川に依り漸次土砂を流入地層を形成したるものにして所謂豊沃無比なる尾張平野の如き沖積地を構成するに至りたるものなり沖積層は他の土質に比し有機質及肥料分に富み蔬菜栽培事業に最も好適の土地たるなり、本縣の主産地は何れも此等河川の流域に沿ひたる地方にして最も優良品を生産す交通機關亦至便にして東海道線は東部より西部に海岸を添ひ縦走し名古屋驛は關西、中央、築港、三線の始点にして大府驛よりは武豊線知多半嶋を縦走し私設鐵道として尾張の西部木曾川に添ひて尾西線あり刈谷驛よりは三河線、岡崎驛よりは西尾線、豊橋



驛よりは豊川線あり斯くて縣下各地の貨物を東海道線に集中し又名電經營の犬山、津島兩線は尾張部の交通をして一層至便ならしむ一方海岸線長くして港灣に富み舟楫の便良好なり此等蔬菜栽培の適地は道路亦宜敷車馬の交通至便なり

名古屋市は東西兩都の中央に位し所謂中京として人口四十万以上を有する大都市にして豊橋、岡崎兩市と共に縣下に三都市を有し其他一宮町、半田町、西尾町の如き小繁華の地は枚舉に遑あらず名古屋市には第三師團あり豊橋には第十五師團あり殊に尾張部の如きは國の開發最も古く從て人口甚だ稠密なり尾張の代表的蔬菜として宮重大根方領大根の如きは其紀元甚だ遠きにも拘らず未だ之れに優るの良品あるを聞かず愛知白菜の如き其原産地は滿洲なるも本邦に於ける第二の原産地は又本縣たるなり其他梨瓜蓮根、欸冬、土當歸、胡蘿蔔、午莠、高等園藝等其生産額莫大にして其品質に於ても他地方に比して遜色なきを疑はず

本縣殊に尾張地方の菜農業は往古より其名高く晚近殊に異數の發達をなし其生産激増し今後益々發展の氣運に遭遇せり其據て茲に至りたる原因に付ては前

述したる如く

- 一、本縣の位置良好なる事
- 一、氣候温暖土地豐沃なる事
- 一、交通機關完備する事
- 一、都市及人口稠密なる事
- 一、技術の巧妙なる事

等にして氣候温暖、土地豐沃なる此の自然の恩恵は優秀なる蔬菜を生産する主因にして都市及人口の稠密なる事は一層需要を増加せしむ交通機關の完備は別項記載の如く他府縣及海外へ輸移出を至便ならしめ其他一般菜農者の多年經驗の結果巧妙なる技術を有し枇杷島市場の如き大市場を有し當局者の指導宜しきを得たる如き此等各種の原因よりして本縣の蔬菜栽培事業を茲に至らしめたるものなり

高等蔬菜にありては別項記載の如く異數の發達をなしたるものにて本場にて促成場を設け木框を使用したるは明治三十四年にして當時海部郡甚目寺村大字

上條にありて數名の栽培者ありたるも油障子を使用したるのみにて其方法甚だ幼稚たるなり然るに本場にて硝子障子使用の成績は甚だ良好にして收利多きを以て一船當業者は何れも硝子障子を使用し本場の方法に従ふに至り其後漸次經驗を重ね今日の如き成績を見るに至れり

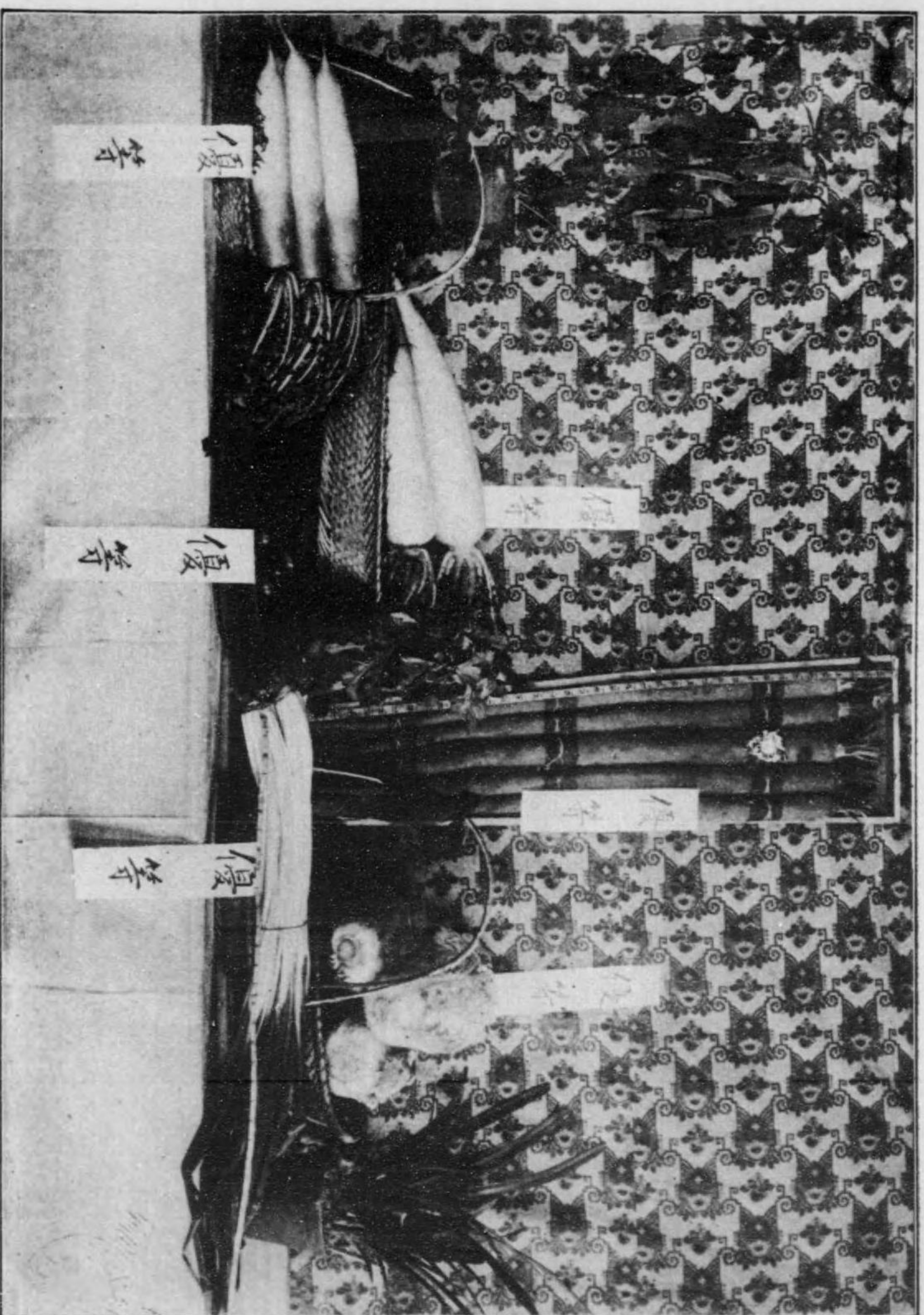
明治三十五、六年頃名古屋市中にて使用したる促成品は大阪及京都より移入したるものなりしが今や本縣産は三府の市場は勿論全國各都市の市場へ出荷し甚だ優位を占め其變遷の甚しき實に隔世の感あり

以上は本縣蔬菜栽培法發展の概要にして現況栽培事業に至りては左記各項に詳記する處あるべし

第一節 宮重大根

一、沿革

宮重大根は其栽培容易にして用途最も廣く各種大根中本種の右に出するものなかるべし而して此の名産たる宮重大根は西春日井郡春日村大字宮重の原産たるも昔時何れの頃より栽培せしか其起因詳かならずと雖も各種記録に徴するも既に千餘年前より栽培



品等優會評品藝園催主會農縣知愛(廿七正六)

根大重宮、根大領方生早、莠牛野知古、葱津越、菜白知愛

根 大 重 宮



せし事は明なり今左に其來歴の大要を擧ぐれば尾張
風土記並に本朝世紀に「尾張國中島郡牛部首國就桓
武天皇奉蘿葡云々」とあり盛長私記に「尾張者土地
大根之最上也一の宮重は以蘿葡三十本獻幕下宮重の
勞有御或者云々」とあり寺島良安の三才圖繪にも「大
低八月下種彼岸生苗霜後肥大味亦甘尾張宮繁之產大
者長三尺周尺半重可五七斤云々」とあるも之は大な
るものは宮重と思ひ誤りたる説なり、又大和本草に
は「蘿葡尾州に種々最も他郡に種子を傳へて種々共
尾州の産に不及云々」とあり物類品牘に「尾張宮重
葉菴伊勢日野菘の如きは共に名産なり」と記せり
尾張名所圖繪には「落合に産する當國の大根は尾張
大根とて他邦に類なき名物なり其内當所の産を第一
として國君より京都又は關東へも御進獻あらせられ
其外諸候へも贈り給へり世に形大なるを宮重大根と
云へど此宮重は形大ならざれども美味なる事言語に
絶へたり他國にて尾張大根と稱するものは方領村に
作る處にして形大なり海東郡方領の條にも記す合せ
見るべし」とあり

形状非肥大味甜天下無降

欸宮重宮興他村產殊

花江戸住

ふとしくも神の宮重大根しめ

年のをはりにつくるこそすれ

尾張地やあとへ引かるゝ大根畑

書 林

大根の歳暮つかいや五六代

沙 鷗

序上の如く古き記録の存するより見るも確かに往古
より栽培したるものにして尙口碑の傳ふる處によれ
ば今を去る百六十餘年前寶永年間當落合村氏神八劍
社境内に鶴群集せしを以て一時尾張候遊獵に出で當
時宮重の庄屋豪農近藤庄右衛門宅に休憩あり其際當
時字境道産の大根を晝飯に供せしに其味美にして表
沸するも肉質の皮部より突出するを賞嘆し向後右蘿
葡年々献納すべき由を命じ當産を證する爲め印章及
運搬途上携帶すべき侯の御紋付提灯並に繪符等を下
渡したり明治維新に至るまで數百本づゝ献納するの
慣例となりたり而して年々大根献納季節には清洲代
官所より役員出張の上一々點檢をなし侯より給はり
し黒印を大根の中部に押捺し葉菴にて包み五ヶ所を
束ね御紋付提灯並に繪符携帶にて上納す上納終れば
侯より大根一本に付米五合或は銀五分より一匁迄の

價を下し賞を給ひ藩政時代に於て既に如斯保護獎勵を加へられたり而して今に至るも尙庄屋遺族により古風に倣ひ一々點檢を受け大根の中部に御印影を捺し藁紙にて包み五ヶ所を束ね元産地たるを證して各地の需用に應ずるの例となれり

然るに其後之れに類似の方法を以て大根の中央部に印形を捺し市場に販出するものあるにより眞偽を判別せんが爲め現今に於ては大根一本毎に由緒を包含し販出するに勉む今侯より下附の黒印御紋付提灯繪符及歴年 蘿蔔庄屋なるものを列擧すれば次の如し

黒印

御紋付提灯



繪符 (巾三寸長二尺五寸)



實水年中より明和六年迄

近藤庄左衛門

四

明和七年より寛政五年迄 惣 九 郎
寛政六年より文化八年迄 佐 右 衛 門
文化九年より文政七年迄 喜 代 八
文政八年より弘化四年迄 源 三 郎
嘉永元年より慶應六年迄 正 助

爾後明治十四年第二回内國勸業博覽會に出品し褒狀を受け明治二十七年 皇太子殿下名古屋御臨幸の際の知事時任爲基より宮重大根三十本傳獻せしに嘉納あらせられ其後大膳職より六十本御買上の命に接し本場にては明治三十七年原産地たる字宮重の地をトし委託採種地を設け優良種の撰出に努力し明治四十年當村農會は總會の決議を経て從來奸商の粗惡種を販賣し宮重大根の聲價を失墜するを以て之れが改善の方法として西春日井郡農會の監督と本場の指導とに依つて本農會直營の採種圃を設け純系母本の撰擇をなし尙村内に於て十字科植物の採種をなさざる事とし以て優良種子の産出に努力したり

又本村農會は明治四十三年名古屋市に開設せる第十回關西府縣聯合共進會に出品し三等賞を受け大正二年十一月尾三の野に舉行せられたる陸軍特別大演習

に於て 陛下名古屋離宮行幸の砌大根一箱傳獻方願出其筋の許可を得時の農會長山本松次郎農會を代表し獻納したる處御嘉納の榮を辱ふし尙全大根五本御買上の光榮に浴せり

大正三年十一月攝河泉に於ける特別大演習行幸の途路名古屋離宮御駐泊の節傳獻御嘉納を賜はり尙全種五本御買上の命に接したり

大正四年御即位の大典舉行に當り大嘗祭庭積代物として本村農會の栽培したるものを上納し農會の榮譽一段の高きを加へ今や宮重大根の聲價は全國に喧傳せらるゝに至れり

二、栽培區域

宮重大根は今や縣下至る處に栽培せらるゝも其最も多額を産するは西春日井郡春日、西春の兩村、中島郡大里、稻澤、明治、萩原、大和、今伊勢の諸村、丹羽郡丹陽、西成、千秋、岩倉、布袋諸村等十三ヶ町村を主とし此栽培反別千五百餘町歩然れども原産地たる大字宮重は戸數二十二戸秋作は大部は大根に満さるゝも僅に十餘町歩採種目的のもの一町余に過

ぎす本種は大部分切干に加工し生食として使用するもの甚だ少なし

種子の需要は年々其量を増加し今や殆んど全國に供給するに至れり此等種子の生産地は以上の三部を主とし其量約四百石以上に及ぶを見ても本種の聲價高きを推察するを得べし

三、風 土

春日村は落合、下郷の二大字より成り落合は字宮重落合、蓮華寺、彌宜谷、西牧及西牧新田よりなり尾張平野の中央部に位し西北遙か伊吹山を望み西春日井郡の北隅に所在し東海道線稻澤驛より東十五六町にして交通至便の處なり氣候概して温和なるも冬季は伊吹風の烈風強く其結果切干製造に好適す

大字落合は木曾川の分流たる五條川に跨り地勢平坦なり往時木曾川流域の未だ完全ならざりし時は常時本部落に氾濫土砂を流下し漸次堆積今日の地層を形成するに至りしものなり而して當時五條川の流域は西春日の各所を貫流したるものなりしも寛文二年付換工事を行ひ始めて完備せるものにて現今村の東方

五

五條川に接して一小砂丘あり松樹繁茂す此の地たる昔時五條川の氾濫せるに際し土砂を停止せんが爲め茲に砂防工事を施設したるものにて地下を掘下ぐる時は往々畦畔の舊形を存在す此等の諸点より考察するも西春村は五條川氾濫の結果形成せられたる沖積たるなり

土質は肥沃なる第四期新層砂質壤土にして精細なる砂粒に富み下層は一定せざれども大半は細砂よりなり僅に礫を混するのみ五條川以東の宮重、落合は川西の蓮華寺、彌宜谷、西牧及西牧新田に比すれば腐植質に富み栽培上最適の地と云ふべし

四、特性

元來宮重大根は一品種のみなりしも近時一種尻太或は捻りと稱し末端の太きものを栽培するものあり然れども純正なる宮重大根は葉部上向きを有し根は頸部より中位迄は圓筒形にして末端尖鋭となり根頸綠色を帯び地中部は純白色を呈す花は白色にして肉質緻密甘味に富み煮食及鹽漬として宜敷又切干として最適す實に宮重大根は方領と共に尾張大根を代表す

る逸品たるものなり

五、栽培法

一、輪栽法

當地は蔬菜栽培の頗る盛なる地方にして其種類數種あるも其作付反別の多きものにて大根と重要な關係を有るものを擧ぐれば次の如し

麥	南	瓜	蘿	蔔
碗	豆	黍	蘿	蔔
麥	里	芋	蘿	蔔
麥	甘	藷	蘿	蔔

前作として最も適當なるものは西瓜、南瓜、里芋にして此等の收穫期は八月上旬乃至下旬に終るを以て蘿蔔の播種期を失するの患なし従前にありては藍を盛に栽培したるも現今にありては殆んど栽培するものなし藍の跡地は蘿蔔の水分少なく肉質を強硬ならしむる傾向あり粟、黍等は土地を瘠薄ならしめ多くの施肥を要するを以て共に嫌忌する處あり以上の關係上當地方は蘿蔔の生産地と共に南瓜の産地たり

一、整地

整地は藍を除くの外は一面に深耕し畦巾一尺八寸の揚畦を造り其頂点に一尺五寸の巨離に足跡を印し大豆粕又は鯨粕の粉碎したるものを其中央に撒布するか又は同一の個所に棒にて深き適宜の穴を穿ち之れに投入し而る後人尿を風呂水又は汚水にて五、六倍に稀釋したるものを澆ぎ乾燥を待ちて兩端に下種し足にて軽く覆土す該施肥法は成績良好なりと雖も多くの手数を要するを以て實行者次第に減少するに至れり

藍の中間に栽培するものは一番刈を終るや直ちに藍の南或は東側を淺く耕し足の先端のみを以て前記同様足跡を印し下種す此時深耕せば藍の根を著しく傷くるを以て斯くは淺耕する所以なり故に藍の跡地に生産するものは形状品質共に不良なるは全く耕耘の粗なるに原因するものなり

一、播種

夏作の種類により一定せざれども早きは八月中旬より晚きは九月中旬にして通常九月上旬に播種す下種期の最も早きは藍作の畑に行はれ里芋、南瓜

西瓜等の跡地は普通の播種期に行ひ黍、粟等は最も遅し

播種期の生育及品質に影響する事甚しく早きに失せんか甘味及水分に乏しく形状不良にして莖葉徒らに繁茂し品質劣悪なるを免がれず屬に「かみこ」と稱し内部の組織輕鬆となる然れども形状概して偉大なるものを得べく播種遲きに失せば生育著しく不良小形にして收量少なし然れども形状整齊にして品質の善良なると病虫害の少なき利得あり播種量は一反歩に付き四合乃至八合通常五合を度とす

一、間引

播種後三日乃至五日迄には大低發芽するを以て直ちに第一回の間引を行ひ四、五本を残存す後二週間餘を経過し本葉三、四枚を生じたる時第二回の間引を行ひ一ヶ所二本となし爾後二十日乃至二十五日にして第三回の間引をなす此際は既に根部の周圍七、八分に達するを以て良否を識別し易きが故充分に撰別するを要す其如何なる苗を間引きに付ては大要左記の注意を要すべし

- 一、勢力繊弱なるもの
- 二、葉色濃緑に過ぐるもの
- 三、葉柄平扁にして多くの微毛を有するもの
- 四、根部の地上に露出せる部分の少なきもの
- 五、葉形の著しく變りたるもの

一、肥料

肥料の種類は鯨粕、油粕、堆肥、人糞尿等其主要なるものにして他の肥料を使用するもの少なかりしも近時鯨粕に比し大豆粕の割合に低廉なると硫酸安母尼亞及人造肥料の使用に便なることを以て逐年使用額を増加しつゝあり

施用する肥料の種類は人に依り多少の相違あるは免かれざれども普通一反歩に使用する種類及用量は左記の如し

大豆粕	四十貫
堆肥	三百貫
人糞尿	三百貫

但し人糞尿に代ふるに硫酸安母尼亞を使用するものあり

堆肥は藁、雜草、土等を堆積したるものを使用するものあるも多くは五條川の泥土を浚渫乾燥したるものにして下種の際人糞尿を施用するときは病虫の被害多きを以て人尿の外は決して使用せず兩者共風呂水又は下水等にて稀釋し施用の時期は原肥及追肥として二、三回所謂間引毎に使用するものとす

一、耕耘手入

耕鋤は間引及施肥毎に軽く二回乃至三回に行ひ併して「コマザラ」(方言)にて丁寧な土塊を粉碎し根邊に土寄を行ふ收穫二、三週間前に至り下葉を刈取り頸部を露出し以て日光の直射を可ならしむるものとす、斯くするときには切干の乾燥歩合を増加し一つは宮重固有の青色を帯びしむる等の利益あり

一、收穫及用途

收穫の時期は普通冬至五、六日前にして冬至迄には全部終了するものとす收穫の早晩は品質收量に至大の關係を有するものにして早きに失せば小形

にして甘味乏しく遲きに失せば形狀大なれども品質劣悪なるものなり

收穫に先ち陽光の充分なる畑の一隅を卜し長さ三間巾二間位の粗末なる藁小家を設置し(中には西北、東の三面を藁圍となすものあり)大根は一々丁寧に抜き取り直ちに莖葉部を切り落し然る後前記の藁小家に運搬堆積し置き逐次切干製造をなすものとす

生食用として市場に販賣するものは形狀大にして品質良好なるものを用ひ冬至前に於ては莖葉を附し其後は之れを除去出荷するものとす

六、採種法及採種事業

採種を行ふには移植と直播との二法あり又直播にありては普通の播種期に下種し一般栽培法により培養するものと秋土用後に下種の適當の培養を爲すものとの別あり該方法は移植採種法に劣る事數等なるも多量の種子を得んとするには勢ひ直播法を採用するに至るものなり然れども年々直播に依るときは自然惡變の恐あるを以て原種は移植法により採種したる

ものを直播法に使用し一般の需要に應ずるを常とす移植採種法は九月中旬普通播種期より稍後れて下種し一般栽培法により培養したるものを十二月中旬に至り抜き取り形狀色澤固有の特性を具備したるものを選択し之れを採種地に定植するものとす

採種圃は肥沃なる土地にして薯蕷、午勞の如き深根植物の跡地を撰び充分深耕粉碎し畦巾二尺株間は大根の大小により一定せざれども一尺五、六寸を普通とす收穫したる母本は直ちに右の巨離に鋏を打込み大根を稍斜に植込覆土し足にて軽く踏み付け水肥を施用す栽植終れば芥塵及糶糠等を覆ひ寒害を防止するものとす

定植後二、三週間にして再び水肥を施し春季日岸頃に至り中耕施肥を行ひ温氣の加ふるに従ひ漸次發育して花莖を抽出し二尺五寸位に伸長し未だ花蕾の開かざる時主幹の頂部を摘心す然るときは枝を四方に開張し結實良好なり尙畑の周圍には繩を張り折傷又は倒臥を防止するものとす花には白、紫の兩様あり白花は宮重特有のものにして紫花は惡變せるものなれば除去するものとす然れども原產地以外の個所に

ありては紫花を摘採するもの甚だ稀なり六月中旬に至れば登熟するを以て根元より刈取り四、五本を一把となし日光の直射せざる處に於て乾燥するものとす然れども多額に採種する場合は刈採後二、三日間圃場に乾燥し麥扱にて扱き陽乾したる後臼にて搗き或は麥打臺にて打落し臼にて搗くものあり種子の善悪を鑑定するには色澤粒の整齊等にて他に標準とすべき点少なきを以て至難なりとす概して移植法に依り得たるものは少しく扁平にして小粒なり直播法は大粒にして外觀良好なるを以て販賣用として最も歓迎せらる

採種量は開花より登熟期及冬期の氣候に依り(寒氣甚しき時は母木を損傷せしむる事あり)多大の相違あるものにして普通移植法にありては一反歩八斗内外直播の場合は一石二、三斗とす故に勢ひ販賣用に供するものは直播法を採用するに至るものなり前述せる如く今や縣下に於ける宮重大根の種子は五千石以上を販賣するを以て到底移植法により採種するを得ざるは自然の趨勢なり一方地方に於ける種苗商は縣下至る處に於て採種する青首大根は全部宮重

大根として販賣するを以て漸次宮重の聲價を失墜するの傾向あるを以て明治三十九年大字落合字宮重に採種組合を設け相互の制裁により確實なる種子の採收に努力したるも社會の需要は到底一部落に止むるを許さず明治四十年村會の決議により村農會の附帶事業として全村に涉り農會員を以て採種組合を組織し左の規約書を取り知事の認可を経て一定の方針監督の許に採種をなさしめ宮重大根種子の統一を圖るに至れり

春日村宮重大根採種組規約書

- 一、本會は春日村宮重大根採種組合と稱し村農會の附帶事業として施行す
 - 一、本會設立の際決議せし事項
 - (一) 會員は本村内に居住したる農業者とす
 - (二) 會員は宮重大根の外十字科植物の種子を採種せざる事
 - (三) 會員は個人として他へ種子を販賣せざる事
- 但し他より注文を受けたる時は本會に申出數量に應じ其幾分を本會へ配與する事
- 右の個條了知の上調印し本會の規約を嚴守するも

のとす

明治四十二年一月三十日

春日村大字下之郷 山本松次郎印

外三百三十五名連署捺印

七、村農會採種法

村内各農會員により普通栽培したる優良品を十二月中旬各部落毎に一定の場所に差出さしめ各區長立會本場技術員をして形状態澤等を一々検査し固有の特性を具備したるものを撰拔し時價にて買上げ農會特設の採種圃に定植し肥培管理に一層の注意を行ふものとす該種圃は五條川の堤防に沿ひ周圍は松林にて圍繞するを以て花粉交雜の憂なき良地とす

以上の如くして採收したる種子は「特種」と稱して一部は地方よりの需要に應ずるも高價なれば其多くは原種として會員に分配す原種の供給を受けたる會員は農會監督の下に直播種法により採種せしものを農會に納入し一々検査を施し精良なるものを「甲種」と稱し稍不良なるものを「乙種」とし各地の需要に應ずるものとす大正四、五年度農會に於ける生産量次の

如し

大正四年	特種	四石三斗八升七合
	甲種	四十五石六升七合
	乙種	若干
大正五年	特種	七石九斗六升二合
	甲種	五十九石八斗六升二合二勺
	乙種	三石四斗五升八合二勺

八、宮重大根取締規則

- 第一條 宮重大根の名稱を永遠に維持せしむるを目的とす
- 第二條 宮重大根の本場と稱するは當村字境道の産に限り輸出をなすものとす
- 第三條 該大根の首部に印影を捺し大根由緒を藁の内部に包巻し全部五ヶ所を束ね損傷なき様注意すべし
- 第四條 大根由緒一枚に付き貳厘を納入し字の常設委員より申受るものとす
- 第五條 第四條に該當する由緒を大根一本毎に添付すべきものとす若し封入なきもの送附發見せる時

は組合協議の上所決すべし
 第六條 往古より傳來せる印影たりと雖も左の理由により現行印となすものとす
 文政七年より弘化四年以前以降の使用せる部分の印判を廢止す
 第七條 第四條にある該出金は當字の基本財産となすものとす若し拾名以上の申込ある場合は此の限にあらす

該組合は決議の上變更をなすべし
 右は住々字句穩當を欠き文意了解に苦むの個所なきにあらずと雖も相互之れを勵行して若し犯すものは道議上の制裁に依り相共に原産地の品位を世上に認識せしむる事に勉む
 由緒は宮重大根來歴の畧記にして巾五寸長さ七寸の紙に印刷したるものにして左の如し

宮重大根由緒

宮重大根の名稱たる原由は詳ならずと雖も左に理由を奏す
 一本朝世記に曰く當中島郡牛部首國就恒武天皇奉宮重大根云々あり



第二節 方領大根

一、沿革

尾張名産の一つとして其名全國に喧傳たる方領大根は縣下海部郡甚目寺村大字方領の原産たり之れが起因來歴に付ては詳細を知れるに由なきも尾張風土記に
 方領大根は方領村に産す宮重に比すれば品格稍劣ると雖も其大なるものは一本の目方三貫匁程に至る他國に運送すること夥し
 寛永に刻する最草子の「ふとさきもの」の條下に
 大黒柱門柱尾張大根八幡牛莠等と云へり尾張大根は即ち此の方領の産にて當時既に名聲高かりき
 松平君山翁の種菫葡説に

- 一 當宮重は大根栽培に最上の地にして美味なるを以て三十本を幕下に献す
- 一 近世寶永年間當村郷社八劍社境内に鶴群集するを以て國君御遊獵被遊節當村庄屋近藤庄左衛門方へ午飯の爲め御休憩ありし際字境産の大根を供す
- 一 字境産の産なる大根は輪切して煮れば其切口凹ならずして美味ありしを賞嘆せられ向後は年々献納すべき由命せられ維新に至る迄之を献したり
- 一 當字境産の産なる大根を以て國君より京都及關東へ御傳献あらせられ其外諸侯方へ贈り賜へり
- 一 當宮重大根献納の都度清洲代官所より役員出張の上本査を遂げて後ち納めたり
- 一 宮重大根の體として同君より印影及賞狀下附運搬途上携帶すべき御紋付の提燈並に繪符等を賜ひたり
- 一 明治二十七年十二月 皇太子殿下名古屋階行社御旅泊の際大根三十本を本縣知事より御献相成御歸京の際六十本御買上被仰付候
- 一 世に形狀大なる者を以て俗に宮重大根と言へども是れ大なる誤なり宮重の産は形狀大ならずして葉莖短く光澤青黄なり其美味なる事他産に優れたり
- 一 明治三十三年愛知縣農會蔬菜品評會へ犬飼萬右衛門名義にて出品したる結果一等賞を受けたり
- 一 近世宮重大根と稱し他産の者類似したる印影を捺すべき由聞き及ひたり故に其眞偽を分たんが爲めに證明捺印す

尾張菫葡冠天下其大者數斤色珂雪甘如飴四方五人爭而買之以充分物焉なごあるも全く此方領の産を云へり宮重の産には必ず宮重の文字を黒印せり形少し細きものなり黒印のなき大なるものは當村の産と思ふべし今辨別して他郷の人に示す云々あり
 右の如く諸説多々あるも方領大根は形狀大なれども品位決して宮重に劣る事なく又黒印の如きも現今に於ては宮重に限るものにあらず他産のものを識別せんが爲め原産たる方領大根には方領の黒印を押捺するを常とす然れども何れの頃より栽培せしものか其起源を知るを得ざるも口碑の傳ふる處によれば既に數百年以前より栽培せるものにて其當時は栽培面積の如き極めて少なく僅に自家用の剩餘を批杷島市場に販出するに過ぎざりしを以て隨て其名普く知られざりしに安永三年尾州侯放鷹に當り此の地通過の節献上せしに其偉大にして美味なるを以て異外の賞賛を給はりしより名聲漸く高まり其後時の地頭に年玉として献せしに是又其味佳良にして且煮熟の早きが爲め多大の賞賛を受け其名聲を發揚するに至れるも

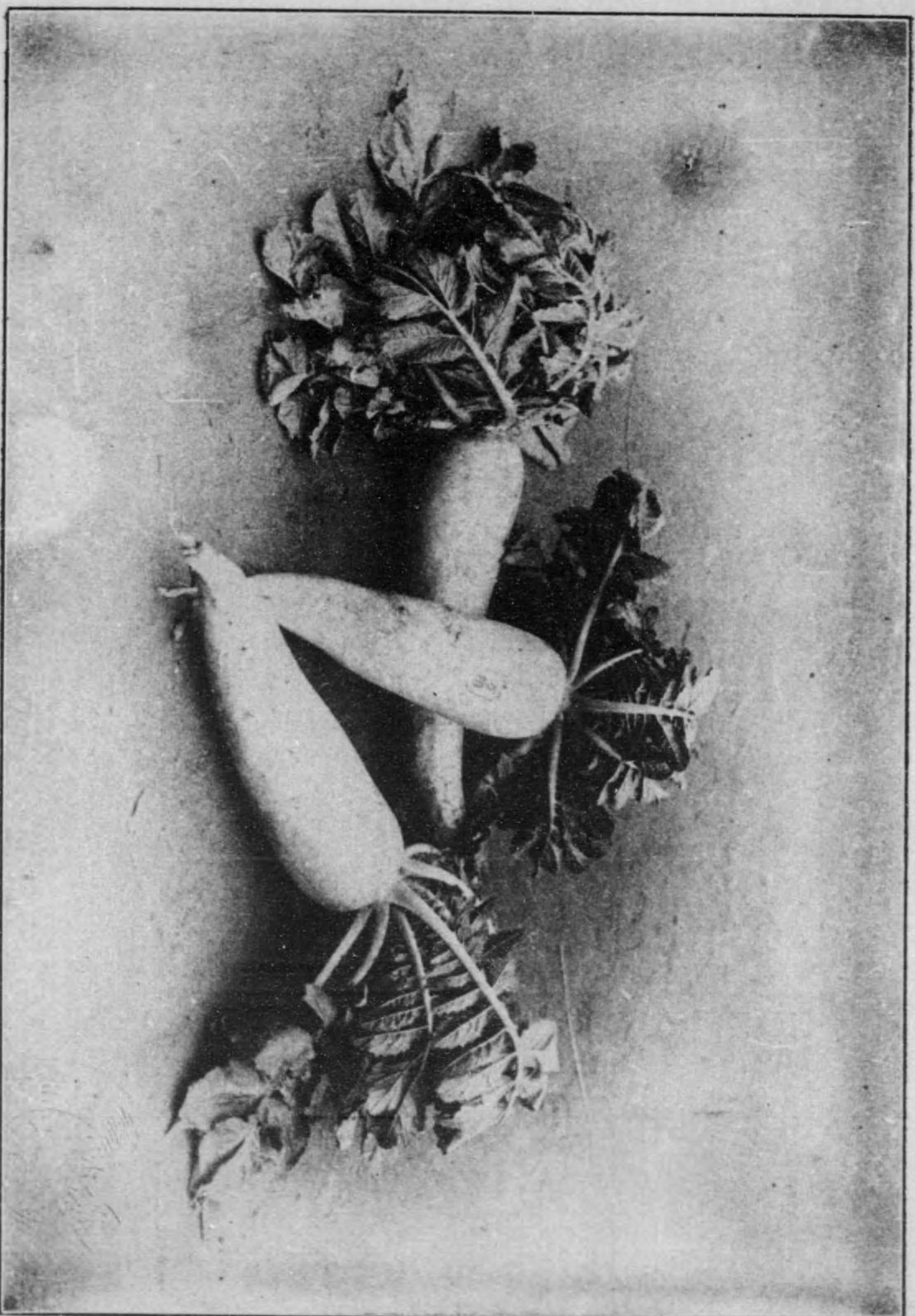
のなり其他に至りては書類散失し殊に明治十二年累代の庄屋たる杉本治左衛門の宅火災の爲め幾多の資料を烏有に歸せしめたるを以て知るに由なく降而明治十四年時の郡長横田太一郎氏當方領大根の名聲普からざるを痛く憂ひ大に當業者を説き栽培上改良普及の必要を絶叫し爰に蒸餾組合なるものを組織し稍發達の實を擧ぐるに至れり明治十八年大日本農會主催種苗交換會に出品し賞状を受け二十三年全農會第二回農産物品評會に出品し二等賞を受領し茲に一大面目を改め其聲價を博するに至り畏くも大膳職より御用命を拜受し且又 今上陛下御即位の大典に當り悠紀地方献納品として御採用の榮を辱ふし益々其名聲を全國に普及せしむるに至れり爾後三十七年に至り本場に於ては該種の改良發達を謀らんが爲めに當地に委託試験地を設け栽培の模範を示すと全時に優良なる種子を採收し縣下に交付し一方當業者に對し採種組合の必要を勸説し其結果大正四年度に至り種子改良の目的を以て方領大根組合を組織するに至り累年其實績擧り販路を擴張し需要益々増加し今日の盛況を呈するに至れり

二、栽培區域

今や方領大根は縣下何れの土地と雖も多少栽培せざるものなきも海部、愛知、西春日井の三郡を主とす就中最も多く栽培せらるゝは海部郡甚目寺、美和、大治の三ヶ村、愛知郡常盤、中村、八幡の三ヶ村、西春日井郡新川、枇杷島、清洲の三ヶ町とす此等各地に於ける栽培反別は大畧百余町歩を下らざるべし然れども原產地たる大字方領は戸數僅かに三十二戸なるを以て秋作の殆んど全部は該種を以て滿さるゝと雖も僅か五町余歩にして内採根用二町歩余總收量五萬貫に過ぎず残り三町余歩は採種用にして約二十石を採種す而して此等生大根の大部分は枇杷島市場に販出し最近切干の製造を行ひ其成績佳良にして需要多く前途切干として有望となれり

三、風土

原產地たる甚目寺村字方領は本場より西十七、八丁名電清洲線丸ノ内停留所より西十五、六丁交通至便の處にして冬季は伊吹風の寒風甚しく割合に低温なり該種に最も適當なる氣候は第二回間引までは可成



方領大根

温暖にして爾後は逐日寒氣の加ふるを可とす然らざれば生育旺盛なりと雖も腐敗損傷するもの多く殊にカミコ、ボンボンと稱し内部の組織粗鬆となり又は空隙を生じ品質劣悪なるものを産す方領の地たる茫々たる尾張平野の中央に位し第四期新層の壤土にして地味豊沃排水良好にして大根の栽培に最も適す該種は性殊に肥沃地を好むを以て瘠薄地にありては生育不良にして矮小水分少なく纖維多く著しく劣悪なるものを産す殊に排水不良なる土地は病害に犯され易く腐敗多く栽培困難なり

四、特 性

方領大根は従來一種なりしも近時一種の變種を生じ漸次栽培區域を擴張しつゝあり純種は稍晩生にして葉色濃緑を呈し變種は之れに比し早生にして葉色淡綠色を帯ぶ何れも葉は矮少にして下向性を有し根頭豊大末端に至るに従ひ尖銳となる(挿圖参照)色澤純白にて滑澤を有し肉質緻密且脆弱なるを以て收穫の際取扱不當なるときは往々龜列を生ずる事あり水分甚だ多く甘味に富み形狀偉大其重量大なるは二貫匁

以上とす煮食に適す殊に「ほろふき」用としては此種の右に出するものなく名古屋料理の一名物として世に其名高し

五、栽培法

一、輪栽及整地

概して大根は連作を忌まずと雖も連作は多くの肥料を要し病虫の被害多きを免がれずされば該地方にありては二、三年後に一回休閑するを例とし可成輪栽をなすに勗む其方法の概要を示せば

冬作

一、麥

二、麥

三、麥

夏作

黍又は藍

瓜類

里芋

秋作

大根

大根

右の如き方法によるも前作としては瓜類の跡地最も良好にして黍作之れに次ぎ藍作地は土壤緊密にして肥料を多要し成績最も不良にして休閑せしもの、佳良なる事は言を俟たず

夏作物收穫後は兩三日乃至一週間の地休を経て整地に着手するものなり若し地休をなさずして直ちに整

地を行ひ同時に下種せば發芽後土際より往々倒臥し又は消滅し或は小脂大に成長したる時腐敗枯死するもの多ければ必ず地体を行ふものとす
 豫定の地体を経過したる後精耕細碎畦巾二尺の揚畦を形成し「こまざら」を以て其上を均らし株間二尺の足跡を印す然る後足跡の前後二個所或は中央に一個所に經一寸大の小孔を穿ち其中に粉細したる練粕を少々づゝ投入し而して人尿の能く腐熟せるもの一荷に五倍の水を混じ稀釋したるものを少量づゝ灌注し然る後下種を行ふものとす

一、播種
 播種期は一般八月下旬にして其早きに失すれば生育盛なりと雖も肉質輕鬆となり又は黒線を生じ品質惡變の憂あり余り晩きに失せば品質優良なりと雖も發育極めて遅緩にして大形のものを得る事難し
 播種量は反歩八合乃至一升にして八合を普通とす足跡に施したる下肥土壤に吸收せらるゝを待ちて一個所十種位づゝ點播とし下種終れば鍬にて四分乃至八分の覆土をなす然る後發芽に際し稍土壤の持上げらるゝを手にて輕く之れを除去し以て發芽に便ならし

す而して此等の肥料は間引及中耕と相俟つて施用するものにして其用量の一例を示せば一反歩當左の如し

肥料名	原肥(整第一回) 補肥(第二回) 補肥(第三回) 補肥(第四回) 補肥(第五回) 補肥(第六回)					
	地の際	補肥	補肥	補肥	補肥	補肥
種子類	二斗	四斗	四斗			
人尿	五十貫					
人糞尿		六十貫	六十貫	六十貫	六十貫	六十貫
土肥		百五十貫	百五十貫			
薬灰		十貫	十貫			

施肥の方法は原肥は足跡の小孔に投入し其上に人尿を灌注し第一回疎減後「ひねり」を行ひ畦の一侧(方言あご)を耕し之れに施し第三回疎減の時第三回の補肥を第一回補肥の反對の側に施し畦形を完成し其他は株間或は溝内に施用するものとす

肥料の種類と生育及品質に就ては余程の關係を有するものにて栽培地方に於て一般に稱ふる處のものは
 一、練粕は品質佳良にして味最も美なり
 一、種子粕は葉莖を徒長せしむ
 一、綿實粕は葉根共に形小なり

一、間引

間引は通常三回に行ふものとす第一回は發芽後五、六日より一週間以内に行ふものにして間引べきものは葉色濃厚甚しく勢の強健なるもの及淡綠なるも勢力弱きものを除去し中庸なるもの四本を残存し而して後風の爲め嫩苗の倒臥を防ぎ生長を助長せしむるが爲め方言「ひねり」と稱し両手にて周圍の土壤を揉み碎きて苗の根元に集合す該法は大根栽培上最も肝要なる事項とす第二回間引は心葉二、乃至三枚を生じたる頃にして第一回間引後十日乃至十四日以内之れを行ひ一株二本とす第三回は大抵三週間内外にして根部の小指大に成長したる時に行ひ遂に一個所一本立とす此時に至れば固有の性質を識別し得るを以て注意して除去すべし總して第二回及第三回間引は早きに利あるものにして其早晚は大根の發育に至大の關係を有するものなり

一、肥

肥料の種類は區々にして一定せざるも主に人糞尿、土肥の外に練粕、大豆粕、綿實粕、種子粕等を使用

一、大豆粕は葉部の發育盛に濃綠なれども甘味乏し

一、人糞尿を多用せば外皮稍厚し

一、收穫

收穫は冬至一週間前より行ふものにして遅くも冬至迄には全部終了するものとす冬至前後は葉腋の發育最も旺盛なる時期とす且又大形を得んが爲めに一月中旬、迄圃場に存置するものなきにあらざれども内部の肉質惡變するを常とす
 抜き取りたるものは直ちに市場に出荷するものにありては葉付の盡洗滌運搬し自家用及運出したものは鎌にて葉莖を切斷し根部は自家に運搬し莖葉は肥料として麥の根元に施用す根部の貯藏は邸宅の周圍又は畑の耕水良好なる地を掘り頭部を外にし尾端を内部に圓形に積み重ね外圍を藁及土にて圍み凍傷を防ぎ市場の價格に鑑み時々掘出し販賣するものとす

六、採種法

何れの作物を問はず種子の重要なる事は今更奴々を要さざれども特に十字科植物の如きは交雜の最も甚

しきものなれば近隣に他種の栽培されんか直ちに雜種し純系種を得る事頗る困難なれば當業者の最も苦心する處にして今原産地たる方領地方採種の概況を述ぶれば左の如し

採種法を分ちて二種とす即ち

甲、直播により採種するもの

乙、移植により採種するもの

甲は九月下旬直播移植をなさず間引の際丁寧な良否を撰別し畧は固有の形状を具備せしものを株間七、八本に一本づゝを殘置し二、三回の肥培耕耘をなし周圍に繩を張り倒臥を防止し六月中旬成熟の期を待ちて採種するものとす該方法は勞少くして收量多く粒又大にして一見良種子の觀あるも其成績乙法に比し甚だ不良なり然れども普通販賣に供するものは收量多きと勞力少なきことにより該方法に依るもの多し乙法は最も正確なる方法なれども收量少なきと勞多きとの故を以て採用するもの甚だ少なく漸次惡變の傾向あるを以て原産地にありては大正四年度に採種組合を組織し移植法により原種を採收し同種を直播し販賣用種子を生産するに至れり

母本の撰擇は固有の形状を具備し純白色にして鬆根細少尖端の分岐せざる形状中位のものをして以て之れを畑植するものとす採種地は可成肥沃地にして連作せざるを可とす連作は病虫の被害多く收量少なし時としては排水良好なる水田に移植する事あり該法にて採收したるものは概して小粒にして收量少なし採種地は深耕して畑は畦巾二尺水田は二尺五寸高さ約一尺二、三寸とす株間は大根の大小により一定せずと雖も一尺五寸乃至二尺とす移植期は稍早きを利ありとするも一般に十二月上旬より收穫の際母本を撰擇數日間貯藏し或は收穫直ちに鉞にて淺く斜に母本の長さに準じ孔を掘り夫れに横へ覆土して軽く足にて踏み付け其上に凍傷豫防の爲め粉殻を撒布す肥料は植付と同時に四、五倍に稀釋したる人糞尿を施用し其後二週間内外を経て前同様を施用し翌年に至り新葉を生じたる後練粕一株に付き二三勺を施用す

春期花莖抽出して二尺内外に伸張せば摘心して枝を四方に開張せしむ(中には摘心を行はざるものあり)且又直播法の如く外圍に繩を張り以て倒臥又は損傷

を防除するものとす收穫は六月上旬莢の薄赤色を呈したる頃鎌にて刈取り現地にて乾燥す數日を経て莢の純白色を呈するや收納舎にて手を以て莢を揉み取り又は麥打臺にて亂打す斯くして三、四時間陽光に曝し適當に乾燥したる時臼にて搗くものにて杵の重大なるものを使用する時は種實潰るゝの虞あれば輕小なるものを採用するを可とす然して舎外に出し通風可なる處に於て塵芥及莢と根莖を撰別し然る後又千石通にて充分精撰するものとす一反歩よりの收量は氣候の如何により多少の相違あるも畑作にて一石二、三斗水田にて七斗四、五升とす

本場にては明治三十七年當地に委託採種地を設け縣内に交付すべき精良種を採收すると同時に當業者に對し種子改良の必要を説き或は技術員を派遣し母本の撰擇をなし直接間接に獎勵指導の結果別項記載の如く組合を組織し精良苗の生産に意を用ゆるに至れり近時種子の需要は益々多く重なる供給地は東京、青森、秋田、新潟、静岡、徳島、鳥取等の各府縣とす

第三節 早生方領大根

一、沿革

早生方領大根は海部郡大治村大字三本木、北間島、東條及西春日井郡西枇杷島町大字小場塚地方に於て盛に栽培せられ大治大根又は小場塚大根と稱せらる本種の沿革に付いては記録の存するものなく詳知するを得ざれども海部郡美和村大字二ツ寺に於て今を去る五、六十年以前方領大根の原産地たる隣村甚目寺村大字方領より種子を取寄せ栽培したるに其中に於て早生肥大なるもの、混在したれば該種を撰出したるものにして在來の方領に比し栽培容易に早生美大なるより本種を栽培するもの多く二ツ寺大根と稱して枇杷島市場に於て大に歡迎せられたり然れども現今二ツ寺地方にありては餘り栽培せられず

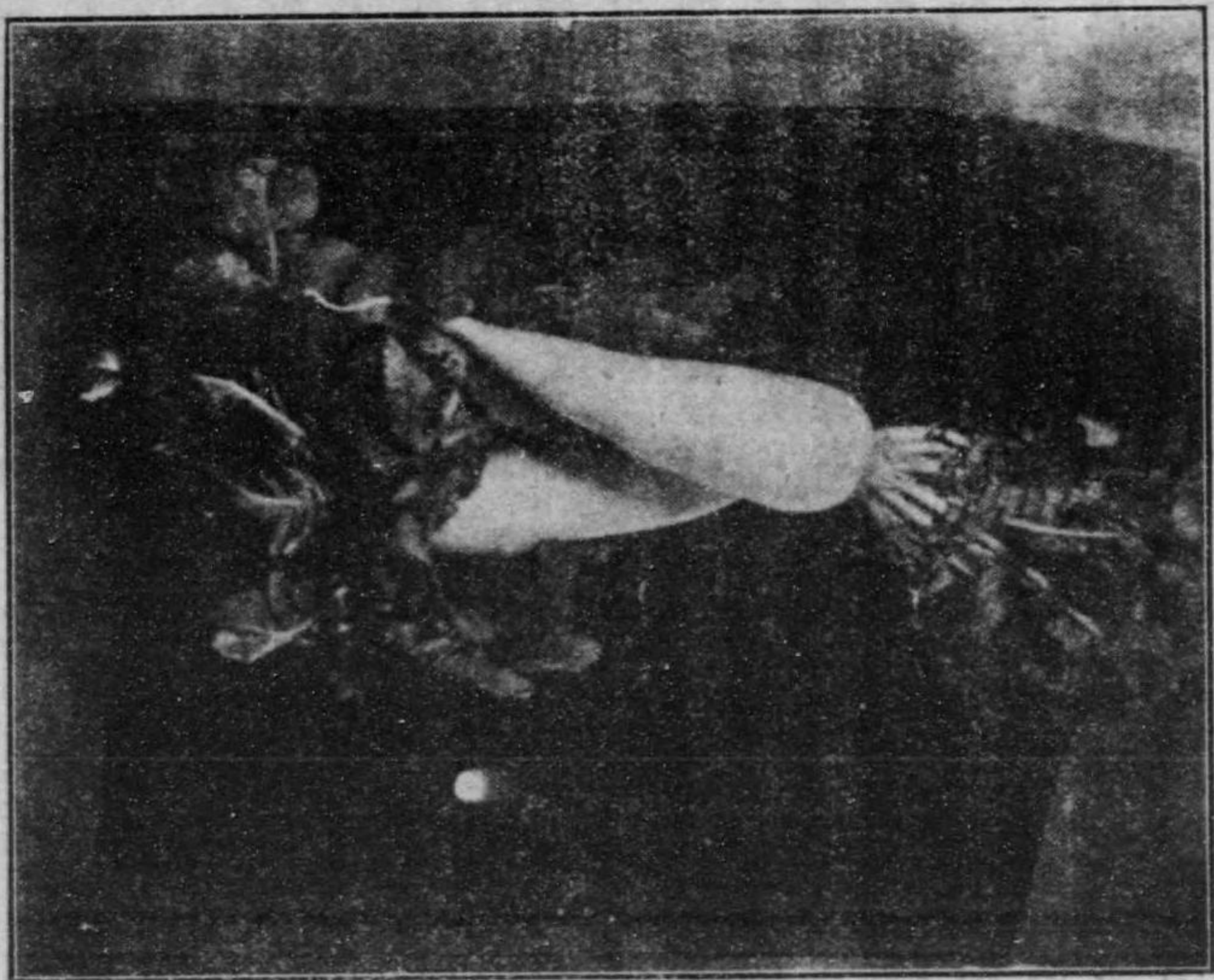
其後明治十五、六年頃西春日井郡西枇杷島町大字小場塚の人渡邊喜三郎氏は前記二ツ寺より種子を購入栽培したるに成績頗る良好なりしかば毎年採種其他に注意し熱心改良淘汰の結果現今の如き優良品を産出するに至り小場塚大根と稱して大に高評を博せり次て海部郡大治村地方に於ては從來より方領大根を栽培したるに近來其收量大に減少し收入少なきに至

りしかば小場塚種を移入し栽培したるに前記二ヶ所以上の好成績を挙げ漸次其面積を増加し現今にては在來種の殆んど其跡を絶つに至り特に大治大根と命名販賣しつゝあり

本種は以上の如き來歴を有し二ツ寺大根、小場塚大根、大治大根と稱するも其特性に於て殆んど異名同種の譏あれば當場に於ては大正六年十二月、早生方領と命名せり該種の栽培は年々其範圍を擴張せらるゝに反し在來の方領は原産地を除くの外は殆んど其跡を絶つに至れり

二、特 性

本種は方領大根に比し大差なく葉は在來種に比し色



澤淡く心葉の綠色なると紫赤色を帯ぶるものとあり

葉は尤も大にして欠刻細くして鋭く毛茸多く且つ薄くして下向性一層甚だしく傘状をなし地面を蔽ふを以て根部の綠變する患なし根部の形狀は方領に比し彎曲少なく大形なり肉質は方領に比し粗にして水分多きと雖も甘味稍少なきと早生なるが爲め永く圃場に其儘置く時は中心部空洞を生じ易きは本種の缺點なりとすれども早生種にして大形栽培容易に比較的肥料を多く要さざれば收利多く殊に夏期暑さに耐ゆる力強きが爲め早期栽培に適す

三、栽培 法

栽培法には早期栽培と晚期栽培との二法ありて西枇杷島町小場塚地方は後者に屬し方領大根の栽培と異なる事なく海部郡大治村地方は前者に屬し其法方多少異なるれば左に大要を記載すべし

一、前後作物

大治村地方は蔬菜の栽培盛にして殊に夏作中南瓜、胡瓜の特産地なるが爲め前作は主として南瓜、胡瓜を栽培し後作としては全部麥作とす即ち次の如き輪栽法を行ふ

第一年 南瓜、早生方領(早期栽培)、麥

第二年 胡瓜、小蕪菁早生方領(晚期栽培)、麥

第三年 茄子、蕪菁、麥

以上の如くにして前作により早期、晩期の二栽培あれども南瓜の栽培最も廣きを以て早期栽培を主とす

一、整 地

八月上旬南瓜除去後充分耕鋤を行ひ畦巾二尺の高畦を作る事方領大根と異なる事なく其頂に足跡を附し下種の準備をなす

一、下 種

下種の時期は前作物の關係上一定ならざれども早き

は八月上旬とす先づ足跡の部に稀薄なる人糞尿を施し乾くを待ちて下種覆土す尙時下高温に過ぎ乾燥甚しき爲め發芽を誤る事あれば朝露の未だ乾かざる前若くは夕方下種し出來得る限り日中に行はざるを可とす

一、間 引

間引は四回行ひ最後に一本とす第一回は發芽後一週間位にして本葉の一枚を開展せんとする頃にして一ヶ所五本を残し第二回は其後十日位にして行ひ一ヶ所三本とす而して其後一週間置きに二回行ひ一ヶ所一本を存立せしむるものとす

一、肥 料

肥料の種類は主として菜種粕及大豆粕を施し此れに人糞尿、堆肥を補足し原肥としては人糞尿のみにて全部追肥とす

次に一畝歩に施用する肥料の用量を示せば

肥料名	總量	原肥	一回補肥	二回補肥	三回補肥	四回補肥
菜種粕	11,000	—	1,000	1,000	—	—
人糞尿	11,000	1,000	5,000	5,000	—	—
堆肥	10,000	—	10,000	10,000	—	—

第一回補肥は第一回間引の際にして通稱「アゴ」なる場所に施し覆土す尙第三回間引の節前回と反對の場所に施し第二回の土寄を行ふ而して其後一週間置きに二回人糞尿を畦間に施用す

一、中 耕

中耕は二回にして第一回は第一回間引の節にして淺く打ち起し土寄をなす而して其後第二回補肥の節同様打ち起し土寄を行ひ成畦す

一、收穫及販賣

收穫の早きは下種後六十五日目にて行ひ得るものなり即ち八月上旬下種のもの十月月上旬よりして一畝歩より上品二百五十本中品百本位にして大根を引抜き直ちに藁を以て葉部を結束土を落し丁寧に洗滌し然る後磨砂を以て皮部を摩擦し荷籠に盛りて市場に販出す

市場は枇杷島及中央市場の兩所にして價格は一定せざれども高價の場合は一本拾五、六錢に販賣せらるゝも普通上品にて一本五錢一畝歩かり能く拾貳、參圓の收入あり
種子は西春日井郡西枇杷島町字小場塚及海部郡大治

以上の大根を漬け名古屋は勿論縣外に移出せしも氏の老衰と後繼者無きとの故を以て今を去る八、九年前に廢業し閑居の世を送り居れり然れども氏の宅は昔の俣を存し全盛時代の倉庫及漬物樽を有し同志者に貸與しつゝあり而して現今に於ては柴田初右衛門、加藤錠右衛門及大字廣路成田錠右衛門氏等は龜井太助氏の全盛時代と等しく大規模に經營し小樽十二石入りより大は三十石入の大小樽を混合し何れも二百有餘樽を装置し年々百萬本以上の澤庵漬を造り名古屋、豊橋、金澤等の各師團に納付し尙關西及滿韓地方に輸出の盛況を呈しつゝあり尙當地方農家に於ては小樽の二乃至五個を漬け名古屋市に小賣となすもの甚だ多し

二、位置及土質

御器所村は東海道熱田驛より東北約一里名古屋市に接續し全市の東部に位し高乾の土地にて旱天の際は往々旱害を蒙むる事あり土質は餘り肥沃ならず第三紀新層と礫質壤土なるを以て漬物大根の栽培地としては至極好適の地とす

村大字北間島の二ヶ所にて採種販賣す

第四節 御器所大根

一、沿革

御器所大根は愛知郡御器所村の原産にして宮重、方領に次て其生産額多く漬物大根として其名各地に喧傳たり之が栽培起因を尋ぬるに記録の徴すべきものなきを以て詳知する事能はざるも該種の世に知られしは全村大字御器所萬屋龜井太助氏の創業に依り澤庵漬として販賣したるものにて當時萬太大根を以て冠たり氏は漬物には最も巧みなるものにて大根漬物の外茄子の芥漬、越瓜の奈良漬、西瓜の丸漬等をなし殊に西瓜の丸漬は氏の最も得意とせらるゝものにて當時尾張侯の藩士に歡迎せられ江戸土産として御用を蒙りたるものなりと云ふ、現代太助氏は創業者たる萬太氏の實子なるも既に八十餘歳に老人なれば其父たる太助氏の創業當時既に御器所地方に栽培せられたるものとすれば百餘年を経過せしは疑なしとす現代太助氏は五十年前より漬物業を受継ぎ數年間就業し最も熱心に又大規模に行ひ年々百万木

三、特性

御器所大根は宮重大根の變種なる事疑を要せず然れども宮重地方の如く土地豊沃ならざれば形狀小に肉質緻密にして硬く青部多く頭部稍細く中部に至り大となり尻に至り細くして尖り大部分澤庵用に使用し然れども形狀の小に過ぐるは本種の缺點とす

四、栽培法

前作物の跡地を深耕丁寧に整地し幅一尺八寸の揚畦を造り頂にを足を以て條溝を附し稀釋なる人尿を注ぎ播種するを普通とす
下種は從來二十日頃に施行したるも成育過度にして大なるものを得るも其品質劣悪なるを以て明治三十九年より興業會の規約により品質の齊一を期せんが爲めに二百二十日と改めたり而して前記の揚畦に一反歩一升内外の種子を播下し足にて薄く覆土す間引は三回に行ふものにて第一回は發芽後一週間以内に行ひ第二回は其後一週間を経て施行し第三回は尙二週間以内になすものにて各株間を五寸位とし一反歩一萬本内外の割合として殘存す

肥料は原肥として練粕を使用するものなきにあらざるも普通原肥補肥共人糞尿を専用とす一反歩の用量は人糞尿四十五荷内外とす
施肥の方法は一定せざれども普通三回に行ひ其時期は各間引後にして尙其後一、二回行ふものあるも甚だ少なし

收穫は十二月上旬頃より行ひ拔取後直ちに五本乃至六本つゝを一束となし圃場にて屋根形の「はさ」を設け茲にて葉部附着の儘乾燥し二、三十日間を経て漬物業者に販賣し又は自家にて漬物となす

第五節 堀江大根

一、沿革

堀江大根は西春日井郡新川町大字西堀江の原産にして宮重、方領大根等の世に知られたるに比し其の名顯はれざりしは栽培沿革の新らしきと今一面に於ては土地の保守主義より栽培反別を増加すれば自然其販路を妨げられ價格の下落を來すべしと云ふ愚なる考より世に發表するを忌み加ふるに一時絶体に種子の分與をなさざりし等全く秘密主義を取りし爲とす

而るに今や時勢の進運と共に之等主義の入れられざるも栽培販路擴張の必要を自覺し競いて之れが普及に努力せし結果現今に於ては西堀江のみにても十余町歩に及び其他隣郡隣町村に迄も栽培せらるゝに至り至面積百町歩内外に達し愈々増加の傾向を有するに至れり

本種の來歴に就きては詳かならざれ共古老の言に依れば當地方には從來堀江大根と稱し宮重、方領等と異りたる一品種を栽培せり然るに今を去ること約六十年前當字の水谷彦兵衛なるもの名古屋市の某家に奉公中主人の東京に轉居するや又隨つて彼地に趣けり元來農事に趣味を有する彼は暇を得て故郷に歸るに及び土産として練馬大根の種子を持ち來りて之れを分ち與へたりかくて本種の栽培中從來の堀江大根なるものと練馬との間に自然雜種を生じ多年の選抜淘汰を経て遂に現今の如く一品種を形成するに至る

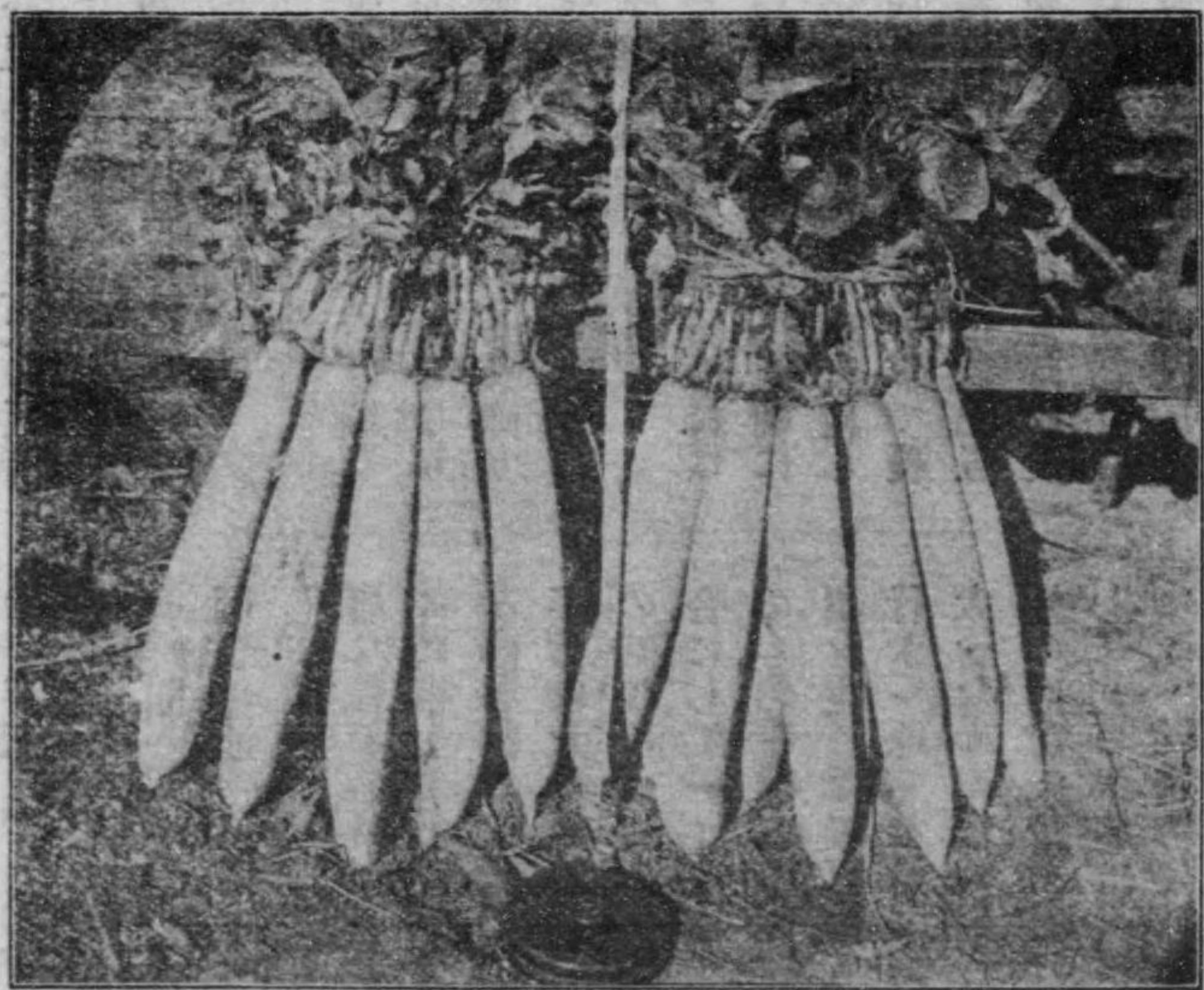
二、特性

堀江大根は練馬大根中の尻太系に類似して色澤純白なるも形狀は練馬に比すれば稍細少なり膚は極めて

滑かにして美しく其肉質は甘味水分に富めども緻密なるを特徴とす葉は上向性稍淡色にして欠刻練馬大根の如く最小ならず寧ろ宮重系に近き形狀を有す主に漬物業殊に淺漬用に適し煮食するも亦佳味に富む

三、栽培法

一、輪栽及整地
元來大根は連作を可とするものなれども多年の連作は反つて多量の肥料を要し時に或に病虫の被害多き憂へあり故に本地方にては三、四年後には一回休閑せしむるを例とす今大根と前後の關係を有するものを示せば次の如し



(一) 麥

茄子又は黍

大根

後備中鉞を以て成可深く荒耕しをなし風化を充分な

(二) 麥

瓜類又南瓜

大根

(二) 麥

里芋又甘藷 大根
大体右の如き方法に依るも前作として最も良好なるものは瓜類又は甘藷にして黍作之に次ぐ而して夏作物收穫後は播種前一週間乃至二週間地面休閑せしむるを普通とす殊に前作にして多量に於て然りとす之れ休閑を與へずして直ちに播種する場合は發芽後の成長悪しく土際より往々倒臥し又は自然に萎縮消滅し或は中途にして枯死する物を生ずる事多きを以てなり
休閑の方法は先づ前作收穫

らしむるものにして豫定の時日を経過する時は此處に於て精耕細碎を行ひ畦巾一尺八寸乃至二尺の巨離を以て揚畦を形成し其後「こまざら」を以て畦上を均平ならしめ株間として八寸乃至一尺の巨離に足跡を印するものとす

一、播種

播種期は二百二十日前後一週間を最も適期とし其の早きに失すれば生育良好なりと雖も肉質輕鬆となり且つ中身に黒線を生じ品質劣悪となる憂あり又餘り晚きに失すれば品質優良なりと雖も生育極めて遅緩となり大形のものを得るに至難なり

播種量は反當八合乃至一升なれども良苗を得んには稍多量に播種し適宜間引を以て便とす而して播種には前記の足跡に二倍乃至三倍に稀釋せる人尿を施し其乾くを待ちて一個所十粒内外を点播し足を以て覆土を行ひ軽く鎮壓す尙覆土後は鍬を以て更に其上五分乃至一寸位の厚さに盛土を行ふ之れ播種當時過度の乾燥或は強雨等ある場合には爲めに覆土固結せられ種子の發芽に困難なるのみならず發芽後の成長良好ならざるが爲なり元來大根は三十六時間乃至四十

八時間を経れば發芽するものなるを以て此の機を逸せず手又は「こまざら」にて芽を損せざる様前記の盛土を除去し以て發芽に使ならしむ

一、間引

間引は通常三回に行ひ第一回は發芽後一週間以内に於て葉色濃厚なるもの及び勢力弱きものを除去し中庸なるもの四、五本を残存す尙次で此際嫩苗の根元には細土の土寄を行ふ即ち両手にて周圍の土壤を揉み碎き苗の根元に(杓子葉に至る迄)土寄をなす此の手當は大根栽培上最も重要なものにして兎角嫩苗の時代には風雨の爲め倒伏屈曲するもの多く此の場合にして一度及び屈曲せんか到底將來形狀整正眞直のものを得る事困難なり第二回間引は本葉二乃至四葉を生じたる頃即ち第一回間引後十日内外に之れを行ふ一株三本とす其後三週間内外にして根部の小指大となりたる頃第三回間引を行ひ一個所一本立とす此の間引中第二回及第三回は成可早く行ふ事有利にして其の早晩は大根發育上至大の關係を有するものなり

一、施肥及中耕

處の儘を記せば次の如し

- 一、練粕は品質佳良にして味最も良し
- 一、大豆粕は葉部の發育旺盛濃緑にして甘味に乏し
- 一、棉實粕は根葉共に形小なり
- 一、油粕は根部の成育不良にして莖葉を徒長せしむる傾向あり
- 一、人糞尿を多用せば外皮厚し

四、收穫及用途

本種は主に淺漬用として賞用せらるるものなれば其收穫期の如きも一定せず、發育良好のものなれば播後種六十日内外にして拔取り葉付の儘十本を以て一把となし洗滌の上市場に搬出す又加工の上搬出せんとする時は朝(午前十時前後を云ふ)拔取り圃場に於て其儘放置乾燥し其の日の夕暮又は翌日集め來りて葉層を以て土を落し漬物となすものとす

淺漬の方法は普通四斗樽を用ひ一樽凡そ百二、三十本の大根を入れるに足る而して大根一重毎に米糠、鹽の混合物を撒布し最後に四、五十貫の重石を置き一

肥料の種類は區々にして一定せざるも主に堆肥人尿尿の外に練粕、大豆粕、綿實粕、油粕等を使用す而して此等の肥料は間引及中耕と相俟つて施用するものにして其用量を示せば左の如し(但し一反歩當)

肥料名	總量	原肥				
		第一回補肥	第二回補肥	第三回補肥	第四回補肥	第五回補肥
種子粕	十四貫	七貫	七貫	七貫	七貫	七貫
練粕	五貫	五貫	五貫	五貫	五貫	五貫
人糞	五十貫	五十貫	五十貫	五十貫	五十貫	五十貫
人尿	三百貫	六十貫	六十貫	六十貫	六十貫	六十貫
堆肥	三百貫	百五十貫	百五十貫	百五十貫	百五十貫	百五十貫
灰	二十貫	十貫	十貫	十貫	十貫	十貫

注(堆肥と雖も充分腐熟したる殆んど肥土の如きものとす)

右肥料中原肥は播種前足跡に施すものにして第一回の追肥は第一回の間引後畦の一侧に淺溝「俗に「おごと云ふ」を切りて之れに施し土寄をなす其後第三回間引の際第三回補肥として第一回補肥の反對側に施し成畦をなし其他の施用肥は常に溝内に施するものとす

肥料の種類は生育及品質に大なる關係を有する者たる事は言を俟たず今當地方に於て一般に稱せらるゝ

週間乃至十日間を経て賣出すものなり、一樽に對する米糠及塩の分量は凡そ次の如し

米糠 三升 塩 一升

尙塩の量は販出の早晚に依りて差あり即晩く販出するに従ひ順次に増加するものとす

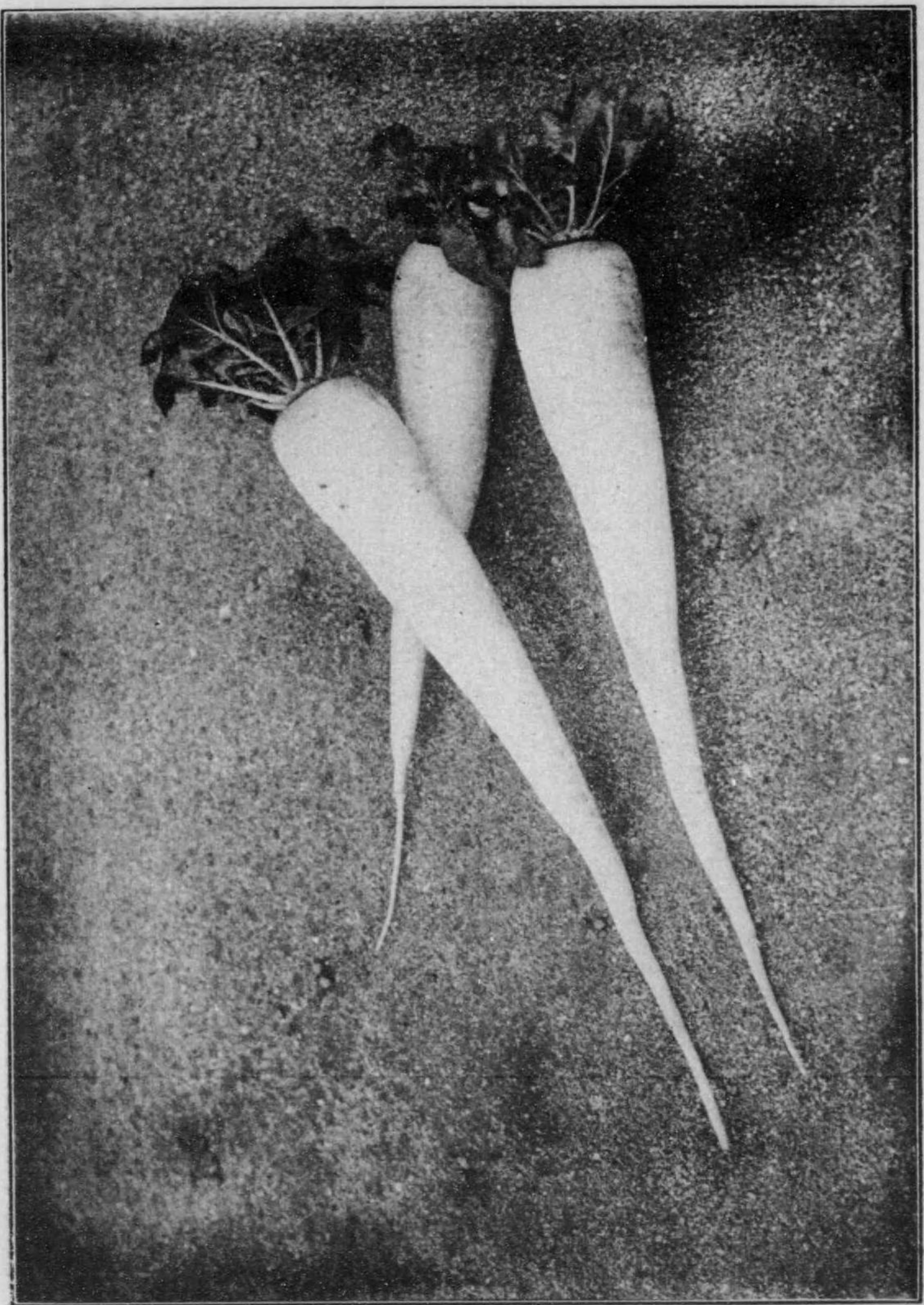
又淺漬の外澤庵漬にも供せらるゝもの多く其乾燥法及漬方は一般澤庵漬法に依る

第六節 春福大根

春福大根は西春日井郡清洲町附近に於て近來盛に栽培せられ其の面積僅少ならず性極めて晩生種にして普通春大根と稱せられ秋蒔の者が翌春三月頃迄も品質尙變せずして大根其他の野菜物の欠乏を來せし頃收穫するものにて青物市場に於ても大に歡迎せらるゝ有望なる大根なりとす

一、沿革

此の大根の起原及び來歴は鮮かならざれども口碑の傳ふる處によれば今を去る事百餘年以前清洲町某氏



春福大根

の大根畑に生じ其の葉色の濃厚なると葉形の他種と異なりし爲め其儘に生育せしめ冬に至りて積雪甚だしく他種の大根は皆枯死せしにも拘はらず何の變化なき爲め益々不思議に思ひ採種し翌年栽培せしに其成績良好なりしかば近隣の同士に種子を配布せしに始まると云ふ

二、特性

根部の形狀は長き紡錘形をなし地上に現はるゝ事少なく肩部より白色なる事方領大根の如きも長きものは三尺以上にも達し甚だ見事なり
肉質は緻密にして柔軟甘味多く苦味なき爲め煮食用に適す葉は濃綠色にして圓味を帯び葉肉厚く白色の毛茸を以て覆はれ葉は向上性を有せず地面を覆ふものとす

然れども現今春福大根の一變種を多く栽培せらるる同

種は原種に宮重大根の雜種せしものならん根部は甚だ太く原種の如く紡錘形ならずして根部に至る迄太し首部は宮重大根の如く地上に現はれ青味を呈す肉質は原種に大差なきも稍々甘味多きが如しされども原種に比し寒氣に耐ふる力弱きを以て翌年迄其儘になし置くを得ずただ此種の特點は栽培容易なること形状大なるにあり

三、栽培法

一、輪作

前作は主として南瓜、胡瓜、茄子等の夏作物にして後作は春蒔人參、春蒔牛蒡等にして大根は殆んど連作とす

一、土質

他の大根に比し根部長きを以て従つて土質も深く且つ肥沃ならざるべからず殊に砂質壤土に於ては美麗なる大根を産するものとす

一、播種期

收穫期晚きを以て従つて晚播とし普通二百十五日乃ち九月七、八日頃を最も可とす

一、播種法

普通畦巾二尺にして株間一尺二寸位畦は高畦にして足跡を附け人糞尿の稀薄液を施し乾くを待ちて一ヶ所に付き種子十粒内外を下種直ちに覆土す、基肥としては別に他の肥料を施さず

一、施肥及中耕

肥料は練粕最も可なれども普通大豆粕を施用す、補肥としては數回に人糞尿の稀薄なるものを施用す次に當地方に於て一畝歩に施すべき肥料の量を示さん

肥料名	總量	原肥	補一	補二	補三	補四	補五
大豆粕	四、三五〇	—	八五〇	—	三、五〇〇	—	—
堆肥	三〇、〇〇〇	—	一五、〇〇〇	—	一五、〇〇〇	—	—
人糞尿	四〇、〇〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇

第一回補肥 第一回間引後直に施し同時に第一回の中耕をなす

第二回補肥 本葉二三枚の頃にして溝内に人糞尿を施用す

第三回補肥 第二回補肥後十日内外にして施し同時に第二回の中耕を行ひ成畦す此の中耕の期は普通

下種後一ヶ月以内なりとす

一、間引

間引は普通三回に行ふ

第一回間引 發芽後三四日にして甲折葉充分開張し本葉の未だ發生せざる頃にして一ヶ所五、六本となす

第二回間引 第一回間引後一週間内外にして本葉二枚の頃行ひ一ヶ所三本位になす

第三回間引 第二回間引後十日を経て第三回の間引をなし一ヶ所一本とす

一、間引上の注意

春福大根の性状は前述せる如く他種と甚だ異なる点多きを以て間引には殊に注意すること栽培上極めて必要なり即ち幼少の頃に於て葉の形狀圓形少しく濃綠色を呈し欠刻甚だ少く且つ葉の地表上に伸び上らざるものを残し葉の欠刻多きもの色澤淡綠色のもの等は皆除去せざる可からず

四、收穫

早收のものは一月頃より行ふも最好期は二月中旬より

り三月上旬の頃なりとす

五、調製

收穫せしものは葉を以て葉を把ね根部の土砂を洗ひ落し後磨砂を附して磨き汚点を去りて青物市場に搬出賣却す

第七節 胡蘿蔔

一、沿革

胡蘿蔔は古來より重要野菜として午莠と並び汎く栽培せられしものにて各地に名産地乏しからず牛莠と同じく根部の長大美麗なるを尊ぶが故に良品は多く沖積地の砂質壤土又は壤土の豊沃地に生産するを普通とす

縣下に於て最も有名なる産地は丹羽郡布袋町及寶飯郡豐川町の兩所とす此の外近時洋食向及浦鹽輸出として洋種即ち三寸胡蘿蔔を盛に栽培するに至れり左に參考の爲め熱心なる栽培者の氏名を列記すべし

(一) 在來種

丹羽郡布袋町大字寄木

永田政市

全	大字小折	永田銀太郎
全	大字今市場	宮川捨松
全	大字五明	宮川仁兵衛
全	大字中奈真	暮石豊人
全	寶飯郡豐川町大字當古	吉村藤左衛門
全	八名郡橋尾村字橋尾	大島甚七
全	愛知郡荒子村大字大嶺郷	前田鐵二
全	大字中須	前田藤太郎
全	野崎綱次郎	鈴木由太郎
全	野崎富次郎	岩田谷十郎
全	柘植治三郎	鈴木孫左衛門
全	布目鉄次郎	中西又市
全	西川藤七	中山林次
全	下ノ一色村大字下ノ一色	天野豊助
全	下ノ一色村大字下ノ一色	小林鉄三郎

栽培の起因は記録の依るべきものなきを以て詳細を知るに由なきも丹羽郡布袋町の如きは數百年前より

栽培し同町大字小折にありては當時村瀬甚三郎なるもの年々江戸板屋橋より胡蘿蔔及菜種の種子を取寄せ販賣栽培したるを以て嚆矢とす然るに形狀優大風味佳良なれば小牧陣屋に上納し代官より非常の賞賛を受け漸次其名聲高まり遂に同地方の特産として一般に熟知せらるゝに至れり
明治五、六年頃關西地方より種子を購入し品種の改良を謀り栽培の技術次第に進歩し今を去る二十年前より布袋胡蘿蔔の名聲市場に高く日露戰爭當時に至り軍用品として切干に製造する等需要激増し栽培反別を増加し或は採種を専門となすものあり遂に縣下胡蘿蔔栽培の本場とも世に知らるゝに至りたるも昨今養蠶事業の勃興より桑園擴張の結果年々栽培反別を減少しつゝあり
寶飯郡豐川町にありても百數十年前より栽培するものにして舊幕時代當地方の名産として尾張産と並び稱せられたり然れども布袋地方に於ける如く畑地の多くは桑園と化し栽培反別は漸次減退しつゝあり
洋種は明治二十年愛知郡荒子村野崎德四郎氏の初めに栽培したるものにて同氏は種子を東京より取寄せ

試作せしも需要者至て少なく僅かに名古屋市内洋食店に於て使用せしに止まりたるも今より四年前浦塩方面へ輸出の途開け其結果収益多く栽培者を増加するに至り殊に本種は短根種なるを以て在來種の如く土壤の深きを要せざれば至る處栽培に適當するものとす現今輸出蔬菜として重要な位置を占むるに至れり

二、地勢及土質

布袋町は尾北丹羽郡の中央に位し地勢平坦にして地層は表土尤も深く丈餘に及ぶ處あり下層に石礫を存するより見るも木曾川の沖積により形成せられたる第四紀新層なれば土地甚だ豊沃にして諸作物の栽培に至適す

豊川町は東三豊川稻荷の所在地にして胡蘿蔔の良品を産するは大字常古、土筒の兩地にして豊川に接したる沿岸一帯とす地味甚だ肥沃にして表土深く細微なる砂粒を混する粘壤土にして布袋地方と畧ば同様なり

西洋胡蘿蔔の栽培地たる愛知郡荒子村は愛知白菜の

畦巾を一尺八寸となし二、三回深耕し土塊を能く細碎膨軟ならしめ一反歩に付糞灰二、三十貫匁を敷き然る後畦を作り足跡(連続して)を附し稀釋したる人尿を灌注するものとす

一、播種

足跡の前後に二十粒内外の種子を點下し手にて能く土を揉み薄く覆土し其上を足にて軽く鎮壓し麥稈を布き以て乾燥及風雨の害を防止す

播種の時期は七月中旬にして普通土用入十日前とす一反歩の下種量は三升内外を要す

一、間引其他の手入

播種後七、八日を経過すれば發芽するを以て麥稈を除去し株元に敷き八月上旬若くは中旬第一回の間引をなし覆稈を畦の側溝の中へ敷き施肥をなし同月下旬若くは九月上旬第二回の間引をなし四、五寸の距離を保たしめ一本立となし除草は時々之れを行ふものとす

一、施肥及耕鋤

補肥は三回に行ひ耕鋤は二回にして第一回は第二回施肥の際畦の側に淺く鋤にて溝を設け其中に施用

項に於て詳述したるが如し

三、栽培法

(一) 丹羽郡布袋地方の方法

一、品種

沿革の項に記載したるが如く栽培の當初は江戸胡蘿蔔と稱し東京大長胡蘿蔔を栽培し居りたるも明治五六年頃關西地方より大胡蘿蔔一名西京胡蘿蔔と稱するものを移入し多年兩種を栽培し來りしより其間に於て自然淘汰の結果兩種の特徴を具備する中間種を生じ遂に布袋胡蘿蔔の一品種として世に認めらるゝに至れり

一、輪栽法

輪栽法は隔年栽培にして其前作としては茄子、芋を主とし翌種は成績餘り良好ならず其一例を示せば

第一年 午莠(早生) 胡蘿蔔
 第二年 麥 芋 胡蘿蔔

(或は麥の跡に直ちに胡蘿蔔を作付するものあり)

一、整地

し土寄をなす、第二回は第三回施肥の際前作麥の刈株を溝に伏せ株跡に施用し再び土寄をなす而して施肥の用量及時期左表の如し

肥料名	整地の際		計
	第一回 間引の際	第二回 間引の際	
糞	八十貫	十六貫	九十六貫
人糞尿	六十貫	六十貫	百二十貫
堆肥	六十貫	六十貫	百二十貫
灰	二十貫	十貫	三十貫
			四百四十貫

一、收穫及販賣の方法

收穫の時期は十月下旬より二月下旬の間とし其方法は長さ二尺四寸幅二寸厚さ三分位の「金籠」を以て掘取るべき胡蘿蔔の兩側に差込み幾分「ユルミ」を與へて然る後に抜き取るを以て少しも損傷する事なく收穫し得るものなり

一反歩の收量は普通六、七百貫とす斯くして掘取りたるものは上、下に區別して上品は其儘販賣するも下品は一把十本つゝに東ね市場へ搬出するものとす販路は一宮若しくは岐阜地方へ多少出荷するも大部分枇杷島市場とす

本場にては布袋胡蘿蔔の精良なる種子を各地に供給すると同時に採種法の模範を示さんが爲め明治四十年該地に委託採種地を設置し永田政市に担当を命じ本種の改良普及を圖れり大正二年以來 陛下名古屋離宮御駐泊の砌り數度天覽の光榮に浴し尙近くは大嘗祭机代物として上納の榮與を辱ふするに至れり

(二) 寶飯郡豊川地方の方法

栽培の品種は大部分清國大長胡蘿蔔と稱し種子は多く千葉縣下より取寄せ栽培するもの多し

一、整地

前作物は多く麥、午麥にして輪栽の方法は布袋と大差なし
右前作物の跡地を充分耕起し畦巾二尺三寸乃至二尺五寸の稍高き揚畦を作り足にて蔕條を設け播種するものとす

二、下種

足跡の中へ直ちに種子を下し足にて覆土鎮壓す一反歩に要する種子量は二升内外にして下種の時期は七月中旬を通例とす

一、間引其他
間引は八月上旬及下旬の二回に行ひ其方法は布袋地方と大差なし

補肥は第一回を九月上旬に行ひ其方法は畦の兩側を鋤にて浅く削り練粕一反歩當十五、六貫を施用し浅く土寄をなす其後一、二回人糞尿を施すのみにて別に深く耕作をなさず

一、收穫及販賣

收穫及調製の方法は布袋と大差なく販路は主に豊橋市場にして下等品は師團馬糧用に供するものあり

(三) 愛知郡荒子村地方の方法

一、品種

一般栽培する品種は三寸胡蘿蔔と稱し居るも札幌胡蘿蔔(原名アトリッシュヨートホーン)より來りたるものなるべし

一、下種

下種は二月下旬乃至三月上旬にして前作物たる白菜甘藍、花椰菜の跡地を打起し、畦巾二尺となし元肥に堆肥一反歩當二百貫、真粉粕二十貫、人糞尿三百貫、糞灰二十貫を畦下に鋤込み半畦となし其頂上を

足にて横に踏み付け平たくなし其上に稀釋したる人尿を注ぎて種子を撒播となす播種量は一反歩毛除種子一升位とす、下種終りたれば其上は糞灰二十貫、堆肥百五十貫を覆ひ鋤にて薄く細土を振り掛け鎮壓するものとす

一、間引及補肥

發芽十日を經過し第一回の間引を行ひ人尿百五十貫(一反歩)を畦上に灌注す此の際豫め畦の一侧に淺く溝を掘り水肥の流出を防止す其後更に十日を経て第二回の間引を行ひ(間引は葉の色澤形狀に異狀あるものは勿論莖の太きものは除去するものとす)二寸平方に一本の割合となす夫れと同時に第二回施肥を行ふ此の場合は前と反對なる畦の一侧に人糞尿百五十貫を施し少しく土寄をなし其他別に補肥耕鋤をなさず

四、收穫及販賣

收穫は二回に行ひ第一回は通常六月上旬にして此の際には五、六本を一束となし市場に出し第二回は六月中旬乃至下旬にして根部を洗滌し大形のは其儘

なれども中形以下のものは第一回と同様束ねて市場に販賣す販路は大部分枇杷島市場にして此等は同市場一、二間屋業者の全部を取纏め浦塩へ輸出するものとす近來當業者の直輸出を行ふものあるに至れり

第八節 牛 蒡

一、沿革

牛蒡は重要蔬菜の一つにして比較的古くより栽培せられ縣下至る處多少の栽培を爲すも該種は土質に依り其區域を制限せらるる事多きを以て各産地にありても其面積は比較的小部分に止まるを通例とす元來本縣は河川に富み其沿岸は耕土深く豊沃なれば牛蒡の栽培に好適し従て古來より著名の産地少なからず就中最も優品を生産するは左記數個所とす

- 丹羽郡 古知野町
- 葉栗郡 淺井町大字小日比野、河端
- 全 草井村
- 中島郡 朝日村大字玉野
- 全 大和村大字福森、明光寺、毛受
- 丹羽郡 西成村大字時之島、柚木、小赤見
- 八名郡 豊津村大字豊津
- 全 三上村大字三上

大豆郡 三和村大字小島、江原、西淺井
 寶飯郡 豐川町大字當古、土筒、向河原
 次に此等主産地に於ける熱心なる栽培者の氏名を示すべし

丹羽郡古知野町大字高屋	野木森喜三郎
全	増田文一
全	古田太七
全	瀧忠男
全	河村宮太郎
全	服部夏五郎
全	武内勝三郎
業栗郡淺井町大字小日比野	長谷川源次郎
全	長谷川喜右衛門
中島郡朝日村大字玉野	小川重吉
全	小川松次郎
全	成瀬重五郎
全	日置甚右衛門
全	岡本富三郎
全	赤塚淺四郎
八名郡豐津村大字豐津	市川鐵藏
全	山本源太郎
全	能勢幸八
全	杉山源三郎
全	三上村大字三上
幡豆郡三松村大字小島	大河内竹三郎

三六

全 全 全
 全 全 全
 寶飯郡豐川町大字當古
 全 全 全
 丹羽郡西成村大字柚木風
 全 全 全
 大字小赤見
 淺井清太郎
 安藤民次郎
 天野豐助
 中西又市
 大河内重吉
 櫛木象藏

二、地勢及土質

牛蒡の良産地は前記の如く何れも河川流域の地にして尾張部の如き東北部を除くの外は何れも木曾川の沖積によりて生じたる第四紀新層の地にして就中栽培の地は表土の深き砂質壤土とす
 三河部の如きも亦矢作及豊川兩川の沿岸地に限られ何れも第四紀新層の壤土又は砂質壤土にして表土最も深し

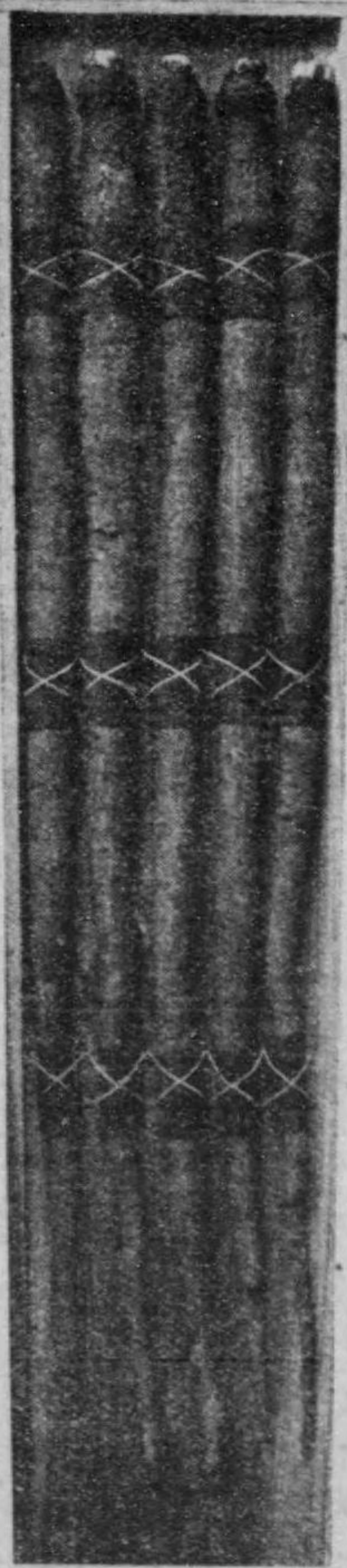
三、栽培法

一、品種

一般に栽培する品種は「瀧の川」種にして年々東京より種子を移入するものにして青莖、赤莖の二種あり其他大長と稱するものを栽培し年々採種をなし他地方へ供給するものなり

一、輪栽

輪栽の關係は地方により多少の相違あるものにして從來は普通四、五年の輪栽をなせしも近來桑園の擴張と共に栽培の土地少なく其結果三年若しくは隔年に栽培するものもあるも通常三、四の輪栽をなすもの多し



古知野産牛蒡

前作物の如き地方により相違し黍、粟、油菜、薑、里芋等區々にして一定せず今左に輪栽の一例を示せば
 三年輪栽

牛蒡、麥—薑、麥—里芋、牛蒡
 五年輪栽

胡蘿蔔、麥—甘藷、麥—桑苗、麥—甘藷、麥—粟、牛蒡

一、整地

整地の方法は各地共千差萬別にして主産地の大体を示せば左の如し

(一) 丹羽郡古知野町

畦巾二尺七寸
 高さ一

(二) 幡豆郡三和村
 畦巾一尺八寸高さ四、五寸掟木を以て三角形の溝を立て條播となす

(三) 中島郡朝日村

畦巾二尺とし畦二本を隔て、一本を空畦とし一尺五寸の間隔に足跡を附し點播となす

(四) 中島郡大和村
畦巾一尺八寸とし畦一本を隔て、一尺五寸の間隔
に足跡を印し点播となす

(五) 八名及寶飯兩郡

畦巾二尺四寸とし高さ四、五寸に唐鍬を以て巾三
寸の溝を造り其處に條播となす
播種期其他に付ては各地多少の相違あれば左に表記
すべし

作 業 別	播 種 期	播 種 法	間 引	施 肥 量 (一反歩當)
丹羽郡地方	秋 蒔 九月 廿日 春 蒔 二月 下旬	足跡に溝を注ぎ人糞を施し七 八粒につき点播し土を 手でつみみみ薄く ふに軽く鎮壓し ふのこす	第一回 四月 中旬 第二回 五月 中旬 第三回 七月 中旬 第四回 八月 中旬	人糞 二百五十貫 人糞 二百五十貫 人糞 二百五十貫 人糞 二百五十貫
幡豆郡地方	秋 蒔 九月 中旬 春 蒔 三月 中旬	溝に溝を注ぎ汚水を注ぎ條 播後足にて覆土鎮壓し 溝を覆ふのこす	第一回 三月 下旬 第二回 五月 中旬	汚水 二百四十貫 人糞 二百四十貫
中島郡地方	秋 蒔 九月 中旬 春 蒔 三月 中旬	足跡に溝を注ぎ人糞を注ぎ 五粒づつ点播し手にて覆 土す	第一回 四月 中旬 第二回 五月 中旬	人糞 二百三十貫 人糞 二百三十貫
八名郡地方	秋 蒔 九月 下旬 春 蒔 二月 中旬	溝に溝を注ぎ人糞を注ぎ 注ぎ溝を注ぎ人糞を注ぎ 曹五號及灰を被ひ足にて 覆土す	第一回 三月 中旬 第二回 四月 中旬	人糞 二百四十貫 人糞 二百四十貫

施 肥 法	施 肥 量
第一回補肥(五月下旬) 貫 第二回補肥(七月中旬) 貫 第三回補肥(八月下旬) 貫	人糞 二百四十貫 人糞 二百四十貫 人糞 二百四十貫
第一回補肥(三月下旬) 貫 第二回補肥(五月中旬) 貫 第三回補肥(七月中旬) 貫 第四回補肥(八月下旬) 貫	汚水 二百四十貫 人糞 二百四十貫 人糞 二百四十貫 人糞 二百四十貫
第一回補肥(五月下旬) 貫 第二回補肥(七月中旬) 貫 第三回補肥(八月下旬) 貫	人糞 二百四十貫 人糞 二百四十貫 人糞 二百四十貫

第九節 蕪 菁
一、沿 草

秋冬の候青物市場に集中する白色美大にして外來者
の眼に映する一種の蕪菁あり聖護院に酷似するも形
狀偉大にして外觀の優美なる事本種の右に出するも
の少なし栽培區域は比較的廣く海部郡大治村全部及
甚目寺村萱津、西春日井郡春日村其他各地に於て栽
培し殊に優品を以て名あるは大治村字長牧及甚目寺
村字萱津の一部なりとす尾張地方にては本種を大治
蕪菁と稱し種子も該名稱を附し他府縣に販賣しつゝ
あり

種子の生産地は萱津及長牧の二個所にして全地方に
て凡そ三十人程採種をなし其生産額四石以上にして

他府縣への販賣は明治四十一年以降にして山口縣及
三河地方最も多く縣下に於ける重なる栽培者の氏名
を擧ぐれば次の如し

海部郡大治村字長牧	甚目寺村字萱津	西春日井郡春日村	丹羽郡助治	河口慶四郎	丹羽幸三郎	石川儀三郎	渡邊宗三郎	花井領次郎	星野甚之右衛門	星野金松	後藤爲次郎
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

二、特 性

本種は前述せる如く大形優美にして豊産晩生種とし
て聖護院蕪菁に類似し形狀扁圓莢食に宜敷殊に千枚

漬用として好適す

三、栽培法

一、播種及整地
宮重大根と畧ば同一にして播種期は八月下旬より九月月上旬までにして播種量は一反歩五合内外とす
整地の方法は豫め前作地を深耕細碎し畦幅二尺の揚畦を造り「こまざら」を以て南面又は東面に傾斜せしめ土塊を粉碎し其上に一尺二寸の距離に足跡を印し次で稀釋なる液肥を注ぎ直ちに種子を十粒位づゝ點下し足にて薄く土を覆ひ其上を鋤にて軽く鎮壓するものとす

一、間引

間引は三回にして第一回は發芽後十日第二回は二十五日目第三回は四十日目位に行ひ一個所一本となし一尺二寸の距離に残存せしむるものとす
一、施肥及耕耘
普通使用する肥料は鯨粕、人糞尿にして一畝歩に施用する分量左の如し

元肥補肥	鯨粕	人尿	堆肥	蕘灰	備考
元肥	二十貫	一	一	一	足跡に注ぐ
第一回補肥	四升五合	三十貫	五十貫	三貫	「あすり」を爲し施肥後二週間餘にして土を寄す
第二回補肥	一	三十貫	一	一	横溝を作り施用す
第三回補肥	四升五合	三十貫	五十貫	三貫	前と反對の横溝に施肥し五週間後土を寄せ畦形を完成す
第四回補肥	一	三十貫	一	一	畦間に注ぐのみとす
第五回補肥	一	三十貫	一	一	同上

四〇

四、收穫及販賣

第三回及四回間引たるものは束ねて販賣し本收穫のものは普通十一月下旬より始め一月下旬に終了す收穫したるものは個々丁寧に洗滌し汚葉を除去し殊に根部は磨砂を以て磨き充分白色ならしむるものとす

第十節 蓮根

一、沿革

尾張蓮根又は津島蓮根と稱して全國の市場に稱揚せらるゝ如く實に蓮根は縣下蔬菜の重要なものとして栽培の反別亦尠ならず之れが主産地は海部、中島、西春日井の三郡にして就中海部郡立田村大字戸倉の産最も著名にして同地は尾西線津島驛を去る西

一里弱戸數僅か三十戸に過ぎざるも年々の産額四千貫乃至五千貫にして當地方農家の經濟は全く此の蓮根栽培によりて維持せられ其結果蓮根作の豊凶は農家經濟の消長に至大の關係を有するが如く主要作物にして品質亦優秀彼の河内蓮根及東京府下産の遠く及ばざる處にして勸業共進會品評會等に於て優等の賞與を授領し亦近くは長くも天覽の光榮に浴せし事再度に及べり

縣下に於ける蓮根栽培の最も古きは前記戸倉部落にして之れが由來は詳知し能はざるも口禱の傳ふる處によれば今を去る二百年前に於て南陽寺の住職陽天氏なるもの生來種々の植物を愛翫し適々何處よりか一節の赤蓮を持ち歸り鉢に栽植し懇ろに培養し麗々たる美花の開花したるを以て大に喜び益々繁殖を圖りしに根部又異外に美大なると食用に適するを知りしより直ちに境内の濕田に試植せしに翌年優秀美味なる蓮根を收むるを得たるを以て附近農家に分譲し其栽培を努めたり、當時該地方は木曾川の河底漸次嵩まり其結果悪水の停滯甚しく少しの霖雨に遭遇するも田面一體に浸漬し初夏梅雨の候などは十數日間

地底を見ざるが如き慘狀を呈するを常とし爲めに米作は收穫皆無なる事珍らしからず、此の際に當り寺僧に蓮根栽培の方法を聞き種苗の分譲を受け競ふて栽培に従事するに至れり斯くして陽天住職の偶發的發見の結果一時悲境に沈淪したる當地方農家に九死の一生を得せしめたり爾後栽培法の改良と優品の生産に昂め需要益々増加するに従ひ收利亦多く遂に今日之如く富裕なる蓮根村を形成するに至りしは蓋し偶然と云はざるべからず

從來作付反別及産額の最も多かりしは明治二十三年以前にして海部郡に於ける作付反別二百八十町歩内外其生産額三十二萬貫以上なりしが三十三年木曾川改修工事の結果從來の蓮田を埋没せし爲め其反別を減少するに至れり然るに其後排水溝を設置したれば俄かに作付反別及生産額を増加するに至り現在海部郡の栽培反別は二百七十七町餘歩其産額百一十一萬貫に達し用途は概ね養食に供するも近時乾菜として遠くは北米布哇方面へ盛に輸出するに至れり

海部郡立田村大字戸倉

伊藤房次郎

全郡全村	全	辻新九郎
全郡全村	全	伊藤彌助
全郡全村	全	伊藤健太郎
全郡全村	全	小鹿代四郎
全郡全村	全	中野新太郎
全郡津島町字向島	全	寺本清八
全郡全町全	全	畑田寅次郎
西春日井郡西枇杷島町	全	本多錠太郎

二、地勢及風土

海部郡立田村大字戸倉は尾張の西端部に位し名古屋市を去る西方四里木曾川及廢川佐屋の中間に位し四面平坦にして海岸を距る四里木曾川より伊勢地方に至る舟楫の便あり又一里弱にして津島町に至れば尾西線津島驛より關西、東海兩線に接続し尙名古屋市に至る電鐵の附設ありて交通至便の地とす

當地方は往古伊勢灣の一部なりし事は諸種の記録に徴するも明なる事實なり然るに木曾佐屋の二川（目下佐屋は廢川）により年々土砂の流積地形を形成したる第四紀新層の地なり爾後永年間の土砂流出は漸次河底を高め其の結果排水の不良を來たし悪水は常

に停滯し多くの沼地を生じ稻作の栽培至難にして其の大半は放棄し顧みざりし結果雜草繁茂し表土甚だ深く（五尺以上の個所あり）有機質に富むを以て蓮根の栽培には誠に至適の地とす該地方の今日あるに至りたるは全く土質の賜たりと云わざるべからず數年前排水工事の遂行と共に蓮田を變じて米作を行ふも多きに至れり

土質は蓮根の品質に多大の關係を有するものにして戸倉部落に二種の土壤あり一つは俗に「イラネマ」と稱し其質極めて緻密なる粘土にして他は「マツチ」と稱し細砂土より成り前者は蓮根の色澤及外觀頗る美麗なるも肉薄く風味後者に劣り後者は品質佳良なるも外觀余り美麗ならず

三、品種

品種は前記沿革の項に記載したるが如く赤花種より得たるものにして爾來人為的淘汰に依り改良せられたるものあり全種は花赤く根基肥大にして肉及外皮は稍灰色を帯び肉厚く且緻密なり其他當地方にて産出するものに二、三の異種あり何れも前赤花種の變

種に外ならず

四、栽培法

一、整地

蓮根栽培の地は最と深耕を要し且帶水宜しき地にあざれば優品を産せず戸倉地方にありては新に蓮根を栽植するの地は充分深耕をなし普通三、四尺を掘り其底部に一反歩四百五十貫位の藪を布き然る後田面全部土壤を反轉し肥沃なる表土を土中に鋤込み以て瘠薄なる底土と交換す斯くして助めて土壤を膨軟ならしむ該作業は冬期より發芽前迄に行ふものにして蓮根栽培上最多の勞力を要するものにして人夫賃普通一反歩貳拾圓内外を要するものとす

一、植付

蓮根の繁殖法に二種あり實蒔及苗植法とす前者は稀に行ふものにして一般に行ふは後者即ち苗植法とす

植付の時期は普通八十八夜を最適とす其方法は既に整地の場所に六尺の畦幅に「タネバ」と稱し幅三、四寸深さ一尺長さ適宜の溝を設け根莖を溝に添ひ生根

の方を地上に顯し芽先の方を大切に六、七寸の深さに埋め置くものとす株間は根莖の勢力により多少の相違あるも二尺乃至三尺とす一反歩に要する苗の量は百貫外内とす

種蓮は蓮田にありしものを其儘掘り來り直ちに植付るものにして掘取後時日を経過したるものを使用する事なし亦其際層蓮根を用ゆるものあるも該法は收益迂遠にして多くは小農の行ふ方法なり、普通は殊更美大のものを撰擇使用するを常とす而して種蓮の挿方は少なくも三節以上を有するものにして頂芽（方言頭劔）を地下に挿入し末端は地上に露出するも差支なし斯くして此の頂芽は將來伸長し新蓮根を形成するものなれば上向にするときは頂芽は地下に入らずして水面に伸長し蓮根を成生する事なきを以て頂芽は直下若くは側方へ向けて植付浮揚せざる様泥を載せ置く時は其個所より根を發生し新芽の發生を初め新蓮根を成生するに至るものとす

一、植付後の手入れ

植付後十五日位を経過する時は雜草の生ずる事あるを以て畦間の中耕反轉を行はざるべからず此の作業

を「クレカヘシ」と稱し雜草の生ずる毎に行ひ普通八月上旬頃までに三回位行ふものにして最後は土中に蔓延する種莖を折損する恐れれば鋏を使用せず手に行ふものとす

八月中旬踏込と稱し新株の全部に蔓延したる頃其中に入り脚にて根部を深く土中に挿入する事あり之れ頂芽は其性上方に向ひ伸長するものなれば此の自然性を矯正し新根の成生を容易ならしむるものなり之れを行ふと雖も濫りに新根を折損する恐なきものとす

一、肥料

肥料は人により又土質により相違するものにして普通一反歩に付き苗を植付たる場所に植付後練粕粉十五貫匁餘を施し空間は春期糞又は刈草を鋤き込むものにして其量は糞なれば四百五十貫匁刈草なれば二百五十貫匁とす(刈草は陸軍馬糧の廢物を使用す)更に六月上旬中耕の際練粕粉末を十貫匁内外を施用す尙此の外に挿肥と稱し六月中旬即ち第三番目の卷葉發生の頃其基部なる土中に根元より凡そ四、五寸距りたる處を手にて探り干鰯一本つゝ土中に深さ三、

四寸を挿入するものにして其目的は専ら長大美麗の蓮根を得んが爲めにして該法は最も細密なる栽培者の行ふ方法にして多くの勞力を要し且農繁の時期なるを以て一般に實行するもの少なし

五、繁殖及形態

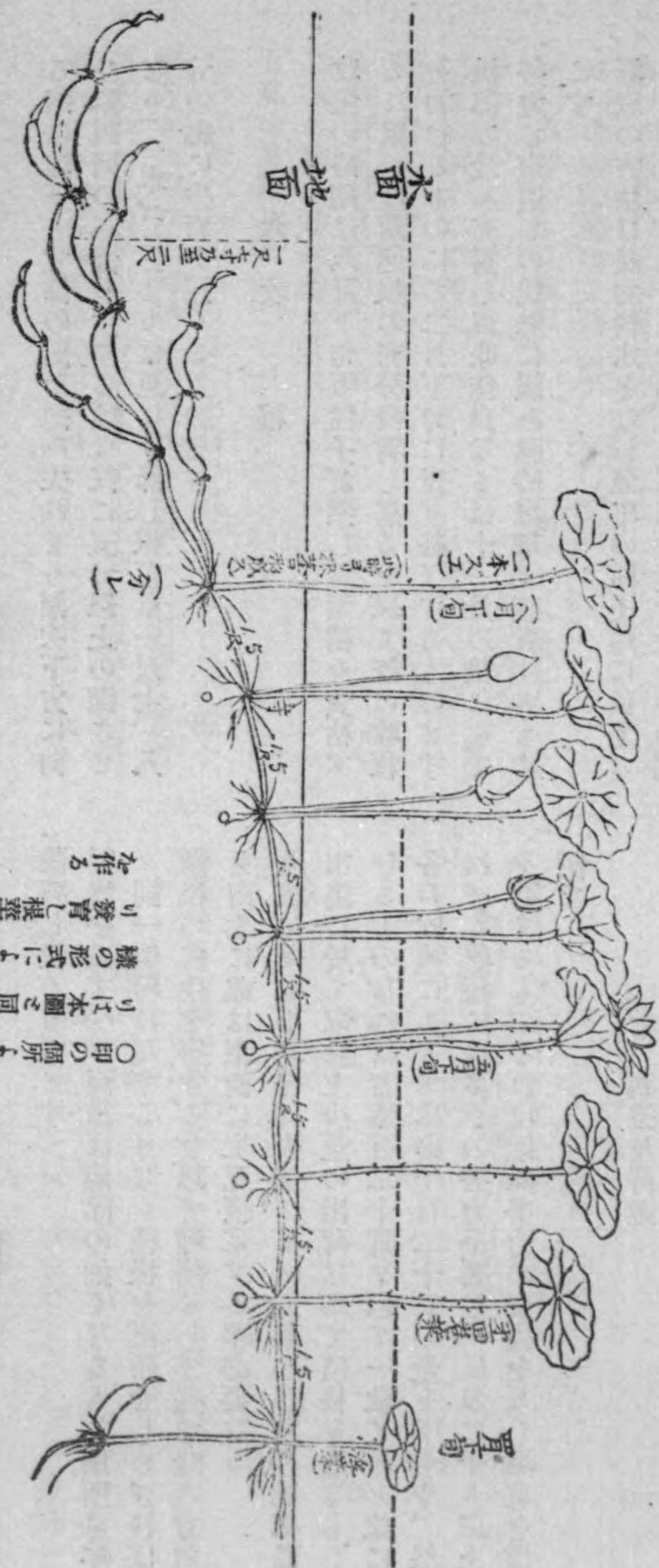
蓮根には形の大小こそあれ之れが發育する形態は一定不變のものにして其根莖は第二圖の如く生育を遂ぐるものなり且又根莖を作るに至る莖葉の發育も亦一定不變のものたり、されば熟練したる栽培者は土中深く埋没しある根莖を以て生根の方向、芽の形、葉柄の形狀等によりて其方向所在を知り根莖を切斷するが如き事なく美事に採掘する事を得るものなり今左に莖葉繁茂の状態を圖說すれば第一圖の如し第一圖を解説すれば頭芽の發育したるものは地下一寸餘の處にて根毛を生し其部分より上部に向つて浮葉を出し(四月下旬)又側方に向つて生根を生じ生根は伸長して一尺五寸餘に至れば第一關節を生じ其部分より上部に向つて第一回の卷葉を生ず、夫れより生根は更に一尺五寸餘伸長し第二關節を作り第二回

の卷葉を生ず、更に同一距離を以て第三回の卷葉を生ずる時初めて第一回の花蕾を生ず(五月下旬乃至六月上旬)、夫れより殆んど同一距離を以て第二、第三、第四回迄都合四回花蕾を生ず夫れより更に一尺五寸餘伸長して最後の卷葉を生じ(八月下旬)之れを

第一圖

第二圖

俗に「一本ズエ」と稱す此の時より根莖の成生を初め凡そ一ヶ月即ち九月下旬に至れば第二圖の如き根莖となるものなり第一回卷葉乃至第六回卷葉に至る各關節よりは前記の法則により伸長發育し前同様根莖を生ずるものなり又第一卷葉より第一回花蕾の生ず



る迄は地下一寸餘の處を進み夫れより漸次下方に向
ひ第四回の花蕾を生ずる頃は既に五寸以上の深さと
なり「一本ズエ」よりは更に下降し根莖は一尺七、八
寸の處に生育を遂ぐるものとす

六、收 穫

收穫の時期は八月下旬頃種子黄熟し莖葉稍々黄枯す
るに至れば新蓮根の充分發育し居るを以て既に收穫
を初むるものにて二月下旬に至り終了するものとす
根部の最も充實し風味佳良なるは十一月以後にして
勞力と市價との状態に鑑み隨時掘取り販賣するもの
とす

掘取の方法は最初排水をなし翌年の種子用に供する
種子場を残し然る後一偶より底部に藁を敷きつつ掘
取り同時に土壤の上下を反轉せしむ掘取に使用する
鍬は備中鍬にして蓮根の見ゆるまで深く泥土を掘り
除け蓮根の存在を知るに至らば「ウゼリ」と稱する長
柄に藁を以て古株と連結し居る部分より切採るもの
とす而して此の際残るべき種場は種根植付の時と同
様六尺の距離に二、三尺の巾に鍬を入るゝ事なく其

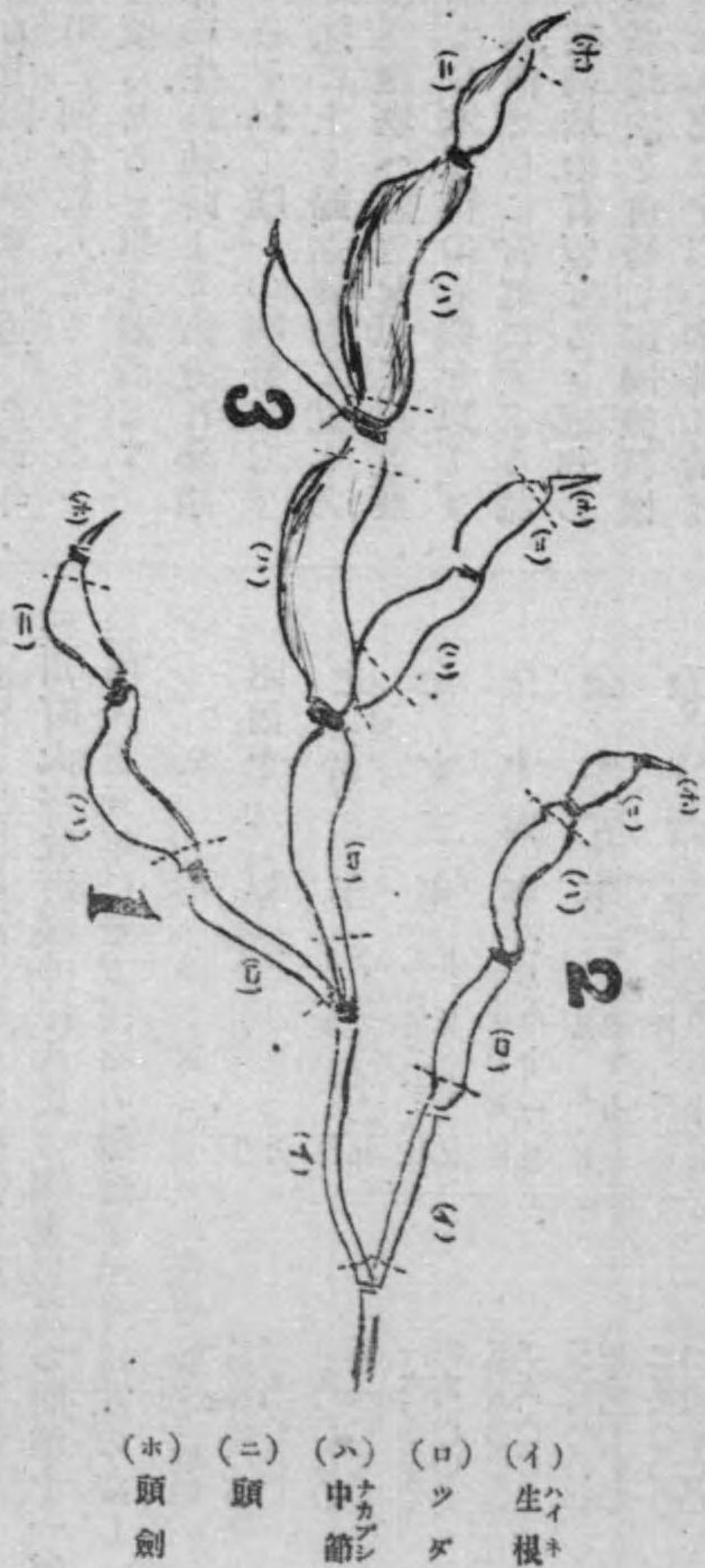
儘残し置くものとす
種場を残すべき面積は前記の如くなるも其場所は年
々同一個所になすことなく種根を更新せしめざれば
新根の成生を害するを以て種場として残す畦の方向
を南北に或は東西に交互撰定する事必要なり
蓮根を掘取る場合は少量つゝ行ふ事なし之れ枇杷島
市場に於て取扱上少量の出荷は却て價格を廉ならし
むるものなれば普通百二十貫を以て一駄とせり故に
各戸收穫にありては必ず百二十貫の量を下らず、然
れども收穫には多くの勞力を要し一反歩二十人以上
を要するものなれば近隣勞力の交換をなし掘取を慣
例す

七、調製及荷造

收穫したる蓮根は遠方に出荷するの外何れも洗滌す
るものとす然る後荷造に便なる爲め適宜の長さ短
切するものとす其方法は一定にして第二圖に於ける
如く「頭」及「中節」を切り放ち之れを屑物とし
中央部の「頭」及「中節」を一節とし(圖解)節物と稱
し最も主要部分にして此の部分の多少の蓮根の收量

を左右するものなり然れども亦物により「頭」より
「ツダ」の方美大なるときは「頭」を切り放し「中節」及
ツダを以て一節とし採る事あり(圖解)亦最發育の
佳良なる蓮根にして「ツダ」及「頭」共美大にて且中節
二節を有するものに
ありては「頭」と「中
節」を一節とし「中
節」と「ツダ」を一節
とし全時に節物二節(圖
解)を得る事あり(圖解
3)

以上の如くして切り
揃へたるものは何れ
も荷籠(方言シンド)
に入れ稍山高に盛り
上部は苦製の菝にて
包み其菝は籠の中央までを覆ひ其上を繩を以て縦一
個所横三個所を纏絡し馬車又は電車にて市場に運搬
す荷籠は長方形のものにて大中小三個を一組とし空
籠は三個を重ねる事の出來得るものにて中形の大さ



(イ) 生根
(ロ) ツダ
(ハ) 中節
(ニ) 頭
(ホ) 頭劍

は長さ二尺三寸巾一尺深さ三寸にして一つは之れよ
り少しく大なるも他は少しく小なり
販路は大部分枇杷島市場なるも近來北陸及京阪地方
へ多量に移出するに至り且又全地乾菜株式會社にて

製造する蓮根切干の原料に供給するの量尠ならず

第十一節 甘 藷

第一 吉田 謹

一、沿革

甘藷は縣下到處に栽培せらるゝも其最も有名なるは東三地方に於て多く栽培せらるゝ吉田諸牛久保諸なりとす之れか栽培の起因を尋ぬるに寶飯郡を以て原産地となす本郡に於ける甘藷の傳來は遠く文政年間において當時郡内牛久保町に河合喜八なるものあり之れが種子を薩摩より移植したるを以て起因とす氏は文化八年二月牛久保に生れ幼時より宮寺に參詣し或は高山奇勝を披渉するを以て唯一の嗜好となす時に文政五年四國巡歴の途に上り歸途薩摩に立ち入り山路に踏込み道に迷ひ空腹堪へ難きを以て附近農家に一飯を乞ひしに與ふるに木根様のものを以てす風味頗る美にして其名を尋問せしに當地に産する諸なりと答へたり爰に於て其栽培の有望なるを感知し甘藷三個の分譲を受け其栽培法を會得し歸國後試植したるに異外の成績を得たり之れを以て本郡に於ける甘藷栽培の嚆矢とす爾後栽培法に熟達し漸次各地に栽培を行ふに至り安政三年同郡牧野村(豊川町大字牧野)櫻井庄八氏は甘藷三俵(一俵五十貫)を豊川を下り豊橋(當時吉田)に

販賣す此等を以て他地方販賣の初期たるべし當時の畑作物は粟、黍、大豆、稗等の如き收利少なき種類にして甘藷は此等の作物に比較し收利多く土地の肥瘠を問はず干魃の被害少なく其栽培容易なれば年々其面積を増加し當地唯一の産物となるに至れり豊川町大字牧野櫻井庄八氏の調査したる明治十一年以降大正五年に至る價格の變遷を示せば左の如し

年次	月	日	對する貫數
明治十一年	八月	二十一日	二〇、三〇〇
明治十二年	九月	二十一日	一九、〇〇〇
明治十三年	八月	二十三日	一六、〇〇〇
明治十四年	九月	十九日	一五、〇〇〇
明治十五年	十一月	十七日	一四、〇〇〇
明治十六年	九月	三十日	一三、〇〇〇
明治十七年	九月	二十三日	一三、〇〇〇
明治十八年	十一月	二十三日	一三、〇〇〇
明治十九年	九月	二十日	一三、〇〇〇

年次	月	日	對する貫數
明治二十年	九月	二十七日	一八、〇〇〇
明治二十一年	九月	十八日	一六、〇〇〇
明治二十二年	九月	十七日	一五、〇〇〇
明治二十三年	九月	八日	一四、〇〇〇
明治二十四年	八月	二十三日	一三、〇〇〇
明治二十五年	八月	十九日	一三、〇〇〇
明治二十六年	九月	二十九日	一三、〇〇〇
明治二十七年	八月	二十四日	一三、〇〇〇
明治二十八年	十月	十九日	一三、〇〇〇
明治二十九年	九月	十四日	一三、〇〇〇
明治三十年	九月	九日	一三、〇〇〇
明治三十一年	九月	十八日	一三、〇〇〇
明治三十二年	九月	十三日	一三、〇〇〇
明治三十三年	九月	九日	一三、〇〇〇
明治三十四年	九月	十一日	一三、〇〇〇

年次	月	日	對する貫數
明治三十五年	九月	上旬	一三、〇〇〇
明治三十六年	九月	下旬	一三、〇〇〇
明治三十七年	九月	中旬	一三、〇〇〇
明治三十八年	九月	十五日	一三、〇〇〇
明治三十九年	九月	十五日	一三、〇〇〇
明治四十年	九月	十五日	一三、〇〇〇
明治四十一年	九月	十五日	一三、〇〇〇
明治四十二年	九月	十五日	一三、〇〇〇
明治四十三年	九月	十五日	一三、〇〇〇
明治四十四年	九月	十五日	一三、〇〇〇
大正元年	九月	十五日	一三、〇〇〇
大正二年	九月	十五日	一三、〇〇〇
大正三年	九月	十五日	一三、〇〇〇
大正四年	九月	十五日	一三、〇〇〇
大正五年	九月	十五日	一三、〇〇〇

前述の如く本郡豊川沿岸地方の主産物たりし甘藷も養蠶業の發展に伴ひ漸次栽培反別を減少したるも未だ其聲價に於ては縣内其右に出するものなし

二、品 種

本郡に於て栽培する種類は其數甚だ多しと雖も主なるものは吉田諸(牛久保諸)、ラクダ、小豆諸及大和諸の五種とす今之が性状及用途を擧ぐれば

一、吉田諸 最も古く栽培するものにして色澤灰白色をなし形状稍長く大さは百六、七十匁以上に達し肉質餘り密ならざれ共甘味多く用途は普通煮食用燒糖用等として廣く需用せらる隨而栽培區域も第一位にあり

二、らくだ諸 一名西洋又は紀州諸と稱し二三十年以前より輸入したるものにして色澤灰白形状不正圓形肉質密なれ共甘味強からず用途は切干及澱粉製造に供せらる

三、四十日諸 最も早生にして他種に卒先市場に販出する事を得るを以て需用多し色澤灰白長形にして小なり肉質堅密にして貯藏に適す普通煮食亦は

蒸藷として用ひらる

四、小豆諸 色は紫色にして肉質小豆色を呈し小豆代用として餡に用ひらる其他普通煮食となす形状長く肉質粗なり

五、大和諸 色澤灰色にして形状不整甘味最も多く普通煮亦は蒸藷として用ひらる

三、栽 培 法

一、苗の仕立方

苗床は普通床及本代との二個を設け苗の養成を行ふものなり

(イ)普通 床

三月上旬に至り本畑一反歩に要するものは約半坪の割合を以て苗床を構成す

苗床の構造は排水良好なる温暖なる位置を撰び成る可く長方形に構へ南方に面し稍南を低くし日光の温熱を多く吸収せしむる様構造するものにて周圍を麥稈又は藁を以て圍ひ高さ約二尺とす然る後藁、麥稈塵芥、落葉等を豫め少量の土壤を加へ堆積腐熟せしめたるものを醱酵原料とす其方法は外圍を多く中央

を少なく且中央は發熱少なき材料例へば落葉の如きを以てし一尺二三寸に達したる後乾土二三寸を散希し更に前記腐壤を平等に堆積す(是れ降雨小なき場合に乾燥を防がんが爲なり)更に乾土四五寸を撒布し一週間乃至十日にして適當の温熱を發生せしむるものとす

次に種藷の撰擇は品種固有の形状及色澤を具へ其形大ならず又小に失せず中等にして腐敗せざるものを撰む甘藷の膨大部と蔓及根部との劃然區別したるものを撰擇す種藷の植付方法は苗床に適當なる温熱を生じたる時は敷藁を除去し撰出したる種藷の表面(芽の多き方)を上部分し頭部を稍高く横臥し交互に間隙なく埋植し腐熟したる堆肥の細粉を藷の見へざる程度に覆ひ更に其上に藁を一束併べに併列するものとす埋植後一回降雨を待ち適當なる濕氣を吸吹せしむるを可とす若し降雨なき場合は如露を以て撒布するものとす後數日にして覆藁を除去し日中は藷の上部に濡れ藁又は菰の類を覆ひ太陽の光線に觸れしめ夜は更に藁を覆ふ如斯する時は適當なる温熱と濕氣とによりて植付後十五日頃に至り發芽するものな

り

既に發芽するに至れば藁及藁を除去し藁を長さ四五寸に切斷し苗床に撒布し藷の見へざる程度とし全時に屋根を設け屋根を竹又は木を以てし其上に藁又は菰を覆ふ晴天の日は覆を除き日光に觸れしめ雨天又は夜間は之を覆ふものとす

(ロ)本 代

本代は蔓の成長して三四寸の長さに達したる時に之を造り移植の個處とす其構造は長方形となし高さ約二尺に造り藁、麥稈、落葉を堆積し七分位の處に至り乾土二三寸を撒布し更に堆肥を平等に堆積する事普通床の方法と異なるなし然る後僅に土壤を撒布し肥料を施す肥料は鯨粕、藁灰、人造肥料等を用ゆ其量は一坪に付鯨粕一合五勺、藁灰三升を以て足れりとす其上部に肥土四五寸を入れ藁を一束づゝ並列して本代を覆ふものとす然る時は一週間乃至十日にして温熱を生ず

一、栽 培 法

四月上旬に至り本代の敷藁を除去し幅二尺の畦を作

づ、栽植す後畦間に藁一束宛を敷き温熱を保たしむ
然る後数日間上部に藁又は菰を覆ひ日光を避け活着
を佳ならしむ夜間又は雨天の際は之を覆ひ日中は除
去す本代に栽植後は時々稀薄なる人尿尿又は風呂水
を注ぎ蔓の成長を促進せしむ

一、整地

甘藷は普通麥の畦間に栽植するものにして先づ挿秧
すべき位置に肥料を施し片寄をなし其上部に苗を挿
入するものとす

作物の畦間に栽植せざる場合は能く土地を耕鋤し土
塊を粉碎し畦巾二尺乃至三尺となす

一、挿秧法

本代に於ける蔓の一尺五寸乃至二尺に達したる時之
を切り取る可く若し掻き取る時は種藷を損傷し再び
發芽する場合に害を及ぼすに至る蔓は一番を最も可
とし三番以下の蔓は使用せざるを普通とす

蔓は基部小葉の附着する部分及尖端を截除し二節又
は三節宛を截断するものとす截断の場合は下部は節
の外を短くし上部を長くするを可とす
如斯截断したる蔓を畦の成る可く高き處に一尺乃至

一尺五寸の距離に一節又は二節を土中斜に挿入す其
方法は舟底挿を可とすれ共乾燥の場合に枯死の恐あ
れば畑地の乾濕により枯死せざるを程度とし挿入す
るものとす

一、耕鋤

麥刈取後麥株を打ち返し七月上旬に於て一回都合二
回の耕耘をなし數回耕耘し又は遅く耕耘するが如き
は根を截断するものとし施行するものなし

一、除草及蔓返

除草は隨時之れを行ひ蔓返には蔓より根の生せざる
様二三回之を行ふものなり

一、肥料

由來甘藷は肥料を要する事比較的少なきものにして
普通基肥として米糠、鯨、粕、藁灰、過磷酸石灰
等を施す其量は藁灰三十貫、米糠十五貫(一反歩)を
施し補肥として稀薄なる人尿尿を一二回使用す

四、收穫及調製

四十日種に於ては八月中旬に至れば既に收穫するも
のなれ共其他の種類にありては長く貯藏せんとする

ものは一二回降霜に逢ひ掘採するものとす掘採は晴
天乾燥の日を撰み蔓を截除し然る後鎌を以て之を行
ふ種藷に供するものは殊に損傷せざる様掘採に注意
するものなり收穫量は普通一反歩より五百貫乃至八
百貫とす

調製は蔓株を除去し大小損傷物等を撰別し直ちに市
場に販出し又は貯藏するものとす

五、貯藏法

甘藷の貯藏法は可成高處にて排水良好なる地を撰む
普通竹林又は樹木の根の多き所には窰を穿ち内部を
大にし口を小にす其内部に藳を並べ其上に砂を撒布
し斯く交互に堆積し上部に二尺以上を覆ひ雨水の浸
入せざる如くす貯藏中最も注意すべきは雨水及寒風
の浸入にあり貯藏藳は豫め乾燥せしむるを可とす

第二 碧海郡旭村の甘藷

一、沿革

文久二年の交當村金原茂十氏は熱心に甘藷の栽培を
なしたるが常に其收益多からざるを慨し收益の増加

を圖らんことに努めしが圖らずも塵芥中の捨甘藷の
早く發芽し居るを見心私かに塵埃を堆積し其中に甘
藷を植うれば發芽を促進するならんとて塵芥を平地
に堆み屋根を覆ひ等種々工夫すること數年の後遂に
八月中には相當の收穫を得る迄に進歩を來せり然る
に村民は徒らに氏の巧妙なるを賞揚するのみにて尙
天然法に依りしを以て其收益は少きこと遠かりしが
漸次金原氏の指導に依り早作をなすに至り明治十五
年頃には栽培法に著しき改良をなし一年二回の收穫
をなすに至れり是れ現今行はるゝ温床により苗を育
成し七月中旬已に第一回の收穫をなし直ちに其蔓を
利用し十一月上旬第二回の收穫を爲し得る法にして
第一回の收穫物は主として各地に販出するものにし
て其時期の早きより市場に於て大に聲價を博し殆ど
當地生産物の獨占なり第二回の收穫物は多少市場に
販出するも多く翌年の種藷用として栽培す
現今甘藷の作付反別百餘町に達し尙増加しつつあり

二、地勢及土質

碧海郡の南端に位し海に面す地勢は西北より東南に

至るに従ひ順次傾斜し矢作川流の低湿地に至り高臺地とに區別することを得れども其高低の差は何れも數十尺を出でざる範圍にありて甘藷を栽培し得るは矢作川沿岸の低湿地にして土質は該川の沖積土にして表土極めて深く肥沃なる壤土又は砂質壤土なりとす而して地下水は高きも排水は不良ならず

三、栽培品種

吉田藷より發せるものにして形質吉田藷に酷似し色澤灰白色にして蒸せば肉は白色にして纖維少く甘味に富み蒸芋用として廣く需用せらる

四、輪作法

當村畑作として落花生と共に其大部分を占むるものにして多く麥を前作とし年々連作すれども多年連作する時は品質は優良なるも著しく其收量を減じ肥料を多量に施さざれば完全なる收穫を擧げ得ざるに至れるを以て近來二三年に一年宛他作物の栽培を爲し其成績良好なり

五、栽培法

一、整地及插秧

麥畦中にて落花生と混植するものは畦幅三尺然らざるものは二尺とし原肥を施し高く片寄せをなし株間一尺宛に斜に船底形に挿するものとし插秧の時期は八十八夜十日前より行ひ插秧すべき苗は莖部二三節の上より切取り七八節にして長さ七八寸のものをを用ふ

一、肥料及中耕除草

肥料は年々連作するものは勢ひ多量に施さざれば十分の收量を得ざるも其他の肥沃なる土地にありて肥料を多施する時は徒らに莖葉繁茂し根塊の生成不良なるを以て其施肥量は少量にて可なり然れども當地にありては尙年々連作するもの多きを以て之れが施肥用量を記すれば原肥として插秧の際大豆粕十貫匁追肥として麥刈取後大豆粕十貫匁を施し麥の刈株を反轉中耕をなす

除草は土質砂土にして然も乾燥するを以て雜草の發生少ければ隨時一二回行ふのみなり

一、蔓返

莖葉の繁成するに従ひ各節より鬚根を生じ勢力旺盛

一、苗床の構成法

苗床は宅地内の温暖なる場所を撰び三和土を以て幅二間長さ適宜にして兩側の高さを二尺五寸とし中央を三尺とし厚さ三寸位に土壁を築き棟木を架し是れに油障子を掛くるものとす、其構設費は幅二間長六間にて普通拾圓を要すと云ふ

一、種藷の選擇

種藷は固有の形態を有せる中形のものにて充分成熟したる損傷なきものを用ふ

一、種藷の植へ方

所定の苗床に一坪に付六七束の稻藁を四つ位に押切りにて切斷し水三荷半を注ぎ之れに米糠及味噌粕各二升位宛を混じり床に入れ充分踏付け其上に肥沃なる作土五六寸を入れ油障子を架し所要温度の發するを待ち種藷を植ゆ普通四五日を經ば定植の温度を得べく適温は攝氏二十四五度とす、而して時期は三月中旬にして種藷の量は一坪七貫匁位にして一反歩に要する苗床は二坪にて足る爾後は温度及湿度に注意をなし灌水被覆等臨機の處置をなし健全なる苗の生育を圖るものとす

となり根塊の生育を妨ぐるを以て二回蔓返しを行ふ

第一回は七月上旬(半夏生)に行ひ其後十日位を経て

第二回を行ふ

一、收穫

第一回収穫は七月上旬より中旬に亘り直に其蔓を挿し十一月月上旬より第二回収穫を行ふ而して一反歩の收量は第一回は八十貫内外第二回は百貫内外を普通作とす

一、貯藏法

當村に於て販賣用として貯藏するものは甚だ稀れにして多くは種藷のみを貯藏するものにして家屋中に密室を設け乾きたる砂を敷き其上に藷を幾重にも排列し外氣の流通温度の變化なき様密藏す

六、販路

碧南甘藷落花生販賣組合の設立前にありては多く西三地方及枇杷島を主なる販路とせしが同組合により大に販路を擴張せられ東京、北海道を始め三重、福井、長野、和歌山の諸縣へ輸出するに至れり

第三 渥美郡高師村の甘藷

一、沿革

傳來の時代は全く不明なるも寶飯郡牛久保町に輸入せられたるにより間もなく同地より傳來せしこと疑ひなく其栽培は他作物の栽培不能なるより年々著しく増加し現今にては栽培反別三百八十餘町歩に及び尙増加の趨勢なり

二、地勢及土質

地勢は概して平坦にして小丘諸處にありて西は渥美灣に面し土質は主に第四紀古層埴土乃至埴土とす

三、輪作法

總て麥と交互栽培し小麥の後地に栽培する時は其生育不良なり

四、品種

本村にて栽培するものは吉田蒔、大和蒔、多田蒔の三種にて就中大和蒔其多數を占む

五、苗の仕立方

(イ) 苗代

三月上旬幅九尺乃至一丈二尺長さ一尺五寸乃至二尺の高設温床を作り其四圍は稻藁又は麥稈を以て圍繞し之れに稻藁、麥稈、馬屎其他下草等を厚さ一尺乃至一尺五寸に填充し能く踏壓し少量の水を掛け更に堆肥と園土と等量に混合せるものを三寸厚さに入れ豫定温度の發するを待ち畦幅一尺二三寸株間五六寸の距離に種蒔を植る蒔の漸く隠れんとする程度に覆土をなし尙ほ粉殻を表土に混じ稻藁を一把握に被ひ更に雨水の浸入を防ぐべく合掌を設け覆蓋をなし晴天には之れを除去し夜間又は降雨の際は被ひ灌水は過乾に失する場合施すのみ斯くして十數日を経ば發芽するを以て稻藁及覆蓋を除去し肥料を與ふ
肥料の用量は苗床一坪に對し過磷酸石灰五合、人尿一斗、練鰯粕一升五合、大豆粕二升五合にして人尿は稀釋し畦間に小溝を附し前記肥料を投入し被土をなし爾後努めて陽光に當て健全なる發育をなししむ已にして苗芽の二三寸に伸張したる時本代に移植をなす

(ロ) 本代

床の構造 踏込は苗代と同一にして床土を稍厚く入れ畦幅一尺五寸株間六七寸に移植をなし苗代と同量の肥料を與へ畦間に稻藁を敷き苗の五六寸に伸長したる時稻藁を除去し稀薄人尿を施し蔓の一尺位に發育せる時本圃挿秧す、而して一反歩に要する苗床は四坪にて種蒔は百二十個を要す

六、整地挿秧

挿秧の時期は麥刈取前より刈取後に行ひ麥は一尺五寸の畦幅なるを以て甘蒔は一畦置に一尺内外の株間を以て挿秧をなす而して麥刈取前に行ふものは麥の根を損せざる様片寄せをなし深く掘り原肥を施し再び片寄せをなし成るべく高くなし之れに斜に挿秧す、麥刈取に行ふものは麥畦を耕耘し麥株を除去し深く掘り原肥を施し兩側より土寄せをなし之れに挿秧す

而して挿蔓は本代蔓の一尺位に伸長せる頃根元三四寸を残し切り取り先端七八節を存し切斷したるものを用ふ

七、肥料

肥料は原肥として一回に施し練鰯粕、海藻、麥稈、過磷酸石灰、糞灰、米糠等を使用するも普通練鰯粕二貫匁海藻三百匁を使用す

八、其他の手入

蔓の伸長に伴ひ一二回蔓上げを行ひ中耕は別に行はず除草は時々行ふ

九、收穫

早收のものは八月下旬より晚收は十一月上旬に及び收量は早收のものは二百貫を上作とし普通に收穫するものは五百貫乃至八百貫とす

一〇、調製荷造り販路

收穫せるものは自家に運搬し莖及蒔の先端を鎌にて切り去り鬚根を除き汽車便に依るものは一俵十五貫匁入りとし船積により販出するものは一俵二十五貫匁入りとして米の古俵又は麥稈俵に入れ俵星を附し二三ヶ所を繩にて緊縛す、而して船便に依る販路は伊

明治三十二年	七、〇〇〇
全 三十三年	七、五〇〇
全 三十四年	一、三五〇
全 三十五年	一、〇〇〇
全 三十六年	九、三〇〇
全 三十七年	六、〇〇〇
全 三十八年	八、〇〇〇

乾薑の價格以上の如し而して本郡の大部分は種子薑として販賣し乾薑の如きは唯古根及殘薑を以て販賣又は製造するに過ぎざるものなり

二、品種及特性

現今栽培する品種は金時、普通薑、大薑、小薑の四品種とす左に之れが性状を列記すれば

一、金時種

本種は其栽培部合半を占め遠州地方へ種薑として多く搬出す塊根最も小にして各子塊短縮扁圓にして頗る密着す塊根並に莖の下部紅色を裝ひ美觀を呈す嫩時或は適宜に採取して種々の料理用に適す又味甚だ辛烈にして九干薑として優良品を製し得

るものなり

一、普通種(黃薑)

栽培の部合は前種と殆んど同一にして當地の栽培は大部分此等二品種とす本種は一名中薑と稱し中形にして株張良好收量多し辛味は普通にして用途は九干薑を製し多くは料理用とす

一、大薑種

塊根の分岐多からずと雖も各子塊は頗る偉大にして滑澤を有し辛味弱く糖藏其他菓子製造用に適す近來東京、大阪方面にて需要甚だ多きに至りたれば今後益々需要を増加すべし目下本種の栽培は僅少なるも漸次増殖するに至るべし

一、小薑種

形狀金時に類似し辛味強く纖維少く種子としては不可なるも九干薑製造に適し其栽培甚だ少なし

三、栽培法

一、整地

薑は前作物との關係重大なるものにして烟草の跡作又は連作は其收穫少なし且品質劣等なるが故に最も

忌む處なり而して葱、陸稻、甘藷、麥の跡作は頗る良好なり

當地方にては普通麥の跡作として栽培するもの多く整地は麥の中耕を丁寧に行ひ片寄をなし其中腹に下種するものにて畦巾は通常二尺二三寸となす故に麥播種の際豫め適當の畦巾を構成するものとす

一、植付

植付は既に設けたる作畦に八寸乃至一尺の距離に種薑を植付くるものにして種薑は品種固有の形狀色澤を具へ腐敗せざるものにして芽の二三を有するものを選出す定植後糞灰堆肥を施用し種薑の隠るゝ程度に土を覆ふ而して一反歩に要する種子は七貫乃至十貫とす

一、耕鋤

耕耘は普通二回とす麥刈取後十日以内に於て麥の刈株を反轉し片寄を行ふ之を第一回とす第二回は六月下旬に至りて薑の根元に寄せ付畦形を完成するものとす而して除草は雜草の有無に應じ隨時行ふものとす

一、其他の手入

其他の手入としては最終の中耕を終りたる後直に畦間の乾燥を防ぎ且除草の煩を除かん爲め及び降雨の節土の葉に附着せざらんが爲青草枯草落葉及葉の如きものを土の見へざるを程度に敷くものとす

一、病虫害

害虫の最も恐るべきは螟虫にして恰も稻の螟虫の如く莖中に食ひ込み遂に枯死に至らしむるものなり之が驅除法は未だ良法なしと雖も被害莖を検し針金の如きものを以て捕殺するに勉む

病害として赤星病あり該病は一種の黴菌の寄生により起り六月頃より莖葉に黃褐色の斑点を生し漸次漫延し被害の甚しきものは遂に枯死するに至るものあり之れが爲一時薑の栽培に非常なる影響を蒙りしも被害前に於て二斗五升乃至三斗式の「ボルドー」液を灌注し又は朝露の乾かざる時木灰及石灰等を撒布し豫防に勉む其効空しからず殊に「ボルドー」液を二三回施用せば殆ど被害を免がるに至れり

一、施肥

肥料の種類及數量は一定せざれども普通堆肥、人糞尿、鯀粕及灰類、過燐酸石灰等とす其用量を示せ

ば左の如し(一反歩當)

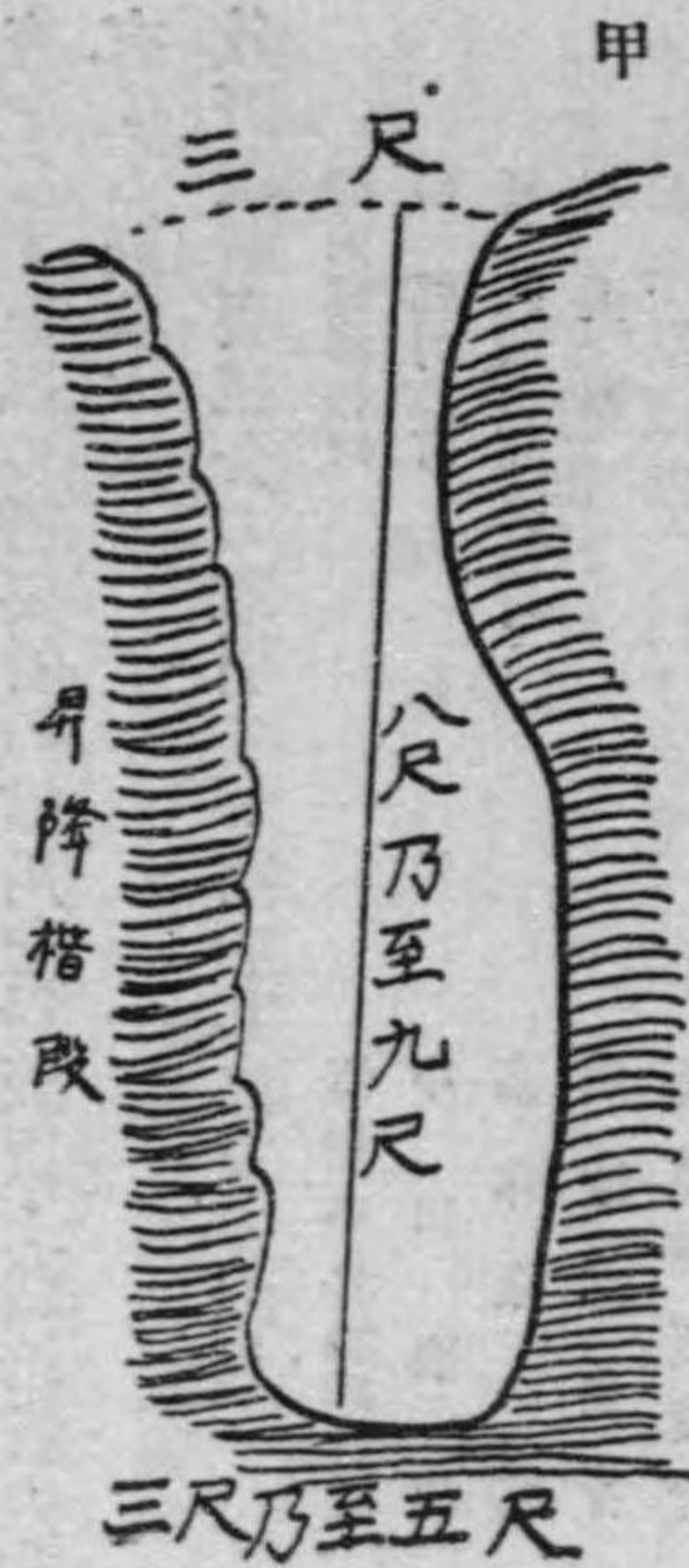
堆肥	二百貫匁	鯨粕	二十貫匁
人糞尿	四十貫匁	葉灰	二十貫匁

堆肥糞灰は元肥とし其他は補肥として中耕の場合に二回に分施するものとす、然れども鯨粕は少量の堆肥と混じ豫め醗酵したるものを用ゆ人糞尿は稀薄なるものを施用す然らざれば往々薑の根莖を害する恐れあればなり

四、收穫及調製

收穫期は十一月中旬にして初霜後を最良とす二回以上の被霜は其品質を惡變するの恐れあり收穫法は先づ莖葉の附着せし儘掘り取り直ちに鎌又は鉋丁を以て莖葉を切落し塊根は自宅に運搬し葉莖は其儘麥の肥料となす然る後新根古根を別ち更に新根より普通用及種子用を撰別し之を貯藏するものとす種子用として販賣するものは翌年三四月頃貯藏穴より取出し十貫匁を以て藁俵一俵とし各地に搬出す而して一反歩の收穫高は天候順調にして病蟲の被害なきときは普通左の如し

幅は三尺乃至五尺とす



十一月十日乃至二十日頃即ち初霜を見るや否やの頃に採收して以て直ちに前貯蓄窖に埋藏するものとす亦貯藏すべき種薑收穫の際豫め根際白色部だけ莖を残して其所より剪去し(莖を長く附する時は貯藏中醗酵を起し且つ穴内地積の不經濟たるを免れず)一畝歩よりの收量四十貫乃至七十貫にして之を全部一穴に納む(穴の大きさは大小種々あり)既に採收せられたるものは成る可く手早く穴中に搬入埋没し直ちに蓋を施す若し然らずして徒に時日を経るときは寒氣若しくは乾燥の爲め多少被害せらるる蓋を施すには先づ初めに埋没せる薑根の上面より六七寸乃至一尺を隔て、上部に丈夫なる丸太を架し之れに横竹を

新根	七百貫乃至八百貫
古根	五十貫乃至六十貫
葉莖	三百五十貫乃至四百貫

五、種薑の處分法

當地方にて産出するところの薑は其一部分は新薑として附近市場に販賣し或は干薑を製造するも其の大部分は貯藏し置きて種薑として各地方に販賣するものにして其處分法を示すべし

種薑は甘藷の如く收穫したる新薑を貯藏窖に貯藏せざる可らず貯藏窖は成るべく高所にして排水よく東南に面せる地を可とし屋敷内の竹林中に設けるを普通とす(當地方は各戸多く竹林を有す)竹林地は大約平地と等しきも前述の如く下方は礫質なるを以て排水極めて佳良なり穴は左圖の如き構造を有し深さ八尺乃至九尺口經は成る可く狭きを可とするも出入の都合上長さ四尺幅三尺を適當とすされば年を経るに従ひ漸次崩壊して其の大きさを増大す穴は下方に廣く掘る事恰も瓶の側を斷ちたるが如くなし其一侧に昇降段を附す又底は平担にして長さ七尺内外とし

載せ此の上に麥稈を並ぶる事土砂の漏れざる程度とす而して後其の上に五寸乃至一尺の覆土をなし(覆土の厚さは氣候の寒暖により異なり温暖なれば薄くして可なり)該覆土面は恰も地平線に達する位とすを適度とす而して最後に雨水の浸入を防ぎ一つは防寒用として藁を覆ふものとす入穴後は特別なる注意を要する事なきも往々にして穴中に鼠の浸入より薑を害し腐敗を來す事あり要するに貯藏上最も重要な條件は排水貯藏しつゝあるもの、縦斷圖



約一間

等にして其他組合の手を経ざるものありては西三地方、三重縣、滋賀縣、京都府等に取り引あり

七、荷造

細繩十二尋を以て編みたる麥稈俵に十貫匁を入れ目抜を通じ俵星を當て三ヶ所太繩を以て緊縛輸送す

第十三節 萌 薑

縣下に於て萌薑を行ふは海部郡佐織村大字西川端にして今より六、七十年前隣村八開村字定納に於て堆肥中に薑存在し軟白せるを偶然發見してより之れに人工を加へ栽培を試みたるを萌薑栽培の動機となす爾來之れが栽培に付き研讀したるも其結果良好ならざりしを本村川口藤八、山田吉左衛門の両氏は甚だ之れを遺憾とし其栽培に付き専心研究すること數年數時失敗を重ね漸く今日の如き方法を案出し西川端の萌薑として各地市場に賞讃を受くるに至れり

一、主なる栽培者

- 森 音吉 鈴木房太郎 川口爲三郎
- 川口藤七 安達鉄五郎

六、販賣

後來は需要地の商人入込み供給地の商人により買ひ集めたりしが大正元年牧野薑販賣組合の設立せられてより組合に加入するもの多く從來の方法により販賣するものは甚だ僅少となり組合より販賣するもの大部分を占むるに至れり組合にては充分なる生産検査をなすを以て需要者の信用を得販賣上栽培者の共有する利益大なり

牧野薑販賣組合の取引する商店其他左の如し

- 静岡縣濱松町 濱松委託株式會社
- 同 縣同 町 中 田 商 店
- 同 縣濱名郡北濱村 高 林 儀 一 郎
- 新 潟 縣 佐 波 郡 農 會
- 同 北 魚 沼 郡 農 會
- 同 刈 羽 郡 農 會

二、萌薑貯藏法

十月二十日前後に於て薑を本圃より收穫し莖葉を取り去り約一週間土中に埋置す

三、栽培法

一、催芽

當地に於ける萌薑の栽培は豫め燒穴により催芽せしめたるものを温床にて育成するものにて其催芽の操作左の如し

日光の照射充分なる温暖の地を卜し四尺平方に深さ三尺の穴を掘り周圍に藁を立て掛け此の内に醸熟材料として塵埃一貫匁、麥糠一貫匁、米糠二升を混合し入れ尙枯草を上部に薄く敷き約一斗の水を注ぎ能く鎮壓す斯く準備整ひたる後貯藏せる種薑を取出し五十貫匁を詰込み平にし上部を藁にて覆ひ其上に細土三寸許を載せ足にて固く鎮壓し然る後其上に菜種殼一貫匁、粉殼八貫匁を山形として稍濕りたる藁灰類を以て上部を蔽ひ是れに點火して蒸焼となす此時の温度は華氏八十度乃至九十度を適度とす以上の如くする時は一二週間は温度繼續するを以て

尙一、二回此の操作を繰返し斯くして三、四週間の後には芽は開發し八、九分に伸長するを以て此の時豫め構設せる温床内に定植す

一、温床構成法

温暖にして日光の照射充分なる地を卜し巾四尺三寸長 五間深さ一尺六寸底部を蒲鋒形とせる穴を掘り之れに醸熟物を填充す之れを俗に島と稱す醸熟材料は浸水せる稻藁十五貫匁、枯草六貫匁を前述の穴に入れ尙麥糠八貫匁、米糠一斗を混合し一面に平均ならしめ其上に薑の枯葉十貫匁、塵芥四貫匁を敷き詰りめ豫て催芽せる薑を周圍五寸位を空虛とし一方より並列し周圍の空虛には稻藁を以て填充す而して田土の粉碎せるものを芽の見へざる程度に振り掛け藁を小束の儘四重に積み尙其上に藁を二重蔽ひ尙藁を掛け藁を山形に覆ひて雨露の浸入せざる様にし温度は華氏七、八十度を適度とす此儘放置する事十日間にして藁及藁を除き全面に水三斗を灌注す而して細き棕梠繩にて製したる疎目の網を全面に蔽ひ其上に四ツ切にせる藁四貫匁、枯草三貫匁を水に浸し全面に蔽ひ尙麥糠六貫匁、米糠四升を水に浸し

全面に振り掛け藁を重積して被覆す尙一週間の後切藁四貫匁、枯草一貫五百匁、麥糠三貫匁、米糠四升を増し前の材料と混合し前と同様の作業をなし此の場合には棕柁繩の儘取出すものなり

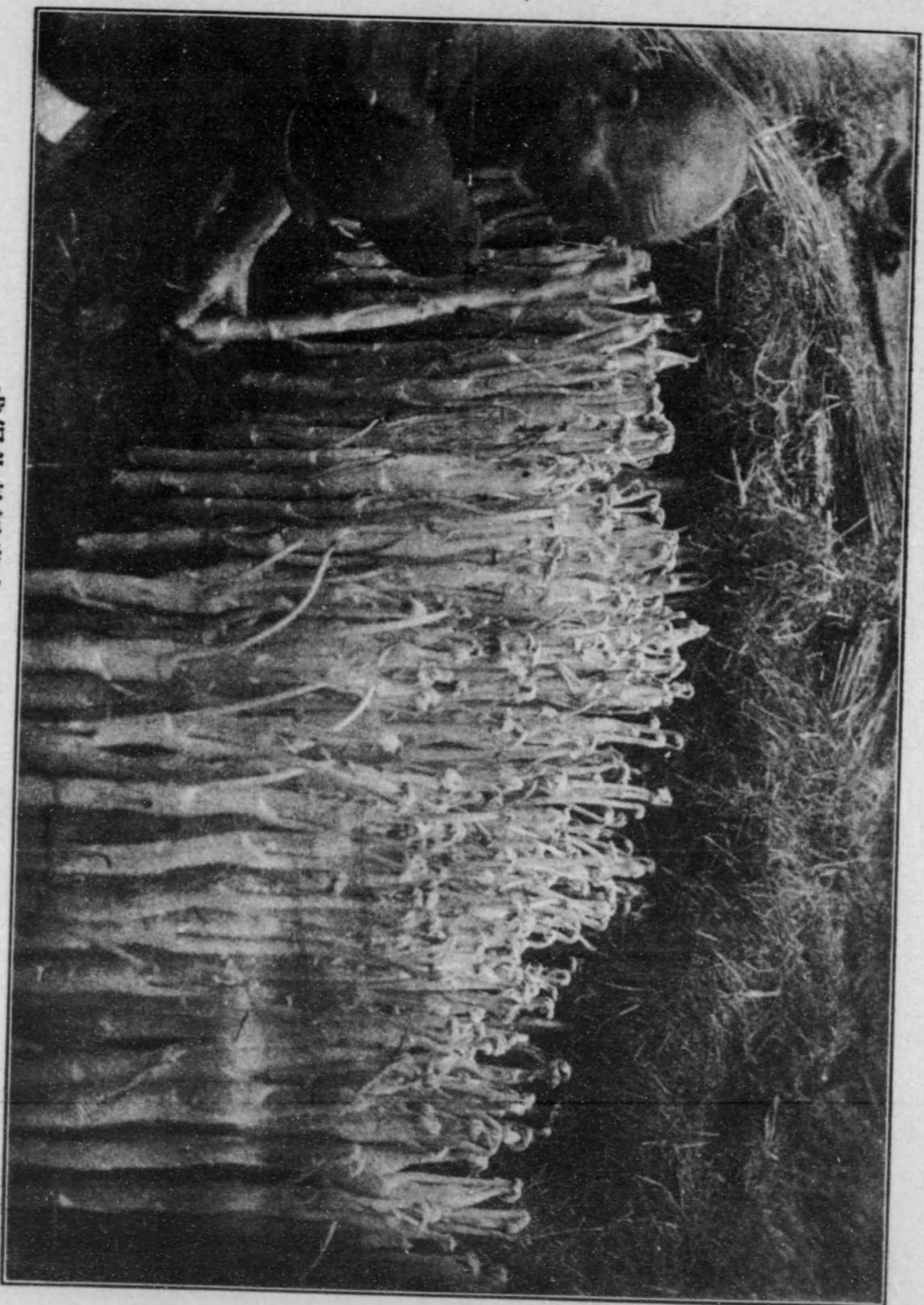
更に一週間の後麥糠三貫匁、米糠四升、枯草二貫匁を増し前同様の操作を爲す温度は常に華氏七、八十度を適温とし斯くして四週間乃至五週間に於て販賣に供する事を得るものなり

而して時期により黄芽、白芽、青芽と稱し黄芽とは三、四、五月中に採收するもの白芽とは十二、一、二月採收するもの青芽とは五月より七月頃迄採收市場に嚮出するものを云ふ

第十四節 土當歸

一、沿革

縣下に於ける土當歸の栽培は最も古きものにして古書尾張風土記に曰く海部郡重畝見山及箭野山に出茨芥獨活等民用繁殖種也とあるを見るも如何に栽培起原の古きかを想察するに足るべし然れども此等の品種は何れも在來種にして俗に白芽と稱するものなり



成促化軟歸當土るけ於に村和平郡島中

現時西春日井、中島、海部、愛知の各郡に涉り盛に栽培せられ縣下重要蔬菜の一として其名聲高き寒土當歸は明治三年海部郡甚目寺村大字上條館助左衛門氏遠州秋葉神社に參詣の途路濱松地方に於て土當歸栽培者たる某翁濱松に販賣すべく出荷するに出合ひ其優秀なるに驚き如何にかして種苗の分譲を得んものと其種類を訪ひたるに寒土當歸なりと云ふ、茲に於て同種を得んとするの念勃々として禁じ難く懇願以て種苗三本の讓與を受け飯宅早々苗床に植付たり之れ實に本縣寒土當歸栽培の嚆矢たるなり爾來氏は恰も父母の赤子に於けるが如く懇切に培養し専心其繁殖に従事せしかば僅か三年を出ずして約一反歩を栽培するに至れり

其後土當歸栽培の有利なるを目撃し栽培に志すもの雨後の筍の如く續出し苗の分譲を乞ふもの甚だ多く氏亦昂めて苗を養成分配し其繁殖を計りしかば遂に今日の盛況を呈するに至れり從來西春日井郡清洲町海部郡甚目寺地方を以て寒土當歸栽培の主産地とし産額に於て品質に於て之れに匹敵するものなかりしが多年栽培の結果其品質往時の如くならず今や中島

郡祖父江地方に於て最も優良なるものを産出するに至れり

二、品種

土當歸の品種に三種あり一つを寒土當歸とし他は在來栽培せしものにて赤芽及白芽の兩種とす又別項記載の如く中島郡平和村地方にて促成に使用する坊主及白芽の兩種あり

三、栽培法

一、繁殖

土當歸は宿根性なるを以て一般根分により増殖するも亦種子により或は挿木により繁殖する事あり然れども大部分は根分法により繁殖



寒土當歸採掘の状況

するを常とす即ち崩芽收穫後（春季彼岸前後）に於て之れを掘取り古根を除去し發芽良好と認めたるものを撰別定植するを常とす

一、定植期

春季彼岸前後即ち三月中旬より下旬に於て行ふ

一、整地

定植時期は三月中旬乃至下旬なるを以て大底麥の畦間に定植するを常とす其方法は麥三畦目（二尺畦の場合即六尺毎に畦間を耕耨し、三尺の距離に深さ七、八寸の植孔を作るものとす

一、定植法

發芽良好と認めたる根株を各植孔に植付原肥として堆肥糞灰水肥等を施用す乾燥地は抵

く湿地は稍淺く植付る様注意するものとす

一、中耕手入

麥收穫後新芽七、八寸乃至一尺位に伸長したるとき強壯なるもの二、三芽を残し其他は全部掻き取り施肥の都度漸次土寄をなすものとす

一、除 草

隨時行ふものなれども土當歸は夏季盛に成長し圃中一面に莖葉を以て覆はるるにより雜草の生ずる事至て少なし

一、肥料及施肥法

施肥の時期は年二回にして春彼岸前後即收穫を終り盛土を取り除けたるとき第一回を施用し其後六月下旬までの間に第二回の施肥を行ふものとす
一反歩の施用量左の如し

大豆	六十貫
粕	六十貫
過燐酸石灰	三百貫
堆肥	三百貫



土當歸掘器

盛土後收穫迄の期間は盛土の時期により

多大の相違あるものにして九月頃なれば三週間にして收穫する事を得れども十月以後にありては五週間乃至六週間を経ざれば收穫する事能はず

四、收 穫

收穫の時期は幼芽の盛土の上部に出現したるを見て行ふものとす其方法は前圖の如き土當歸掘(鐵の長

人 尿 尿 二百貫

肥料の種類は區々にして一定せず糠粕又は大豆粕のみを單用するものあり何れにしても土當歸の肥料としては窒素分多きを可とす

一、盛土期及其方法

盛土は十月上、中旬に行ふを常とす盛土二、三日前に莖を切り根元に光線を與へ始めは畦間の土を僅に株の上に掛け二週間後に於て高さ三尺位に盛土を行ふものとす

さ六寸巾一寸三分)にて局部を掘り凡そ地平線の程度に於て突き切り而して掘り取りたる穴は又元の如く土を以て埋め置くものとす

五、軟化促成法(萌土當歸)

一、沿 草

軟化促成の盛なるは中島郡平和村大字三宅地方にして該地に於ける土當歸の栽培は極めて古く全地津坂茂右衛門氏に付き其來歴を聞くに今を去る六十年前安政頃には相當に栽培し居たりと云ふ然れども全時期には需用極めて尠なく専ら自家用に供したるに過ぎず

津坂氏は明治十二年頃に至り軟化促成及盛土の方法を研究し其後苦心の結果今日の盛況を見るに至れり元來同地方に於ては専ら實生法により繁殖したるを以て充分注意せざる時は品種の退化する事多きを以て津坂氏は根分法及挿木法等を行ひ専ら殖種の統一を企圖したり明治廿年頃より同村に於ても軟化促成の有利なるを感知し津坂氏の方法を見聞し實行するもの多く全村字三宅部内に於ける農家の大部分は之

れが栽培に従事せざるものなきに至り其方法の漸次隣村にも普及栽培せらるゝに至れり

一、品 種

現今同地方にて栽培する品種は次の如し

(イ) 坊 主 種

明治十二年頃津坂氏の選出したるものにして同十五年に至り市場に販出し意外の高評を得たり

該種は促成とするも葉柄極めて少なきを以て坊主種と稱す莖は短小肥大にして重量多し莖には赤色の條あるを以て一名赤芽種と稱す

(ロ) 白 芽 種

此の種は前者の如く肥大ならずと雖も風味佳良にして其色純白なるを以て品質極めて優良なり

一、繁 殖 法

従來は實生法により繁殖したるも悪變し易きを以て現今にては皆株分法及挿木法を應用す

(イ) 根 分 法

促成の結了したる後床より掘出し古根を除去し新芽に新根の附着せしものを一株一芽づゝになし麥畑中に栽植す

(ロ) 挿木法

土當歸は容易に發根し易きものなれば促成の後嫩莖一尺内外のものを切り取り本圃に挿木し繁殖するものとす

一、肥培法

春季收穫後促成場より掘り取たる株を前記の方法により麥の畦間に栽植す畦巾及株間は三尺位として一反歩一千六百株を栽植す其後麥收穫後第一回の中耕を行ひ同時に第一回の補肥をなす六月中、下旬に至り第二回の補肥を行ひ同時に第二回の中耕をなす斯くして立秋後十五日位に至り第三回補肥をなす而して施肥中耕の外には除草するのみにて他の手入の必要なし

秋末に至り莖葉枯死せし後株元より莖を刈去り十二月上旬斷根せざる様丁寧に掘出し促成場に搬入し促成の準備をなす

一反歩に使用すべき肥料名及用量次の如し

肥料名	總量	原肥	第二回補肥	第三回補肥	第四回補肥
堆肥	21,000	10,000	10,000	10,000	10,000
糞肥	100,000	10,000	10,000	10,000	10,000
人糞	100,000	10,000	10,000	10,000	10,000
尿	100,000	10,000	10,000	10,000	10,000

一、軟化促成法

十二月上旬に至り株を掘取り促成場に搬入す床は温暖なる地を選び畦巾五尺五寸深さ六寸長さ適宜の穴を掘り此の中に株を並列す株は一行に付き十株より十二株を入れ厚さ一寸位に土を覆ひ一床に付き鉢粕五百匁内外を施用す斯の如く漸次株を並列填充するものにして床の長さ六間位のものに對し四畝歩の種株を要す填充後は稀薄なる人糞尿を施與す
以上の如き用意をなし隨時軟化促成を行ふものにして收量及價格等の關係上其時期は一定せざるも大要次の如き日數を標準として促成するものとす

三月上旬收穫せんとするもの

促成期間七十五日内外

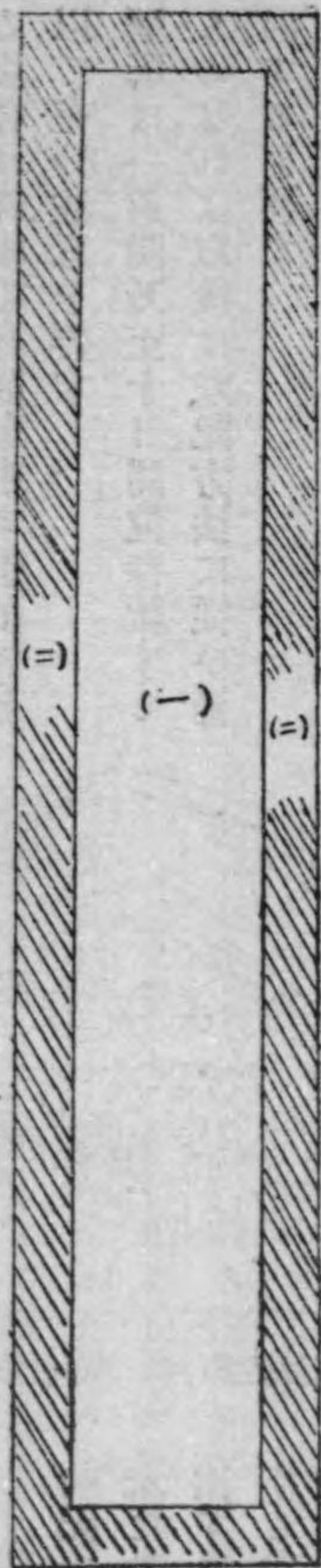
四月上旬收穫せんとするもの

促成期間六十五日内外

即ち三月上旬收穫せんとするものは促成期間永く稍々多くの蒸熱材料を要し尙技術困難にして收量稍少なきも市價高價なり然れども四月上旬收穫せんとするものは價格前者に比し稍廉なるも蒸熱材料少なく收量多きを以て收入の点に於ては大なる差を認めず

從て四月上旬に收穫する目的を以て一月下旬頃より促成に取掛るを最も安全にして且有利なるが如し
元來土當歸は低温作物なれば高温にて培養せんとするには多大の注意を拂はざれば失敗に陥る事多きが爲め蒸熱材料も一時に多くを用ひず少量宛數回に補充するを可とす其回数も促成の時期により一定せず普通左記標準に據るを可とす

(一) 藁を並列する場所 (二) 蒸熱材料を置く場所



三月上旬收穫せんとするもの 六回乃至七回
四月上旬收穫せんとするもの 五回内外
以下三月上旬に收穫すべき軟化促成の主要を記載すべし

前記の如く床内に株を填充し十二月中旬に至り促成に取掛るものにして株には六、七個より多きは十個内外の芽を存するものなれば其最上位の芽一個位を

露出し其他は覆土するものとす覆土終りたれば株上一面に枯草を覆ふ其用量は一坪に付約三貫匁とす次に床面の周圍一尺位を残し其内部に藁を一把づつ並列し周圍一尺の部に蒸熱材料として綿屑(サナンタ)に米糠を混合したるものを填充す之れを圖示すれば次の如し

一坪宛蒸熱材料の分量左の如し

綿屑	七貫匁
水	一斗五升
米糠	三升

初め綿屑に充分なる水氣を含ませ米糠を混合したる後填充するものとす斯く填充したる後は藁屑を一面に覆ひ其上に藁把を幾重にも積重ね以て雨水の浸入を防止す左に床の横斷面を圖示すべし

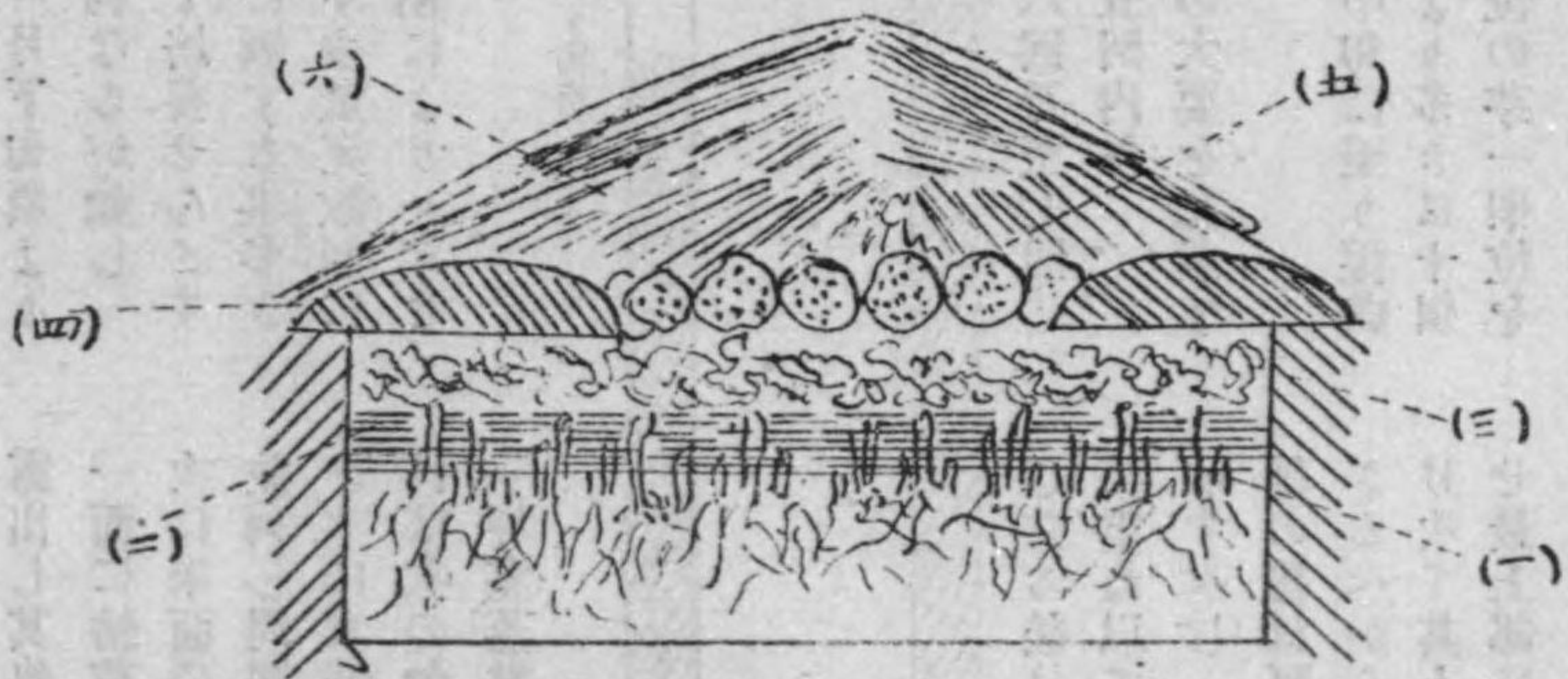
藁の覆は可成厚くなし決して雨水の入らざる様にせざるべからず初め藁把を根元を下に兩側より寄せ掛け次で其上より此れと反對に根元を上になし覆ひ寄せ最上部に一並べに藁を覆ひ藁の上より土當歸の枯

莖を束の儘戴せ置き中央を高く屋根形となす而して其上より根元を上になしたる藁を寄せ最上部に藁の如きものを以て覆となす

以上の如く蒸熱物の填充をなせば五日内外にして發熱すれば時々手を挿入して其温度を驗し餘り高きに過ぐる場合は株根の腐敗を來す事多きを以て充分注意を要す

醱酵は一週間乃至十日間位持續するものなれば以後は左記方法に従ひ補温するを要す

第一回の補温は蒸熱物填充後十五日間經過したる後にして覆藁を除去し前回の蒸熱物を手にて能く碎き一坪に付き水七升位を撒布し米糠八百匁内外を混合し充分攪拌し再び元の如く覆藁を行ふ其後二、三日にして醱酵し一週間後には又冷却するを以て第一回補温後十日内外にして第二回



(一) 土當歸種株 (二) 土 (三) 草枯 (四) 蒸熱材料 (五) 藁 (六) 藁古及藁

補温を行はざるべからず

第二回以後の補温は何れも第一回と同様にして六回乃至七回の補温をなせば收穫の時期に達するものとす然れども第三回補温當時には新莖の早や伸長し居れば十分注意をなし直接莖に蒸熱物の接觸せざる様叮嚀行はざるべからず

附記

前記の方法により收穫したるものは未だ外氣寒冷にして直ちに圃場に植出すには早き場合あれば其儘に放置する事なく其後伸長する芽を利用し第二回目所謂二番土當歸を收穫するを得策とす

之れが方法は藁屑を覆ひ前記の如く藁を覆ひ雨露を防止すれば足るものとす

一、收穫

收穫の時期は全部伸び揃ひし頃を最も可とし可成曇天の時を撰ぶ様にすべし

若し晴天なる時は日光の爲めに軟弱なる土當歸に着色し優美なるものを得る事至難なれば何か日覆をなし其直射を防ぐ様にすべし

收穫は覆を除去し土當歸に塵芥の掛らざる様丁寧一本づゝ土當歸堀を以て採收するものとす

一、收量

一床(六坪)の收量は普通二百六十貫より二百八十貫内外にして市價は栽培者の少なき時は甚だ高價なりしも昨今生産多きを以て本年度の如き一圓に對し二貫八百匁より三貫匁なれば一床より九拾圓乃至百圓の收入あるものなり一本にて優良なるものは拾錢位に販賣し得るものとす一反歩の苗を以て軟化促成を行ふ時は優に二百五、六十貫の收入あるものとす次に参考の爲め促成上注意すべき要點を示すべし

- (イ) 温度高きに過ぎず手を挿入して體温に均しきか稍高きを感じる位にて餘り低ければ補温を早く行ふ必要あり又高温に過ぐれば蓋藁を緩むものとす
- (ロ) 數反歩の苗を一時に促成するは出荷時期同一にして經濟上不得策なれば便宜上數日を隔て、行ふべき事

- (ハ) 補温の場合莖の伸長したるものに直接接觸せしめざる様注意すべき事
- (ニ) 補温の場合には可成手早く行ひ長く嫩莖を空氣に曝露せざる事
- (ホ) 床と床との距離は四尺以上となすべき事
- (ヘ) 使用する草は乾燥充分なる事

一、需給の狀況

前述したる如く當地方にあつては其初土盛の法を實行したるも軟化促成の研究以來益々技術の進歩し今日の如き優良品を生産すると共に需要益々増加し今や枇杷島市場を経て東京、京都、大阪、廣島等の各都市を初め遠く海外へ輸出するの盛況を呈するに至り該地方の生産者は大部分枇杷島市場に搬出するも中には直接他府縣へ移出するものあり

第十五節 薯蕷

本縣に於ける薯蕷の栽培區域並に産額に付ては別項の如く相當に栽培しつゝあり伊勢薯の栽培は各地に之れを行ふも海部郡神守村は其最も著名にして大字百島を中心とし南部を除き全村に渡り栽培をなし特

に百島産は百島薯と稱し枇杷島市場に其名高し栽培の起因は詳細に知るに由なきも何れも新らしく明治初年頃伊勢薯の原産地たる三重縣多氣郡津田村より移入したるものにして盛に栽培をなすに至りしは漸く明治三十年以降なりとす

本薯及江戸薯は伊勢薯と相違し地層深き砂土地を好むを以て自然産地を制限せられ其結果海部郡八開村葉栗郡淺井町及宮田村中島郡起町等の木曾川流域及矢作、豊川等の沿岸に良品を産す本薯は收穫迄に永き時日を要し資金の廻收遲きを以て近時此等の諸地方に於ては江戸薯を多く栽培するに至れり

一、栽培法

(一) 伊勢薯(海部郡神守村)

一、種薯の處置

三月下旬種薯を貯藏穴より取出し陰所にて水濕ある屋敷内柑橘の樹下等を撰定し該所に種薯を並べ置き以て發芽をなさしめんが爲め植付の際まで其儘に放置するものとす

一、植付

定植は普通四月下旬乃至五月上旬にして八十八夜前後を可とす前作は多く麥作にて畦巾一尺八寸株間一尺二寸に豫め「前打」と稱して充分麥畦内を耕鋤し種薯は一個づゝ丁寧に發芽部を上方にし深さ三、四寸に植付少しく覆土し元肥として種薯との中間に小孔を穿ち其中に練粕五升(一畝歩)を施し其上に堆肥を覆ひ發芽前に一回土寄を爲す種薯は普通原形の儘を使用するものにて大形のものも切斷使用する時は發芽及生育不良にして收量少なければ一般に採用せず通常種薯一個の大きさは二十匁内外とす

一、耕耘及施肥

六月上旬より發芽するを以て新芽の大凡一尺内外に伸長したる時竹又は木片を以て長さ二尺位の支柱を建て細繩を横に張り蔓の伸長するに従ひ該繩に捲き付け六月下旬麥刈取後第一回補肥として一畝歩宛練粕一斗を種薯の南側に施用し土寄をなす、七月上旬第二回補肥として同じく練粕一斗を畦の北側に施し再び土寄をなす其他補助肥料として人糞尿を一、二回施すもの多し

一、其他の手入

旱天連續の場合は乾燥を防止する爲め畦上株元に藁又は麥稈を布き尙時々灌水を爲す事あり除草は發生に従ひ行ふものとす

一、收穫及販賣

收穫の時期は十月中旬に行ふ事あるも普通十一月上旬にして收穫したるものは一時貯藏穴に入れ市價の如何を鑑み隨時取出し小根を除去し土壤の附着せる儘販賣す販路は主として枇杷島市場とす

一、貯藏法

貯藏の方法は極めて簡單にして宅地内樹木の蔭地に深さ二、三尺の孔を掘り其中に健全無傷のものを積み重ね土を覆ひ其上に藁又は藎を覆ひ雨水の浸入を防ぐものとす

(二) 本薯(葉栗郡淺井町)

第一年栽培

一、播種

四月上旬畦巾一尺八寸乃至二尺の麥畦間を耕し連續足跡を附し株間三寸位に二粒づゝ下種し覆土鎮壓す種子は「ムカゴ」を使用するものにして前年十月下旬莖葉の充分黃變したる頃採收し河砂と混じり日蔭の冷

濕なる場所に埋藏し置きたるものとす

一、耕耘及施肥

下種後凡そ二十日位を経過する時は發芽するものにして新蔓の二、三寸に伸長したる頃種子の南側に淺き溝を掘り一畝歩に對し菜種粕八升を施用し其上に堆肥を覆ひ六月上旬麥を地上五、六寸の處にて刈取り蔓の伸長に伴ひ麥稈に巻き付け以て支柱に代用す此の際前記施肥したる場所に水肥を灌ぎ土寄を行ふものとす、其後は時々除草を行ふ位にて他に肥培をなさず

一、堀取

十月下旬に至れば種根は既に七、八寸に成長し居るを以て堀取り貯藏し第二年栽植用に依し

第二年栽培

一、定植前の準備

三月下旬若くは四月上旬貯藏の種薯を堀取り約一週間許り陽光に晒し植後の發芽をして佳良ならしむるものとす

一、定植

初年栽培と同様麥間を耕し連續足跡を附し稀薄なる

人尿を注ぎ乾燥を待ち種薯を一尺距離（種薯の頭部より次薯の頭部迄）に横臥し緻若くは足にて覆土し植付の時期は四月上旬乃至中旬とす

一、耕耘肥培

植後約二十日を経置し種薯の側へ淺溝を設け其中に菜種粕一斗を施用し六月上、中旬頃麥の成熟したる時地上五、六寸の處より刈取り支柱となすものとす（三河地方にては繩を張り支柱となす）同時に畦間に人糞尿一荷鯨粕二斗を施し其上に堆肥を覆ひ土寄をなす其他は第一の方法と同様なり

一、堀 取

第一年栽培と異らず

第三年栽培

第二年栽培と殆んど同様なりも株間を一尺五寸とし施肥量に於て菜種粕一斗を増加する位の相違あるに過ぎず
牧穫は早きは九月下旬にして以後十一月下旬までに漸次收穫し貯藏販賣を爲すもの或は直ちに販賣するものあり
貯藏の方法は宅地内樹木の蔭地を掘り深さ三尺位の

穴を掘り無傷のもののみを掘り薯を一本づゝ横臥積重ね河砂を入れ更に其の土を覆ひ置くものとす
三、江 戸 薯（一年薯、ラクダ）
第一年栽培法は本薯と同様なり本種は第二年目に收穫し得るものなれば種薯定植の株間を一尺二寸乃至一尺五寸とし其他肥培法にありては本薯に於けると異ならず
收穫は早きは九月にして十一月下旬に終り直ちに市場に販賣し或は一時貯藏し市價に鑑み賣却するものなり

第十六節 卷 丹

一、沿 革

卷丹は從來より縣下各地に栽培行われ名産地に乏しからざりしも最近病害の發生甚しく其結果産地の轉々推移し一時藤ヶ瀬百合として市場に名聲高かりし海部郡八開村大字藤ヶ瀬の産も今や全く其跡を絶ち海部、中島、丹羽の一部及知多及三河地方の開墾地等に点々栽培を爲す位にして主なる栽培地左の如し
西春日井郡 師勝村、庄内村

丹羽郡 布袋町、扶桑村
中島郡 祖父江町、朝日村
海部郡 飛鳥村
知多郡 一圓
碧海郡 知立町、櫻井村
幡豆郡 福地村
以上の中海部郡飛鳥産のもの其名最も高く枇杷島市場への出荷は知多、碧海、三重縣産等もあるも過半は飛鳥産とす

二、栽培法

栽培の方法は縣下各地共殆んど同様にして海部郡飛鳥地方に於ける栽培法の大要を記載すべし

一、來 歴

栽培の起因は明治三十年頃にして大字福岡兒玉光太郎氏山林中に自生せるものを掘取り試植したるに成績頗る優良なれば年々増殖栽培せしに附近農家も之れに慣ひ漸次其面積擴張せられ今日の盛況を呈するに至れり
一、初年栽培

十月上旬肥沃なる畑地を耕起し巾四尺の平畦を作り其上に八列に四、五寸の距離に種百合一粒づつを下種覆土するものとす
種百合は第三年生百合收穫の際母百合の鱗片に着生する數多の小白合を使用するものにして二月上旬發芽したる時一、二回稀薄の人尿を施用するの外數回の除草を行ふ位にて別に肥培耕耨をなさず秋期掘取り第二年目の種子に供するものとす

一、二年栽培

下種の時期及方法は初年と同様にして六寸平方に一粒づつ下種す二月上旬發芽少しく伸長したる頃即ち三月上旬畦上に稀薄の人糞尿を施用す此の際葉部に附着するときは被害あるを以て普通降雨の前日を見計し施用するを例とす斯くして四月下旬に至り梳曹五號を一畝歩宛六貫匁を畦に撒布し其後は除草を行ふ位にて肥培耕耨をなさず秋季に至り掘取り第三年目の種子に供す
一、三年栽培

は二年生の中莖二寸以上のものを撰別し夫れ以下のは再び栽培し翌年の種子用となす種百合を

定植する時期は十月上旬にして畦巾二尺の雲苔苗畦間の南側に耕し株間八寸の距離に下種す二月上、中旬頃より發芽をなすを以て一畝歩に付き人糞尿一荷半を施し其跡に鯨粕五升を撒布し雲苔苗跡を「コマザラ」にて整地するものとす五月上旬第二回補肥として前回と反對の側に大豆粕五升を施用し土寄せなし爾後數回除草を行ふに過ぎず

一、收穫及販賣

十月上旬より一月下旬に渡り隨時收穫をなし市場に販賣す販路は名古屋を大部分とするも近來仲買者の手を経て廣島、大阪地方へ移出するに至れり

第十七節 欸 冬

一、沿 革

春陽三、四月の頃壬生菜、蒞葎草より遅く又豌豆、筍等より早く古物市場漸く寂寥ならんとするとき枇杷島市場を我が者顔に獨占するものは欸冬なり、縣下之が栽培起因は極めて古きものの如く記録の徵すべきものなく詳らかならざれども現今に於ては各地に其の栽培盛となり殊に最も盛なるは縣下西春日井

郡清洲町及び新川町、海部郡甚目寺村、全郡佐屋村知多郡大府町にして此等の原産地は知多郡なりと云ふ以下此等各地方に付きて沿革を記載すべし最も古き知多郡横須賀町大字加木屋に於ては詳かならずと雖も今を去る百餘年前に富豪早川平左衛門なる人あり氏は代々庄屋株にして維新前は赫赫たる家柄なりしも其後に至り漸く貧困となり遂廢家の止を得ざるに至れり而して此の土地人手に入るや宅地内に斯の欸冬の有るを發見し甚だ早生にして珍らしきものなりとて栽培せしに始ると云ふ但し以前早川家に於て栽培せられ自家用の外横須賀町青物商三國屋に販賣せられし事ありと云ふを見れば早や數十年來栽培せられしもの如し現今に於ては當村全般に栽培せらるるに至り其の面積全町のみにて拾五六町歩以上にして毎年壹萬五千參百圓以上の收入を得つつありと云ふ

次に尾西地方の沿革を述べんに初めて輸入せしは明治二十九年頃にして當時西春日井郡西枇杷島町字小塚塚と稱する處に渡邊喜兵衛なるものあり氏は夙に植木盆栽を好み頗る風流家なりき時に明治二十九年

九月洪水の爲め庄内川破堤し小塚塚地方一体の湖となり作物殆んど收穫皆無の悲運に接せり此時に於て在來栽培せし晚生欸冬なるものも洪水の爲め根部腐敗し絶株となり當時當字より伊藤喜右衛門の子息尾張國知多郡横須賀町大字加木屋の寺院なる法幢山普濟寺に小僧として弟子入なす時に喜右衛門氏普濟寺に至りしに當寺の裏手に欸冬の根を掘り捨てあるを見數株を貰受持歸りて宅地内に栽植せり近隣なる渡邊氏最も早生種なるを見如何にして手に入れたく思へ共元より僅の欸冬故分配も乞へず氏も又氣概ある人にて何れより貰ひ



知多郡大府町大字山の間に於ける冬栽培の状況

受けしを聞くを好まず、日夜熟考し遂に喜右衛門氏の交際先に注意をなし小僧の關係より知多郡より持ち來るものと鑑定なし翌日直に知多郡加木屋に至り見るに各戸共自家用にして栽培あるを以て最初七十貫を購入し先づ自家の畑地に植へ付けしに果して品質良好にて早生種なるを以て大に望を囑し翌年七百貫を購入し之を清洲町始め大字朝日、新川町及び甚目寺村大字萱津等に分配し茲に於て尾西地方に該種の栽培をなすに至れり而して此の栽培其後年を逐ふて盛となり清洲町殊に新川町の如きは現今皆油障子を使用し半促成をなし早やくも二月下旬乃至三月上旬頃より市場に

販出するに至れり

二、種類

秋冬には數種あるべきも縣下に於て栽培しつゝあるは二種に過ぎず一つは在來の晩生種にして其莖赤く長大なり、他は早生種にして其の莖根部稍紅色を帯べども其他は青く晩生種に比し稍硬く莖長大ならず現今にては晩生種を減じ其の大部分は早生種にして益々増殖し栽培面積の如きも七、八十町歩餘に達せり

三、栽培法

秋冬は如何なる土地に於ても能く繁茂するものにして唯肥料の潤澤さへ計れば別に注意すべき必要のなきものなれども蔬菜として其の品質を優良ならしめ春早く青物市場に出荷せんとするには相當の方法を講ずる必要あり即ち最も進歩せる方法としては冬季中に油障子を覆ふ半促成栽培及び小屋掛栽培と稱して只四圍及び上を覆ひ寒風、霜害、雪害を防除する方法乃至は四圍のみを圍ひて寒風を斷つ在來の方法

等種々あり此等順を逐ふて記することゝなし先づ一般の必要條件なる種目に付きて述べん

一、繁殖法

秋冬は宿根草なるを以て繁殖は根分法に依るものなり即ち收穫後株を掘り起し古根を去り發育最も良好なるものを撰び栽植す而して栽植後二、三年にして全盛期に入り其後三、四年即ち栽植後六、七年にして勢力衰へ收量を減するに至らば植換を行ふものとす

栽植の割合は苗の良否によりて一定ならざれども通常苗一坪を四、五坪に栽植するを最も適當の如し

一、定植法

定植は春秋兩度に於て行ふ事を得るも秋季は既に翌年の收穫準備整ひたる者なるが故に不利なるを免がれず故に一般は五月上、中旬頃麥畑に植ふるを以て普通とす其方法は麥の畦間を耕し株間を五、六寸に定植す尙ほ將來覆をなすが爲め便宜上豫め區劃を定むる必要あり而して其形状は南北に短く東西を長くするを可とす

一、中耕及手入

麥刈取後施肥をなし一番中耕を行ひ土地を平均ならしめ一面に藁を敷き乾燥を防ぎ常に除草をなすものとす

一、施肥

秋冬は其地肥沃なる土地を好むものなれば肥料は出來得る限り多量を可とす殊に新根の發生充分ならざれば收益少なし故に堆肥の如きものを多量に使用すれば其効力一層大なり然れども地方により肥料は一定ならざれども一般に年三、四回施用す即ち第一回は收穫最終後(即ち六、七月頃にして全量の一割五分を使用す)第二回補肥は初秋即ち九月頃全量の二割五分を施し秋秋冬を收穫すると共に株根の肥培を充分ならしめ第三回補肥は十二月下旬防寒設備前に於て全施用量の六割内外を施し防寒設備に取掛るものとす且又收穫毎に稀薄なる人糞尿を畑一面に施與すべし

肥料の種類は主に大豆粕、練粕、堆肥、鶏糞、糞灰等にして其反當施用量は地方により一様ならざれども縣下重要の栽培地を比較すれば次の如し(但し一反歩宛)

肥科名稱		海部郡佐屋付附近	
數	量	數	金
堆肥	2,000,000	堆肥	10,000
大豆粕	1,000,000	大豆粕	15,000
練粕	1,000,000	練粕	15,000
人糞	100,000	人糞	15,000
鶏糞	200,000	鶏糞	15,000
糞灰	200,000	糞灰	15,000
合計		合計	90,000

肥科名稱		西春日井郡清洲町新川町附近	
數	量	數	金
堆肥	2,000,000	堆肥	10,000
大豆粕	1,000,000	大豆粕	15,000
練粕	1,000,000	練粕	15,000
人糞	100,000	人糞	15,000
鶏糞	200,000	鶏糞	15,000
糞灰	200,000	糞灰	15,000
合計		合計	90,000

肥科名稱		知多郡須賀町附近	
數	量	數	金
堆肥	2,000,000	堆肥	10,000
大豆粕	1,000,000	大豆粕	15,000
練粕	1,000,000	練粕	15,000
人糞	100,000	人糞	15,000
鶏糞	200,000	鶏糞	15,000
糞灰	200,000	糞灰	15,000
合計		合計	90,000

前記の如く西春日井郡清洲町及新川町附近の半促成栽培地にあつては能く七圓以上の肥料代を費消し海部郡佐屋村の日覆栽培のみにても五圓以上知多郡地方も全様なる有様なり之れに據て見れば欸冬に最も多量の肥料を要する事明なり

一、小屋掛栽培法

本法は海部郡佐屋村及び西春日井郡清洲町、新川町附近の普通栽培法にして殊に佐屋村地方は十中の八九迄該法を採用す

即ち十二月下旬より一月上旬に亘り圃場の北方約二尺西方約六七尺の高さに藁圍をなし小麥稈、藁萱藪等を以て北方より南向の屋根(霜覆)を葺き日光の透射を充分ならしむる爲め凡そ四十度内外の角度とす而して屋根の倒伏を防止する爲め支柱を一、二間置位に建つものとす

一、手葭掛栽培法

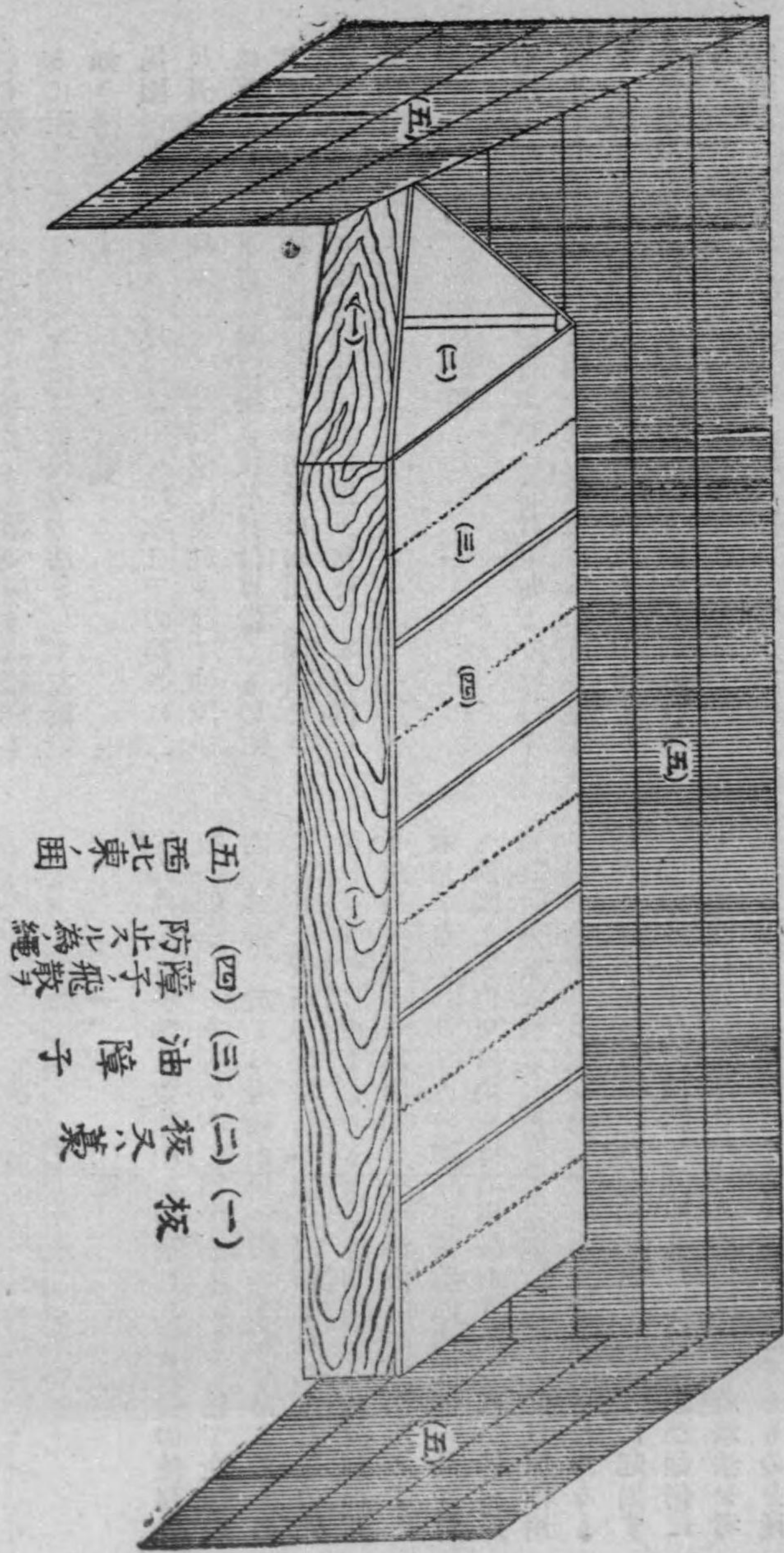
圃場の周圍は高さ凡そ三尺の藁垣となし東西の長さ方面に二列の竹を纏結し之れに南北の短き棚竹を三尺置に載せ結束し其上に手葭を覆ひ防寒の用に供す右の如く垣及霜覆をなせば其後は毎朝手葭を北方に

卷付け日光の透射を充分ならしめ温熱を給し午後四時後は覆をなし防寒す斯の如く毎朝毎夕開閉を連續する事八十日内外にして止む即ち四月中旬頃なりとす

一、半促成法

栽植の時期及方法は前記普通栽培の方法と何等異なる点なきも只木框を架し油障子を覆ふに便なる様一定の幅に栽植す即ち障子の大き普通巾四尺長さ五尺のものを両方より両屋根形に覆ふものなれば床の巾も九尺内外に割し定植す其他肥培の方法は何等異なる点なし

其方法は十二月中下旬頃に至り欸冬畑の掃除をなし施肥の後寒風を防止する爲め西、北方を約六、七尺の高さに藁圍をなし同時に油障子を覆ふものとす油障子は前述せる如く巾四尺長さ五尺のものを両面より屋根形に覆ふものにして最初は只中央に低く棟木を架し此れに両面より障子を架し障子の一方は地上に接し夜間は油障子のより上より拭を一重なみに覆ひ然る時は數日ならずして新芽の萌芽し十五、六日後には葉の障子に接着するに至るが故に此時遅れず障子



(一) 板
(二) 藁
(三) 油障子
(四) 障子飛散防止用繩
(五) 西北東、圃

第十八節 愛知白菜

(元山東白菜と稱したるものにして大正六年愛知白菜と改名す)

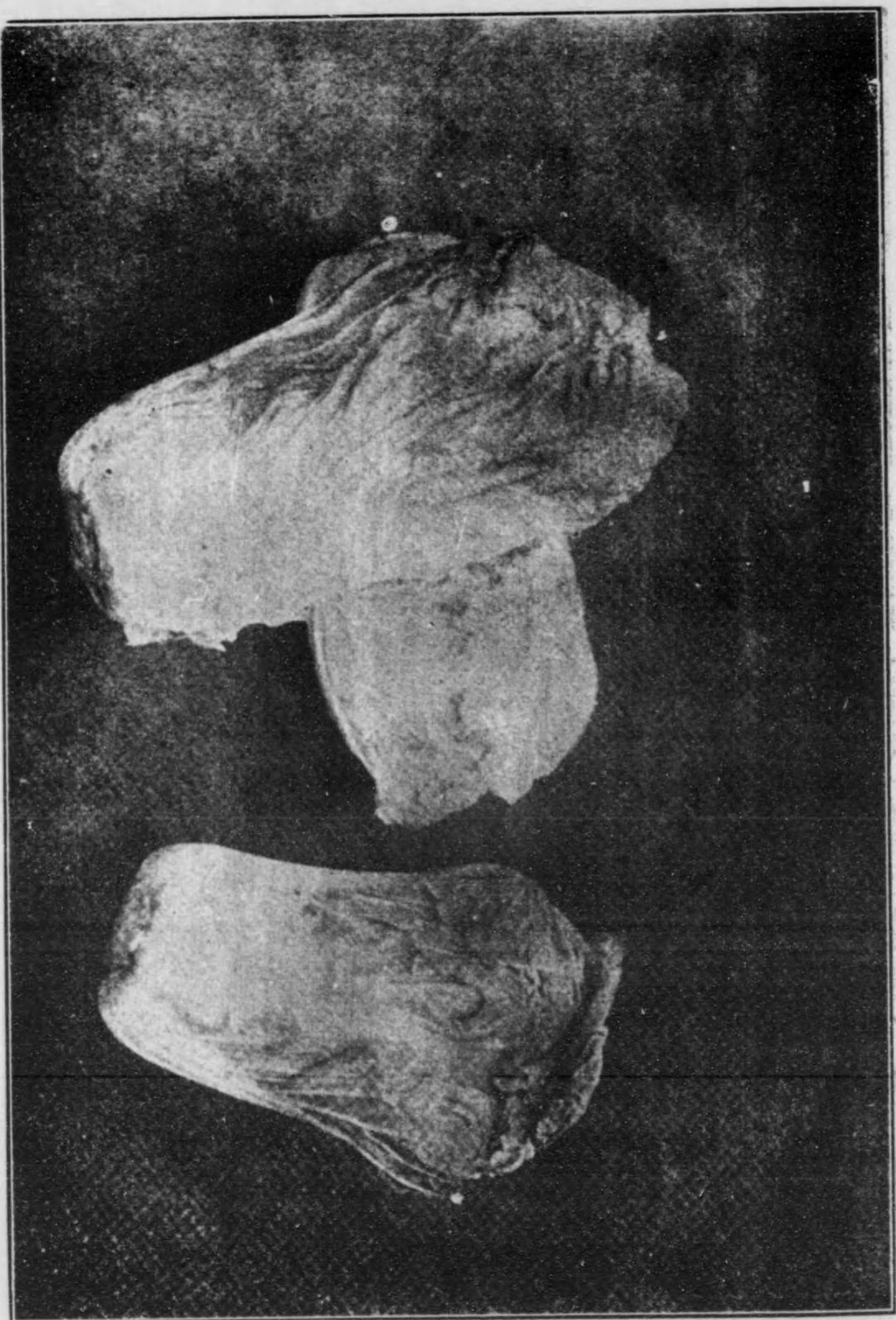
一、沿革

愛知白菜は冬季葉菜類中の白眉にして品質の佳良外観の優美なる本種の右に出するものなし従て全種の出荷時期に於ては青物市場一段の光彩を沿ふるものなり近來栽培の激増し各地に之れを見ざるなきの盛況を呈するに至りたるも其最も著名なるは愛知郡荒子村及笠寺の一部西春日井郡清洲町の三ヶ所とす栽培の起因は明治八年東京市博物館内開催の品評會へ清國より山東白菜三株の出品あり此の内二株を愛知縣植物栽培所(名古屋市所在)に交付を受け原種用として全所に栽植採種し翌年より播種栽培したるも葉青くして結球せず之れ栽培の當を得ざるに起因するものとし主任戸田壽昌其他甚だ迷憾に思ひ如何にもして純良品を生産せんと苦心焦慮種々栽培法を考究する事數年其効空しからず遂に結球するものを産するに至りたれば該種子を各郡役所を経て有志者に分與する事を得たり時は明治十八年とす

の地面に接する處に藁束を積み其上に架し障子を高くす斯くするも亦數日ならずして葉の障子に接觸するに至るものなれば今回は最後の方法として左圖の如き構造となす
周囲の圍板は高さ一尺三寸中央棟木までの高さは二尺五寸にして棟木には十尺置位に支柱を建て油障子は落下せぬ様下方の縁に狭き板を打付け置くものとす而して右装置を施したる後障子は密閉し開放せざれば二月下旬に至り收穫するに至る當時一本の價一錢内外とす

四、收穫及調製

前述の如く栽培手入を行ふ時は二月下旬より收穫する事を得るものにして第一回の收穫は莖の成長盛なるものより漸次抜き取り第二回は四月上、中旬より全部刈取り第三回は五月中旬に至り同じく刈取收穫す
收穫したるものは上、中、下三段に區別し各十本宛を一把となし其の十把を纏め一束とし菰或は藁にて包み市場に搬出す



愛知白菜

荒子村大字大蟻螂野崎徳四郎氏は全年該種子を佐藤氏より譲受け爾來熱心に栽培せしも當時は一般需要者に於て山東白菜の何物たるやを熟知せず從て市場に於ても其價値を認むるもの少なく收利甚た少なきを以て微々として振はざりき然るに明治二十七年日清戦役後其需要急激に増加し市場の賣行可良にして他種に比し一段の高價に賣却するを得たり其結果漸次栽培者の増加し三十五、六年頃より其産額一層多きを加へ當業者の栽培法に精通し品質愈々良好にして其名聲全國に喧傳せらるゝの盛況を呈するに至れり然れども多年栽培の爲め自然淘汰の結果形状品質に多大の相違を來したれば大正六年本場に於て愛知白菜と改名したり

左に参考の爲め本種の熱心なる栽培者の氏名を示すべし

愛知郡荒子村大字大蟻螂	野崎徳四郎
全 郡全 村	野崎綱次郎
全 郡全 村	野崎治三郎
全 郡笠寺村大字鳴尾	久野増次郎
全 郡荒子村大字中島	安井達次郎

西春日井郡清洲町大字清洲

瀬尾理兵衛

二、位置及土質

愛知白菜の原産地たる愛知郡荒子村は愛知郡の西南部庄内川の下流にして土質は第四紀新層の沖積砂質壤土にして土地甚だ肥沃葉菜類の栽培に好適し且名古屋市に接近し縣下蔬菜栽培地として屈指の地方とす

愛知郡笠寺村大字鳴尾は郡の東南に位し東海道線大高驛より西北數町天白川に添ひ砂質壤土にして郡内屈指の蔬菜生産地とす

西春日井郡清洲町は縣下に於て有名なる各種蔬菜栽培の最も盛なる地にして名古屋を去る北二里枇杷島市場に近接し交通至便の地とす土質は木曾川の沖積に依り生じたる第四紀新層の砂質壤土にして土地豊伏蔬菜栽培に唯一の地とす

三、栽培法

一、整地及播種

前作物の跡地を丁寧耕起し土塊を細碎し畦巾二尺

とし畦の中間に原肥堆肥人糞尿を施用するものあるも甚だ少なし而して畦の側面中央部に一尺二、三寸の巨離に足にて踏み付け足跡を附し稀釋なる人尿を注ぎ一ヶ所十二、三粒づゝの種子を播下し足にて淺く土を覆ひ軽く鎮壓す

下種の季節は八月二十五日頃より九月五日頃迄に行ふを可とす時期遅きに失する時は結球充實せずして純白のものを得難く早きに過ぐる時は病虫の被害多きを以て下種時期を誤らざる様注意する事肝要とす

一、間引
發芽後一週間位を經過し第一回の間引を行ひ成長の模様により二回三回と間引し終りに一ヶ所一本とす間引は愛知白菜栽培上最も注意すべき條件にして苗の良否を鑑別するには葉形細長に過ぎ直立性のもの及葉柄丸くして長きもの葉色濃厚なるもの及柔弱なるものを除き葉色淡緑にして葉柄扁平葉面には毛茸を有し葉形正しく稍縮みの傾きあるものを殘置す

一、耕 鋤
耕鋤は施肥と共に先行ひ發芽後二週間位を経て第一回の除草中耕をなし其後二週間を隔て、二、三回行ふ

ものとす

一、施肥

肥料は人糞尿を主とし之れに鯀粕を用ゆるものと大豆粕を使用するものとあり通常發芽五、六日を經過し第一回補肥とし稀釋なる人糞尿を施し其後十日位を隔て、第二回補肥として全様人糞尿を施し九月下旬乃至十月上旬第一回の中耕土寄をなし全時に鯀粕約二十貫匁(一反歩宛)を施し第二回補肥をなす其後十日を經過し二、三回人糞尿又は人糞尿に硫酸安母尼亞を加へたるものを施し施肥の終結とす施肥は多き程收量品質共に佳良なるも新鮮なる人糞尿は往々生育を害するを以て充分腐熟せしむるを要す一反歩宛施肥量の標準を示せば大要左の如し

人 尿	四十貫	原肥
人 糞 尿	六百貫	補肥
鯀 粕	二百貫	補肥
鯀 粕	二十貫	補肥
硫酸安母尼亞	六 貫	補肥

一、纏 結
十一月上旬頃に至り結球し初め漸次古葉は垂下し

(俗に「すだれ」と稱す)地上に接近するを以て此の際垂下を防ぎ且結球を助生せしめんが爲めに二條の藁を以て株の中央部を緩く纏結す該法にして早きに過ぐる時は氣候未だ温暖なる爲め生長を妨げ腐敗の恐あるを以て時期を誤らざる様注意するものとす

一、收穫及販賣
十一月中旬充分結球し外葉枯死の狀を呈するに至れば鎌にて土際より切り外部の汚葉を除去し美麗なる白色球となし籠に入れ市場に運搬す
荒子村地方は主として中央市場へ出荷し笠寺村は中央市場及枇杷島市場の兩所にして西春日井郡地方は大部分枇杷島市場に出荷するを慣例とす

四、採種栽培

栽培の増加に伴ひ縣下に於ける種子の需要を増加し加ふるに本縣産の名聲高きを以て他府縣よりの需要甚だ多きを加へ其結果栽培の傍ら採種をなすもの多く其收量亦尠なからざるに至れり
採種は前記各栽培地にて多少行はるるも大部分は原産地たる荒子村に於て行はるるものとす全所にては栽培の當初より多少採收し明治三十五年頃は野崎徳

四郎氏の如き一石以上を採種し東京興農園へ特約販賣したり昨今に至りては採種栽培反別二町歩に及び向清洲町附近知多郡上野村愛知郡笠寺村地方に於ても採種を爲すもの多々あり縣下に於ける確實なる採種者の氏名を擧ぐれば次の如し

愛知縣荒子村	野崎徳四郎
全 郡全 村	野崎治三郎
全 郡全 村	布目己三郎
全 郡全 村	奥村勝次郎
全 郡全 村	寺野小三郎
全 郡笠寺村	久野増次郎
西春日井郡清洲町	瀬尾安兵衛
知多郡上野村大字名和	愛知白菜採種組合
愛知郡下一色村(芝罘白菜)	二村松太郎
中島郡祖父江町(開城白菜)	大野榮次郎
全 郡稻澤町(雪白体菜)	飯田領右衛門
荒子村野崎徳四郎氏は種子の交雜を慮へ昨年度より網室を設置し其中にて栽培採收したる純系種を原種とし一般村内の栽培者にも交付し以て全地方産種子の改良に努力し又別項記載の如く採種組合を組織し益々優良種子の採收販賣に意を用ゆるに至れり本年	

度の如き野崎氏一人にて七石を採收し全地方にて三十石以上を生産せり
種子の需要地は縣内五、六分縣外四、五分の割合にて縣外としては山口、福岡、東京、富山、廣島等を主とす

一、採種栽培法

一、整地

十月頃前作物(甘藷)の跡地を耕起し土塊を碎き二尺の中畦を造り足にて蒔條を立て四、五倍の水に稀釋したる人尿(一畝歩六、七貫)を注ぎ種子を播下す然る後灰を覆ひ「こまざら」にて淺く覆土す一反歩に要する下種量は普通五勺とす

一、間引及施肥、中耕

發芽後一週間を経て第一回の間引を行ひ更に十日を経て第二回を行ひ同時に鯨粕一貫匁(一畝歩)を畦の側に施し第一回補肥をなす其後十日を経て第三回の間引をなし七、八寸とす斯くして二月上旬油粕一貫五百匁(一畝歩)を前回と反對の側に施し同時に土寄をなし其後一、二回の除草をなすに過ぎず

一、刈取及調製

五月中旬頃既に開花結了し其後莖葉全く黄變するに

至りて鎌にて刈取り一週間乃至十日間後熟乾燥したる後蓆上に數日間日干し充分乾燥せしめたる上脱粒し篩にて莢雜物を除去調製す
採種栽培に使用する原種は前年十二月上旬圃場にて適當なる母株を撰擇し前記の網室に移し栽培採收したるものを原種とす

第十九節 大高菜

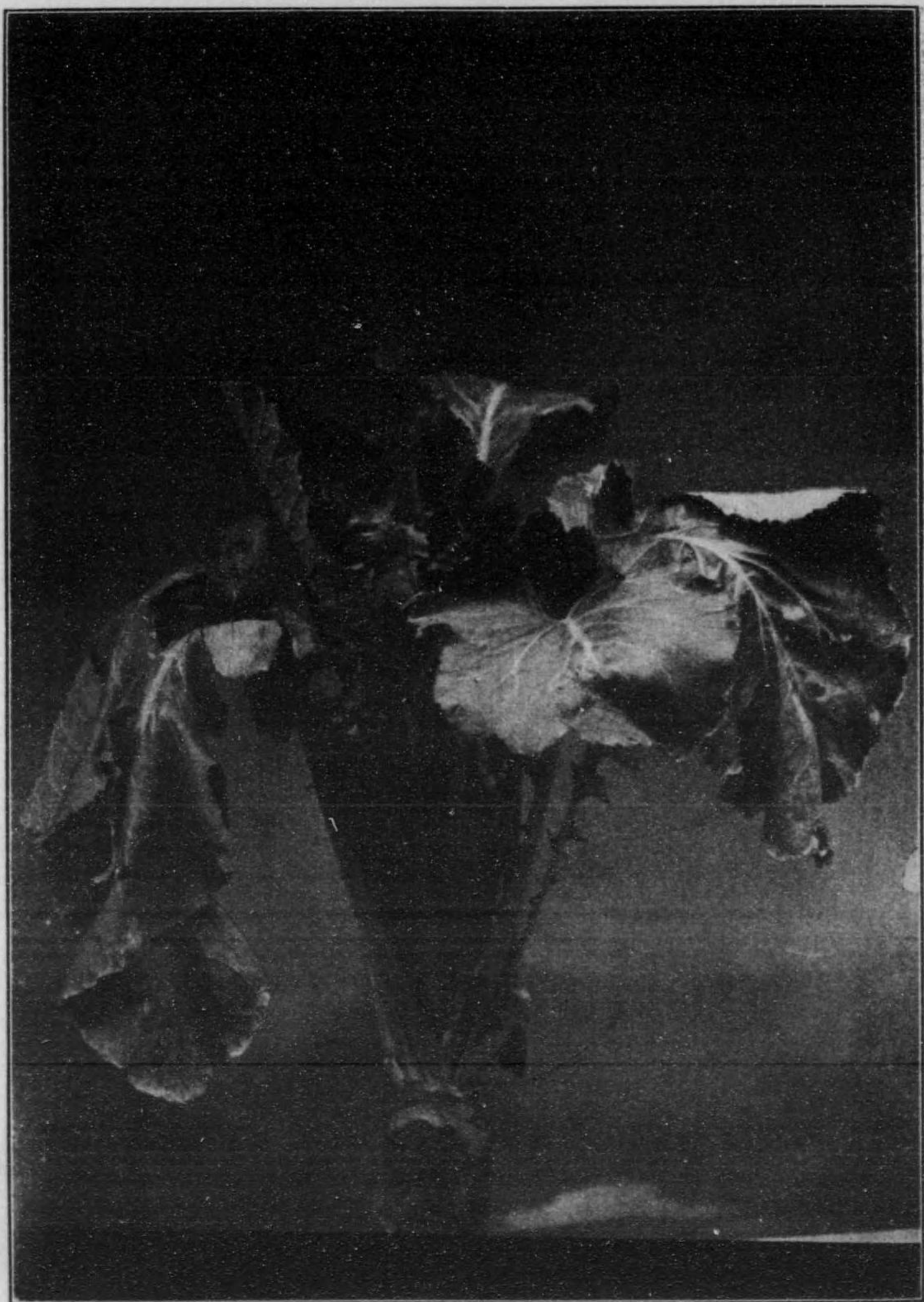
一、沿革

知多郡大高町の原産にして往古は尾張名物の一つとして最も古くより縣下殊に名古屋以東に栽培せらる之れが起原は甚だ古く到底既往に遡り尋ぬるに由なきも既に享和三年鳴海の陣屋代官酒井氏に上納せし「大高菜作方覺」なる書籍に據れば既に二百年以前より其名の普及しを推知するに足る

大高菜作方覺

一、畑畦巾三尺但し濕地に候へば二尺巾位宜敷

一、根肥に藁草敷き土をきせ場をならし、げす肥を掛け少くはさき候を見合種子を蒔き土をうすくさせ熊手にてむらなきやふに場をならしこ



大 高 菜

みを取申事

但し畑一畝に付種三合程

根肥は干藻にても生藻にても不苦

一、生出二つ葉より追々拔立其都度うすきげす肥を掛け菜五寸程に成候へば三、四寸間に拔揃へ此節より菜一尺五、六寸に成候迄小便に腐水をさし隔日或は二日置くらいに仕候事

但し期日總て肥いたし候つめ方宜敷菜四、五寸位より干齧出し肥仕候方宜敷候へ共當地方にては犬狐、捌候故此肥しは相用ひ不申候

一、菜霜を兩三度受け候時節より喰候方宜敷事
右は當村菜作方書上候様仰付させられ奉畏則前件書上り通相遠無御座候 以上

享和三年亥八月

大高村庄屋

治 兵 衛

酒井長左衛門様

御役所

二、特 性

大高菜は其丈二尺より三尺以上に涉り用途は多く漬物となし又煮食として採用す葉は長く缺刻を有せず寫真に示すが如く下部に球根を附し一見蕪菁に酷似す葉、莖、根共に柔かくして風味可良に口腔に纖維を留めざるを特徴とし近來は各種菜類に良品種多きに至り該種の栽培は漸次衰頽しつゝあり

三、栽培法

一、整地
前作物黍、粟の收穫後其跡地を耕起土塊を細碎し巾二尺乃至三尺の平畦とし元肥としては海藻一畝歩に付三荷乃至五荷若くは干齧一畝歩二、三升を下部に敷込み土を覆ひ其上に下種するものとす

一、播種

普通秋分二、三日前即ち九月中旬乃至下旬前記の場所の下種す下種前稀釋なる人糞尿を注ぎ少しく乾くを待ち其上に種子一畝歩に對し約一合の割合に播下覆土し熊手にて上面を掻き均らし稍鎮壓するものとす

一、間引

(尾張名所圖繪所載)

大 高 菜

大高や

菜の花の

よしの

山

士朗



玉溪園

九〇

發芽後四、五日を經過して
第一回の間引を行ひ其後數
日毎に時々間引五寸位に成
長するを待ち漸く三、四寸
の距離に一本を残置す

一、施 肥

肥料は人糞尿を主とし風呂
水四荷に人糞尿半荷位を混
合したるものを間引の都度
施用し爾後時々人糞尿を使
用す但し施肥の時期は通常
朝夕に於て行ひ日中は行は
ざるを慣例とす

四、收穫及調製

秋末降霜二、三回に及びし
時より開始し其當時收穫せ
しものは風味最も佳良なり
收穫したるものは五本乃至
十本位を根の附着せる儘結

束し外部は藁にて包み其上、下部を固く結束し擔ひ
得る如くす(名所圖繪參照)

五、販賣法及販路

大高菜は古來よりの習慣上市場若くは仲買人等に販
賣するが如きことは甚だ少なく自家用に充つる外は
多くは進物となし或は進物の目的にて賣買さるゝ額
莫大にして東京地方にまで搬出す之れ當地産のもの
は他産に比し著しく優美なるを以てなり亦一部は採
種用に供し年々他地方へ移出する額頗る多く全町に
て生産する種子は七石以上にして逐年需要を増加し
づゝあり

第二十節 甘 藍

一、沿 革

縣下の西洋蔬菜中栽培の尤も盛なるものにして現今
主なる産地は愛知、西春日井、中島、海部の諸郡に
して就中愛知郡荒子村附近其栽培最も早く亦盛にし
て縣下の主産地たり以下同地方に於ける栽培の状況
を記載すべし

荒子村地方に於ける栽培の起因は明治二十年全村大
字大蟻野崎徳四郎氏は名古屋市佐藤管左衛門氏よ
り該種子の分譲を得栽培したるを以て嚆矢とす氏は
三、四畝歩づゝ栽培し成績至極良好なるも需要少な
き爲め生産少しく多き場合は市價下落し到底多數の
栽培は望なかりき然るに明治三十四、五年頃より漸
次需要を増加し收利多きを以て栽培するもの増加し
目下全地方のみにて其面積十町歩餘に達せり

二、土 質

荒子村は庄内川の河流に沿ひ第四紀新層にして砂質
壤土よりなり周圍は水田にて田面より二尺餘り高き
所謂島畑にして多濕に失せず又乾燥に遇ぎず甘藍栽
培地として適當の地と稱するを得べし

三、品 種

數種の栽培をなすも早生にては「アーリースプリ
ング」中生種は「サクセツション」最も多く晩生とし
ては「プレミウム」種なるも其栽培至て少なし

四、栽 培 法

一、播種

下種は多く苗床に行ひ發芽後一回本葉一葉の時移植を行ひ爾後四、五葉を生せし頃定植するものとす其他本圃に直播するものもあるも極めて僅少なり直播に依るものは生育良好にして乾濕に抵抗する力強く生熟期早きも一圃場に數作栽培せんとする場合前作の關係上至難なると結球歩合少なきを以て移植法に依るを可とす

當地に於ける甘藍栽培は周年絶間なく收穫し得る様下種するものにして今播種期と採收期との關係を列記すれば左の如し

播種期	採收期
三月上旬	七、八月
六月上旬	十月
七月上旬	十一月、十二月
十月上旬	六、七月

尙栽培歩合は三月一割弱、六月一割、七月三割、十月五割にして結球歩合良好なるは七月及十月播を最良とす三月及六月播は害虫の被害多きと梅雨に遭遇するを以て良品を産するを得ず

一、育苗法

肥沃なる畑地に幅三尺長さ適宜の床を設け堆肥及藪灰を混じ熊手(レッキ)にて土塊を細碎し表面を均一ならしめ鍬にて軽く押し人尿の腐熟したるものを三四倍に稀釋し之れを注ぎ乾燥を待ち平等に撒播とし一分内外の厚さに覆土す發芽後密生の個所を間引き本葉一、二葉を生せし時別に前同様の床を設け該所に方三寸位の巨離に移植し稀釋したる人尿を施用し四、五葉を發生したる時移植を以て臺を附し堀取り本圃に定植す此時期に於て充分苗の良否を識別し良苗を採用するにあらざれば生産少なきを以て特に注意を要す概して葉莖の細長なるもの葉に鋸齒あるものは結球歩合劣るを常とす

一、輪栽法

春蒔にあつては多く鹹果類を前作とし麥を後作とす秋蒔は菠薐草、白菜、菜菔等を前作とし甘藍黍等を後作として栽培するを普通とす

一、整地及定植

前作物の跡地を除草耕起し幅二尺の畦を造り畦間の溝に原肥を施し其上に畦の中間より土を繰返し熊手

を以て土塊を碎き一尺五寸乃至二尺の巨離に植穴を設け人尿に二倍の水を加へたるものを少しづつ、灌注し其上に苗床に育成したる苗を一本づつ、丁寧に定植するものとす

一、肥倍中耕其他

定植後一週間に於て株の両側に人糞尿、大豆粕、堆肥等を施し全時に耕耘をなすものとす其方法は肥料を埋めながら土寄をなす第二回は爾後十五日位を経た第一回と同じく肥料を施し第三回及第四回は十日乃至十五日を隔て、人尿を條溝に注ぎ耕鋤をなす除草は隨時施行するものとす
害虫としては青虫、蚜虫の發生多ければ前者は捕殺し後者は石鹼水を以て驅除す
荒子村野崎徳四郎氏の使用する肥料の用量を示せば次の如し(一反歩當)

肥料名	總量	原肥	第一回補肥	第二回補肥	第三回補肥	第四回補肥
大豆粕	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
大 豆 粕	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
人 尿	600,000	400,000	100,000	100,000	100,000	100,000
過磷酸石灰	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

硫酸安母尼亞	10,000	10,000	10,000	10,000
堆 肥	100,000	100,000	100,000	100,000
炭 灰 總 量	10,000	10,000	10,000	10,000

人尿尿中原肥に使用するものは稀薄なる人尿を施し第四回補肥は早く肥効を奏する様稀釋の人尿を施用する事肝要とす

特に注意を要すべきは早播にありては第二回補肥以後は稍々時期を隔て、使用すべし是れ當時は濕勝なれば肥効急激にして根を損傷する事あるを以てなり

五、收 穫

收穫は結球したるものより順次外葉二葉を附し鎌にて切り取り枇杷島市場及中央市場へ搬出す

六、採 種 法

結球完全にして形状正しきものを撰擇し二月中旬堀取り採種場に定植す而して補肥として十日位を経過したる時練粕少量を施し一、二回の耕耘を行ひ蚜虫の發生するや除虫菊加用石鹼水を以て驅除し三月下旬に至り小刀にて十文字に切開し抽莖を容易ならし

む抽苔するに至れば繩を張るか支柱を建て倒臥を防ぎ開花結實成熟したれば刈取り數日間乾燥せしめ蓆上にて種子を叩き落し調製の後一日間陰乾し貯蔵するものごとす

第二十一節 蒺 藜 草

蒺藜草の産地は西愛知及知多郡上野村地方とす就中西愛知を以て最とす同地方に於ける同種栽培の濫腸は甘藍、花椰菜と等しく明治の中交荒子村野崎徳四郎氏が佐藤管右衛門氏より該種子の分譲を受け栽培したるに起因し爾來其栽培の有利なるを見漸次其面積を増加し現今にては郡内一圓之れが栽培を爲さる處なきに至れり

一、栽培法

土地は排水可良なる粘質壤土に於て生育佳良なり年々連作する時は土地膨軟となり其發育不良となるが故に連作せんとするときは方言「むしかへし」と稱し底土と表土とを交換し栽培をなす種類は在來種のみにて外國種を栽培するものなし

一、整地及下種

普通瓜類の後作とし前作物を除去打起し表面を均平となし畦巾二尺の作條を設け之れに人尿尿を施し更に反轉し平畦を作り蒔付肥として稀薄人尿を施し下種す、其時期早きに失するときは暑氣の爲め栽培困難なり又遅き場合は發育不良なるを以て八月下旬より九月上旬を適當とす播種量は一畝歩五合乃至一升とし下種終れば薄く被土をなし藪又は麥稈を覆ひ發芽するに至り除去するものごとす

一、肥料及中耕

原肥として下種の際人尿尿百五十貫(一反歩)を尙蒔付肥として人尿百五十貫を施し補肥として第一回間引と同時に人尿百貫を畦上に施し更に方言「あごすり」をなし人尿尿百五十貫を施用す其後第一回收穫の際人尿二百貫を爾後發育の狀況を見て一、二回同量の人尿を施用す而して「あごすり」肥として鉢粕十貫位を施すものあり

一、除草及間引

除草は度々之れを行ひ間引は發芽後一週間位を経て一回行ひ株間一寸五分位となす

一、收穫及調製

收穫は普通二回行ひ第一回は十一月上旬七、八寸に生育したる頃根元より鎌にて刈取り三寸位の株間を保たしむ第二回は繁茂の状態市場の需要に鑑み適宜掘り取り三、四株を一把となし藪を以て把束洗條し市場に販出す一反歩の收量は一萬把にして第一回は三千把第二回は七千把位を普通とす

第二十二節 塘 蒿

縣下に於ける塘蒿の栽培は甚だ少なく其主産地としては愛知郡下の一色村とす之れが栽培の始めは今より十二、三年前同村長森次郎氏が米國より種子を取寄たるに起因し爾來氏の奨励により漸次栽培を増加し現今にては品種の如きも改良せられ其質柔軟多汁莖身厚く軟白に適する良品種となれり

一、輪 作

普通葱、甘藍、塘蒿、三寸胡蘿蔔の順序により作付をなす

二、育苗及に移植

五月上旬冷床を拵へ下種し覆土は堆肥及田土を混し

篩過したるものを以て薄く覆ふ一畝歩に要するに苗床は四分の一坪にして足る而して十數日を經過し發芽するを以て一回間引を行ひ六月中旬頃苗床に二、三寸の距離に植替をなす

三、整地及定植

定植は八月下旬にして畑地は精耕細碎地均をなし畦巾一尺八寸の作條を切り低所に原肥を施し両側より少量の土寄をなし株間二尺二寸位に定植し稀薄人尿を使用す

四、其他の手入

中耕は余り行はざるを可とし時々肥料を被覆する爲めに淺く行ふのみ除草は雜草の發生に従ひ時々行ふものにして十一月上旬に至り充分發育せるを見一畦置に一畦を收穫し市場に販賣し残りたるものには直ちに盛土を充分なし爾後一、二回行ひ軟白せる後即ち十二月より翌年四月頃まで絶へず收穫し十株を一把とし枇杷島市場に販出す一畝歩の收穫は百把位にして收益金拾圓内外とす

第二十三節 茄子

一、沿革

茄子の栽培起原は甚だ古く今其來歴を詳知するを得ざれども各種蔬菜中最も需要多き丈其栽培廣く如何なる地方にありても自家用栽培をなさざる所なく全縣に涉り栽培面積の多き事大根に次ぎ種類の如き一定せざるも大畧區別すれば三河部は多く千成種を栽培し尾張部は橘田種其大部分を占む
現今茄子栽培の最も盛なる地方は尾張部にありては橘田種の原産地たる海部郡甚目寺村附近西春日井郡清洲及新川町西愛知一圓の地最も盛にして名古屋市の需要は多く此等地方より供給す三河部にあつては碧海、額田の西部矢作川沿岸一帯の地にて特に岩津村大門矢作町河野の如き最も其名高し
栽培の方法は各地多少の相違あるも其最も盛なる西春日井郡清洲町附近に於ける一般の方法を示すべし

二、苗の養成

苗の養成に付ては別に欄を設け詳記しあれば茲に記

載せず

三、輪作法

茄子は其性連作を忌むを以て當地方にあつては大低四、五年目毎に一循環をなすべき方法にして大要左記の如し

- 第一年 麥、茄子、大根
- 第二年 麥、南瓜、白菜
- 第三年 麥、胡瓜、大根
- 第四年 麥、鵲豆、大高菜
- 第五年 麥、甘藷、大根

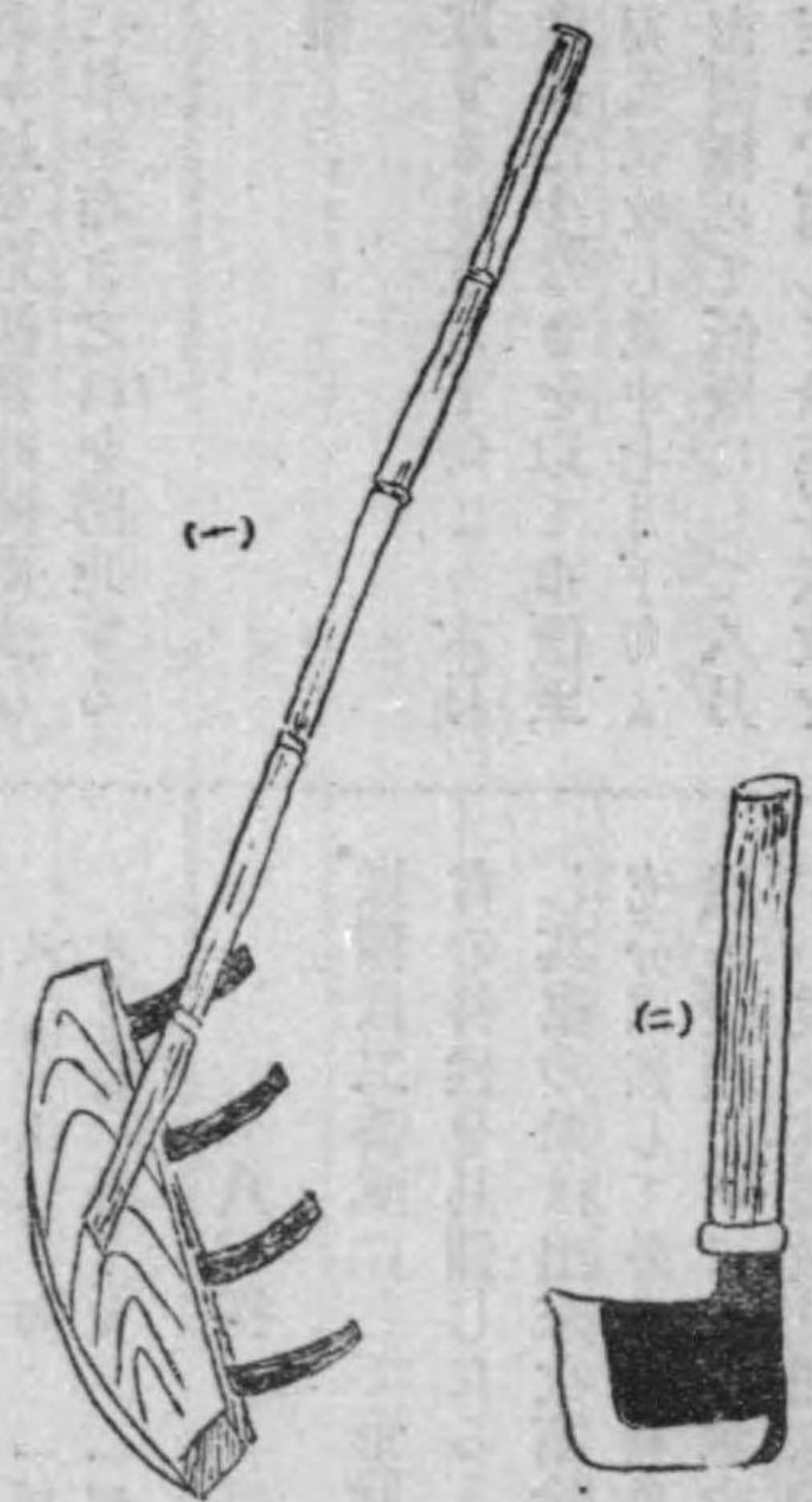
四、定植

定植の時期は早きは四月下旬晚きは五月中旬頃にして苗の本葉七、八葉を發生せし時麥の畦間に定植す定植前麥畦内を丁寧耕鋤し元肥を施し土を覆ひたる後左圖「コマザラ」(方言)を以て土塊を粉碎しながら畦上を均平ならしめ其上に一尺七寸の距離に植孔を穿ち(畦巾は麥の畦間にして普通二尺とす)其中に一握の葉灰を置き臺を附したる苗を各孔に配置し

灰と土とを能く混和したる後該所に定植し両手を以て軽く鎮壓す斯くして全圃定植を完了したる後稀薄なる人糞尿を施用するものとす

五、施肥中耕

施肥の方法は元肥は前記の如く麥畦間に施し一方の土を返し寄せ追肥として第一回は定植後十五日内外を經過し鯨粕、大豆粕、過燐酸石灰、人糞尿を左記分量に準じ株の根元を「アゴキリ」を以て淺く



ラザマゴ(一) リゴア(二)

掘り其中に施し第二回補肥は其後十五日位にして單に人糞尿のみを溝中に施用し第三回追肥は更に十五日内外にして第一回の場合と同様の肥料を株間俗稱「ダチ」なる部分を「アゴキリ」を以て掘り其中に施用すると同時に第一回の中耕土寄を行ふ(麥を刈取り第三回施肥前に行ふ)以後十日乃至十五日を隔て、三四回人糞尿を溝中に施用するものとす左に一畝歩に使用する肥料の種類及分量を示すべし

肥料名	原肥	第一回補肥	第二回補肥	第三回補肥	第四回補肥	第五回補肥	第六回補肥
堆肥	三十貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫
油粕	三升	四升	四升	四升	四升	四升	四升
鯨粕	一升	一升	一升	一升	一升	一升	一升
大豆粕	一升	一升	一升	一升	一升	一升	一升
過燐酸石灰	二貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫
人糞尿	四貫	六貫	五貫	六貫	五貫	六貫	六貫

六、摘芽及敷草

茄子は其性枝條の分岐多きを以て其儘放置するとき
は過度の發育をなし結果不良なるを以て根元より四
五葉の間にある腋芽を悉く除去し以て三、四本の主
枝を成長せしむ又夏期早魘の虞ある場合には青草又
は藁等を畦間に敷くものあり且又定植當時降雨少
く乾燥に失する時は根元に草を布き之れを防止する
ものあり

七、收 穫

一番成として最も早く採取するは五月下旬より六月
上旬にして該時期は其生産甚だ少なきを以て市價至
て高價なり其後は順次秋期迄採收し就中七月下旬よ
り八月を以て生産激増し市價極めて低廉にして八月
下旬より稍高價を保つに至る、而して秋茄子採收を
目的とするものは十月上旬頃迄畑地に置く事を得る
も茄子跡作として多くは大根、白菜等を播種するも
のなれば八月下旬乃至九月上旬頃迄に採收し終るを
普通とす

生產品の價格は年により一定せざるも五月下旬より
九月上旬に至る大体の市價變遷の有様を示せば左の
如し

五 月 下 旬	一個	壹錢五厘乃至貳錢
六 月 中、下 旬	一個	壹錢乃至壹錢參厘
七 月 上 旬	一個	五厘乃至七厘
七 月 中、下 旬	一個	參厘内外
八 月 上、下 旬	一個	壹厘乃至壹厘五毛
八 月 下 旬、九 月 上 旬	一個	貳厘乃至參厘

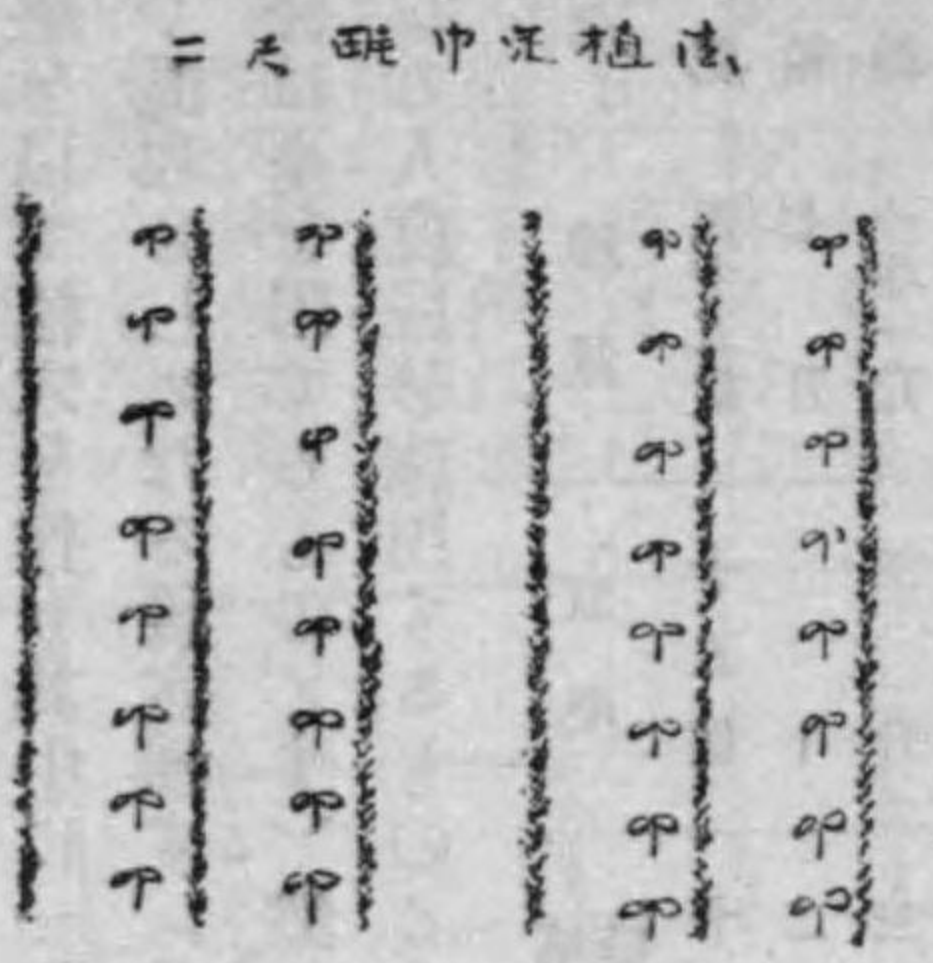
八、採 種

採種は二番成にして形状、色澤最も佳良なる品種固
有の特性を具備したるものを一株に付二、三個を殘
し其他の果は出來次第除去し専ら種類の發育を計り
充分成熟して外皮黄褐色を呈したるを度とし採收す
然る後顆を箆に入れ水中に渡し丁寧に種子を洗ひ落
すか或は其儘數日間水中に浸漬して果皮を腐敗せし
め然る後種子を揉み出すか何れかの方法によりて種
子を分離し後充分乾燥して貯藏するものとす

第二十四節 胡 瓜

縣内胡瓜の栽培を行わざる所なきも就中西春日井郡
清洲町、新川町、海部郡基目寺村、碧海郡新川町等
最も盛なり此等地方に於ける栽培法は大同小異なれ
ば左に清洲地方に於ける方法を記載すべし

- 一、苗 床
- 二 年 麥、南瓜、白菜
- 三 年 麥、茄子、大根
- 四 年 麥、玉蜀黍、美濃早生大根



品種は概ね在來節成にして樹性、強健、早生の豊産種
にして莖太
く側枝少
く大低五六
節目より上
方各節に雌
花を附着す
顆は中大の
細長にして
外皮淡綠色
極めて粗に刺を有し品質良好なり
一、輪 栽 法

育苗法に就ては別項苗養成の部に記載しあれば茲に
省畧す

一、定 植に
定植期は四月下
旬より五月上旬
旬にして本葉六、
七枚を發生せし
頃に行ひ畑地は
豫め既定の畦巾
を以て培養した
る麥間に定植す
るものにして二尺及三尺畦の両様あり二尺畦巾に依
るものは第一及第二麥畦の一侧に定植し第三麥畦を
空地とし後日の通路となす(前圖參照)三尺畦巾のも
のには第一麥畦右側に定植するとき第二麥
は空地となし第三畦の左側に定植するものなり尙三

尺畦巾のものにありては圖(A)に麥を播種せずして菜類を栽培し定植前迄に採收し終るものとす
 而して定植すべき麥畦内は精耕の上元肥を施し土を覆ひたる後「レキキ」(方言「コマザラ」)を以て土塊を砕きつゝ畦上を均平ならしめ其上は一尺二寸乃至一尺五寸の距離を以て植穴を作り其中に一握宛の灰を置き土と能く混和せしめたる後定植す(苗床より苗を掘取る場合は臺を附するものとす)然る後根付肥として稀薄なる人糞尿を施用するものとす

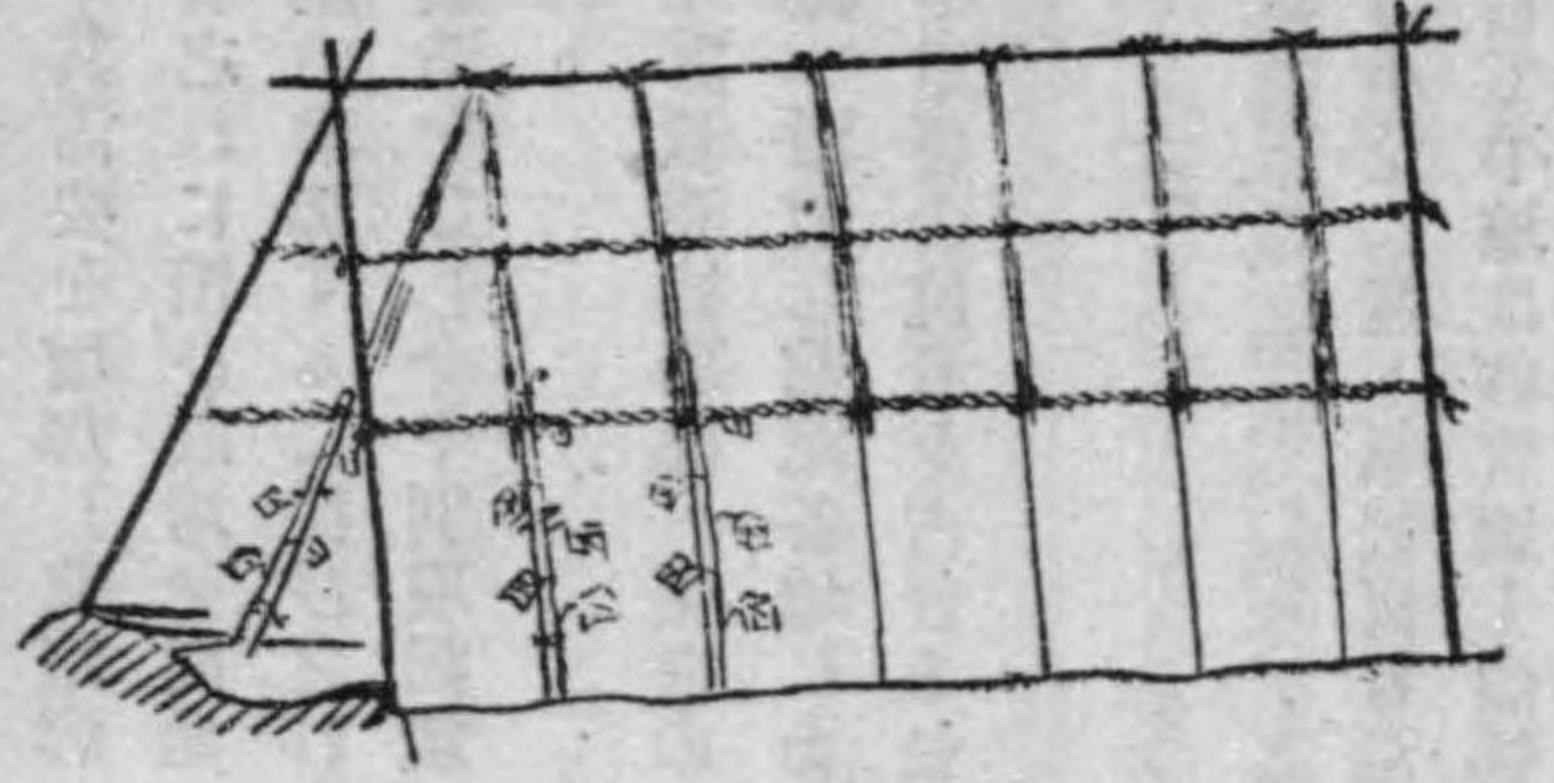
肥料名	總量	原肥	第一回補肥	第二回補肥	第三回補肥	第四回補肥	第五回補肥	第六回補肥
堆肥	四十五貫	十五貫	十貫	十貫	十貫	十貫	十貫	十貫
鯀肥	七升	一升	二升	二升	三升	三升	三升	三升
油粕	一斗一升	三升	三升	二升	三升	三升	三升	三升
灰	二貫	二貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫
人糞尿	三十八貫	四貫	五貫	五貫	六貫	六貫	六貫	六貫

一、整枝及支柱
 一般に施行する整枝の方法は屋根形仕立にして其方は定植後直ちに長さ四尺内外の細竹を各株毎に立て之れに誘引し其後成長するに従ひ順次誘引結束し

一、肥料
 肥料として多く使用するは堆肥、鯀肥、油粕、人糞尿等にして元肥は定植の際麥畦内に施し追肥第一回は定植後十五日内外、第二回は其後十五日、第三回は更に十五日内外に施し此際中耕土寄を行ひ成畦をなすものなり(麥は第二回補肥後刈取るものとす)施肥の箇所方法等は茄子に於けると同様なり、其後十日乃至十五日を隔て、二、三回人糞尿を使用するものなり左に一畝歩に對する肥料の分量を示すべし

成畦後各作畦の両端及中央に一間半置位に竹又は杭を立て二畦分を其先端部に於て交叉結束し其上に一本の横竹を渡し尙一尺内外の距離を以て両側に二段程横繩を張り之に各株の細竹を誘引し其上部の足ら

ざる處は糞を以て補給し屋根形となすものとす其形狀左圖の如し



以上の管理を行ふ時は五月中旬頃より開花し六月上旬に至り採收を初むるものとす但し最初の時は樹勢を衰弱せしめ爾後の結實不良なれば多くは中位に發育したるを度として收穫す然れども六月中旬以後に至れば勢力旺盛なるを以て充分發育せしめ後採收す斯くして八月上旬頃まで順次收穫を行ふものとす

常とす
 一、採種
 採種用のものは第一回收穫後次に結果したる二番成にて固有の特性を具備したるものを選択残し置き黄褐色となるまで充分發育成熟せしめたる後採收す斯く採收したるものは二つ割となし水中に浸して丁寧に種子を洗ひ然る後充分乾燥して貯藏す

第二十五節 蕃茄

縣下に於ける蕃茄の栽培地は知多郡上野村、愛知郡笠寺村、西春日井郡清洲町等にして就中知多郡上野村産を以て最とす左に全地方に於ける栽培の狀態を記載すべし

一、沿革

當地は各種の西洋蔬菜を栽培し就中蕃茄の栽培を以て最も盛とす之れが濫觴に就ては全村大字荒尾蟹江源吉氏の初めて栽培したるものにて全氏は各國との交通愈々頻繁なるに連れ西洋蔬菜の需要あらんと明治二十年初めて東京の某種苗店より蕃茄の種子を購

主なる品種は「ポレテロザ」「アソリアナ」「ジュンピング」等なるも栽培以來長年月を經過し自家採種を行ひつゝ、あれば何れも多少の變種をなし今や殆んど確たる特性を具備するものなし

四、栽培法

一、苗床

苗床は宅地内の可成温暖なる處を撰擇し巾四尺深さ一尺長さ適宜の穴を掘り其中に蒸熱物として藁、枯草、塵芥等の混合したるものを厚さ八寸乃至一尺位に踏込み床土は四、五寸の厚さにして田土に堆肥及少許の砂を混合したるものにして尙播種の際少しの木灰を混合す床の上には油障子を覆ふの装置にして近來硝子障子を使用するものあるに至れり

播種の時期は二月下旬にして種子は一晝夜間浸水したるものを使用す、中には鉢蒔を行ふものあれども多くは撒播とす、下種終れば薄く土を覆ひ適宜灌水したる後油障子又は硝子障子を覆ふものとす播種後十日乃至十四日にして發芽し本葉一、二葉の頃二、三寸平方に第一回の移植をなし以後本葉三、四葉の時

入し栽培に着手したり勿論當時は栽培の技術甚だ幼稚にして販路亦皆無なれば只試験的に小面積に栽培し其熟果は名古屋市の洋食店に持参賣却したり爾來年々栽培したるに豫期の如く其需要を増加し栽培容易にして收利多ければ附近皆之れに慣ひ栽培を開始するに至れり蟹江氏は其生産の増加するに従ひ之れが加工に志し「ソース」の製造をなし今や別項記載の如く多額を生産するに至れり

二、風土

上野村は一面は海に面し一方小丘に連り氣候概ね温暖なり土質は第三紀新層にして平地は砂質壤土傾斜地に進むに従ひ稍小礫を交へ排水良好なり

三、種類

第二回の移植を行ひ四寸平方の距離を保たしむ

一、定植

定植は一般に五月上旬頃にして多く麥圃中に行ふを以て畦巾二尺株間一尺五寸乃至二尺にして二畦を定植し一畦を置き再び二畦を定植す而して定植前麥畦内を精耕し元肥を施し成畦後補付の個所に植穴を設け一握づつの木灰を入れ能く土壤と混和したる後其上に定植するものとす

元肥 (定植の際)

堆肥 三十貫 鯨粕 五升

木灰 三貫 人糞尿 七貫

第一回補肥 (五月下旬)

人糞尿 十貫 過磷酸石灰 五合

第二回補肥 (六月中旬)

鯨粕三升、過磷酸石灰五合、人糞尿十貫

尙第二回補肥後成育の如何により一、二回人糞尿を使用するものとす

一、整枝

定植後苗の一尺内外に成長したる時支柱を建て一番花の上部にて摘心を行ひ二本の側枝を伸長せしめ主枝となす腋芽は悉く掻き取り専ら主枝に結果せしむ以後成長するに従ひ畦の両端に杭を建て一尺内外の距離を以て二、三段に横繩を張り之れに適宜主枝を誘引す

一、收穫

市場販出及加工用のものは熟果を收穫するを以て普通七月上旬より收穫するも浦鹽輸出は青果なれば早きは六月中旬に採收す浦鹽行は初期價格の高價なる時に行ふものにして下落すれば普通熟果として賣却す近來栽培者の大部分は「ソース」製造者と特約栽培するに至れり

收量は土質及氣候の如何により一定せざれども普通一畝歩當八十貫乃至百貫にして壹圓に對し十四、五貫なるを以て五圓乃至七圓内外の收入あるものとす

第二十六節 冬瓜

冬瓜の栽培は縣下至る處に行ふも就中愛知郡中、常

盤、荒子、笠寺の各村及西春日井郡西枇杷島町附近とす左に西愛知常盤村地方に於ける栽培の主要を示すべし

一、地勢及土質

愛知郡の西南庄内川に接し地勢平坦にして荒子村と同様畑は田の間に点在し土質は沖積により生じたる第四紀新層の砂質壤土にして蔬菜類の栽培に好適し名古屋に接近するを以て夙に縣下に於ける蔬菜産地として其名高し

二、輪作法

蒺藜、菘類を栽培したる土地は生育不良にして良品を得る能はず木綿の跡地は其發育尤も良好なるも現今木綿栽培は其跡を絶ちしを以て普通麥を前作とし葱を後作として栽培するもの多し

三、品種

品種少なく普通早生小冬瓜にして形状橢圓小形なるものにして容易に白粉を生じ毛茸少なく果梗細くし

て果肉薄く種子多く芳香に富み品質佳良なり

四、採種法

主枝なれば十節目側枝なれば五、六節目に結果したるものにして固有の形質を具備せるものを其儘存置し八月上旬即ち土用明に至れば完熟するを以て此際に至り採收し種子を取出し洗滌せず其儘袋に入れ風呂場の一隅に埋置し翌年下種期に至り取出し播下すれば其發芽極めて佳良なり

五、栽培法

一、育苗

從來の育苗法は冷床により只覆蓋をなすに止まりしも近時促成栽培の勃興と共に温床を利用するもの漸出せり今冷床及温床に依る育苗法を各別に記すれば左の如し

(一)、冷床

下種期は三月中旬にして宅地内の温暖なる場所を選び巾二尺五寸長さ適宜の花壇形苗床を作り床土は園土四、五寸を細目の篩にて通したるものを用ひ種子

は其上に点播となし三分乃至五分の厚さに園土を以て覆土灌水し油障子にて被覆をなす爾後は稍々乾燥勝ちなるを可とし適宜灌水をなす以上の如くにして十五日乃至二十日にして發芽するを以て甲折葉の充分開展したる時本圃に定植す

(二)、温床

二月上旬扁盆中に細砂八分堆肥二分を以て調製せる土壤を盛り之れに種子の胚部を下方に挿入し砂を以て薄く覆土灌水し攝氏二十三、四度の温床中に入る已にして一週間を経過すれば發芽し初むるを以て發芽するや否や温床中より取出し日中は室外の温暖なる場所にて日光に浴せしめ夜間は室内に入れ培養すること二、三日にして甲折葉の充分開展したる時温床内に移植を行ふ此の場合には綿屑四十貫、糞十貫を以て踏込たる温床内にて床土は田土三荷、堆肥一荷、砂若干の配合土にて深さを三寸位とし之れに四五寸の距離に移植し玻璃障子を架し温度及湿度に注意し培養す而して本葉三、四葉を生じたる時本圃に定植するものとす

一、整地

嚴寒中麥の畦間を耕起し能く土壤を風化せしめ定植に先ち鋤にて細碎し之れに堆肥又は灰等を施し「コマザラ」にて均平ならしめ作條を附し中央部を高く盛り上げ株間一尺八寸宛に植場所の土を揉み之れに定植するものとす

一、定植

定植は苗の養成法により畦巾及定植の時期を異にす冷床により育苗せるものは四月下旬より五月上旬に亘り畦巾七尺二寸株間一尺八寸に豫め整地せる位置に甲折の儘淺く植へ糞半把位にて製せる苞を以て寒氣及霜除用として覆ひ八十八夜即ち五月上旬に至り除去す

温床育苗に依るものは畦巾五尺四寸とし定植の時期は四月下旬にして前記の如く淺植とし七寸四方にて深さ五、六寸の框に寒冷紗を張りたるものを八十八夜前後まで覆ひ寒氣及霜除の用に供す而して兩者共被覆物は晴天温暖なる日中は之を除き日光に當て強健なる發育をなさしめ常に氣候の寒暖に注意し適宜の處置を必要とす

一、肥料及中耕

原肥として整地の際藁灰を施し補肥は輪肥と稱し五月上旬より中旬に亘り株の周圍に小溝を穿ち人尿尿を三回施用し爾後數日を隔て堆肥、大根枯葉及人尿尿を畦の兩側に施用し麥の根元より土壤を反轉し水鞍を築き人尿尿を二回施用し此の肥料は六月上旬頃までに使用するを可とす尙數日を経て水鞍の肥料と

肥料名	總量	原肥	第一回補肥	第二回補肥	第三回補肥	第四回補肥	第五回補肥	第六回補肥	第七回補肥	第八回補肥
人尿	六五,〇〇〇		五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
堆肥	二,〇〇〇	二,〇〇〇								
油粕	四,〇〇〇									
大根枯葉	五,〇〇〇									

稱し油粕人尿尿を前記水鞍に施し堆肥を以て薄く覆ひ麥刈取後小鞍を築き兩側に人尿尿及油粕を施し麥の刈株を反轉し畦を完成するものとす而して冬瓜の肥料は常に稍株に遠かり施用し細根の肥料の爲め損傷せざる様注意する事肝要なり

肥料名	總量	原肥	第一回補肥	第二回補肥	第三回補肥	第四回補肥	第五回補肥	第六回補肥	第七回補肥	第八回補肥
人尿	六五,〇〇〇		五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
堆肥	二,〇〇〇	二,〇〇〇								
油粕	四,〇〇〇									
大根枯葉	五,〇〇〇									

第二十七節 西瓜

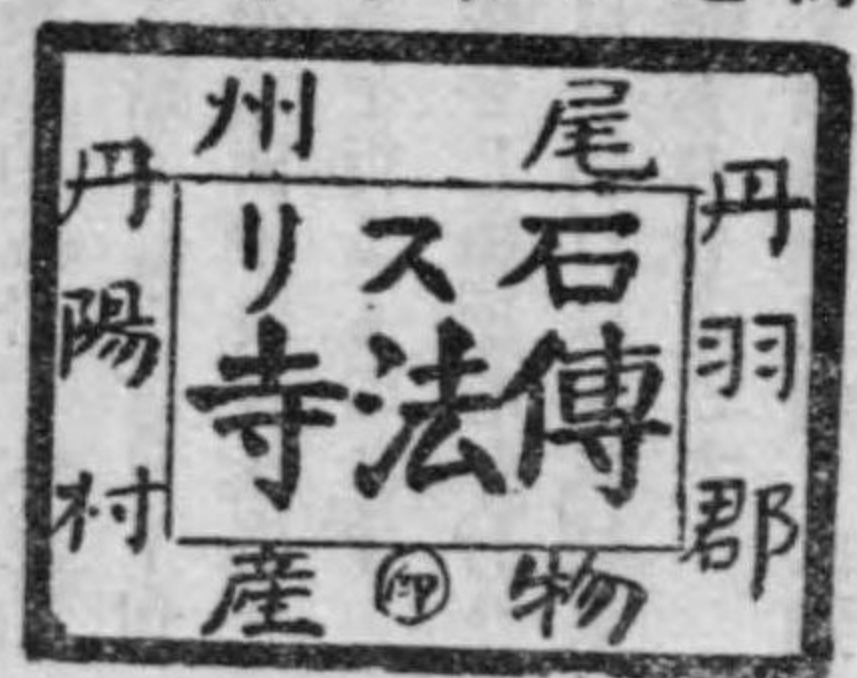
一、敷 糞
小鞍の中耕迄は根元に糞糠を薄く敷き殘餘は麥稈を敷き詰め大鞍には麥の馬鹿糠を敷き鞍と鞍との間には糞蓋を撒布するを常とす

一、收穫及販路
收穫は早きは六月中、下旬幼果を缺にて採收し爾後八月中旬迄は所謂「かしよろい」冬瓜として成熟に近きものを採收し枇杷島及名古屋中央市場に販出す

縣下に於て三河の山間部を除くの外は西瓜を栽培せざる處なく其分布甚だ廣きものなり夏季蔬菜類中生産額に於て主要なるものなり殊に傳法寺西瓜の産地たる丹羽郡丹陽村大字傳法寺木の山西瓜の本場たる知多郡大府町大字木の山の兩所は最も著名なるものなり以下此等兩所に於ける沿革及栽培法を記載すべし

一、傳法寺西瓜

一、沿革
明治廿四年傳法寺の某氏中島郡大里村附近にて東海道線の乗客が車窓より捨てたる西瓜を拾ひ其味佳良なりしかば此れを試植したるを以て濫觴とす現今農家戸數九十戸中栽培者七十餘戸其反別二町歩餘一戸栽培反別最多六畝歩内外とす



尙同地に於ては明治三十四年同志集まりて組合を組織し原産地の維持に努め規約を設け熱心に之れが栽培に従事せり且又組合員の生産せし西瓜は一々検査をなし合格したるものは次の如き標紙を添付し原産地の産物たる事を證明し居れり

一、栽培法
◎輪作 通常五年輪作にして左に其一例を示すべし
第一年 西瓜、大根、麥

- 第二年 藍、大根、麥
- 第三年 黍、大根、麥
- 第四年 南瓜、大根、麥
- 第五年 甜瓜、大根、麥
- 第六年 西瓜

◎下種 本圃に直播する前豫め催芽法を行ふ、其方は「釜出」と稱し八十八夜前後直徑一尺五寸位の陶器製の鉢に粗き河砂を入れ種子を此れに並べ更に其上に高く山形に砂を盛り之れを釜の中に入る、ものとす釜中の水は鉢の八分浸さるゝを程度とす温度は餘り高きに失する事なく手を入れ心地能き位を度とし爾後温度の低下せざる様炭火若くは糞蓋を以て補温すれば約二十四時間にて胚部膨大し發芽を始むるものなれば此時山形の砂を掻き除き陽光に晒す事約二日内外にして發芽するものなるを以て發芽すれば直ちに本圃に定植す

◎定植 畦巾一丈即ち麥間五畦置きに株間三尺に定植するものにして定植前植穴に木灰又は糞灰を施し能く手にて土と共に揉み其上に一個所二本宛栽植し活着せる後健全のもの一本を残し他を除去す

◎施肥中耕及土寄 定植後二、三回水肥を施し大凡十日を経て根元に鯨粕一畝歩に付き三升内外を施し手を以て覆土す更に其後十日内外を經過し前全様の施肥をなす次に六月上旬麥收穫後鯨粕五升、大豆粕五升を施し第一回中耕土寄をなす斯くして六月下旬鯨粕四升、大豆粕三升を施用し第二回中耕及土寄をなす尙七月上旬に至り第三回土寄を行ふものとす

◎摘心及摘芽 本葉五、六枚を生せし頃摘心を行ひ主枝四本を發生せしめ其後摘芽は一切行はず只結果せし個所より發生する側芽は摘除するものとす

◎收穫及販路 熟期に至れば日々圃場を見廻り成熟せしものを收穫し組合の検査を受け前記の標紙を添付販出す市場は大部分枇杷島にして近來岐阜市場へ多少販賣するに至れり

二、木の山西瓜

一、沿革

本種は極めて晩熟種にして卵圓形をなし球は中形肉色淡紅にして品質極めて優良なり種子は白色「アイスクリーム」系とす知多郡大府町大字木の山に栽培

せられ其起原は明治三十七年米國種を輸入し試験的に栽培し、明治卅七、八年頃より市場に販出し木の山西瓜の名聲を博し明治四十二、三年頃最も全盛にて其反別三十町歩以上なりしが其後耕地の面積少なきが爲め連作の害を被むり尙虫害の爲め收穫を減少せしを以て現今にては約二町歩内外の栽培反別に過ぎざる有様なり



明治四十三

年木の山農會に於て次の如き標紙を發行し西瓜を検査し此れを添付し品質の良好なる事を示せり

一、栽培法

◎下種 下種の時期は八十八夜十日前即ち四月下旬

にして其方法は直播となすものにして先づ原肥として一畝歩に付き鯨粕二升五合を施し株間二尺位にして一個所五粒播とす畦巾は八尺乃至一丈を普通とす

◎施肥中耕 第一回補肥、發芽後一週間位にして兩側を掘り一畝歩に對し鯨粕二升到堆肥二十貫、人糞尿約五貫を施して土寄をなす

第二回補肥及中耕土寄、第一回補肥後二十日にして鯨粕三升及人尿五貫を施し第一回の中耕及土寄をなす

第三回補肥土寄 六月中旬頃にして鯨粕八升、人尿六貫を施し土寄をなし次て麥稈敷を行ふ

西瓜品種統一講評會成績

品名	産地	出品人	形状	重サ	果皮ノ色	果肉ノ色	品質	種子ノ色	系統	用〇
板山虎	知多成岩町	石川傳太郎	球圓	一、八九三	淡綠	淡紅	中	帶褐白		
ナイターメロン	海部飛鳥村	伊藤與七	球圓	一、九一七	淡綠	淡紅	上	白		
白皮	中島明治村	中島郡農會	球圓	二、二三〇	帶綠白	紅	上	赤褐		
アイスクリーム	愛知八幡村	岡田代次郎	球圓	二、三五七	帶綠白	淡	中	黒		
アイスクリーム	渥美年呂吉田村	渥美郡農會	球圓	二、三二〇	淡綠	淡	中	帶褐白		
アイスクリーム	寶飯前芝村	青木種作	球圓	二、〇一〇	淡綠	淡	中	黃褐		
アイスクリーム	知多成岩町	石川傳太郎	球圓	二、一三〇	淡綠	淡	上	白		

巴	秀	割	松	白	カ	張	黒
三	下	ア					
葉栗葉栗村	愛知八幡村	葉栗木曾川	中島稻澤町	葉栗宮田村	寶飯前芝村	丹羽丹陽村	東春小牧町
石黒甚三郎	岡田代次郎	川合富行	飯田鶴次郎	堀場濱十	寶飯郡農會	野村治三郎	小牧町農會
球圓	球圓	球圓	球圓	球圓	球圓	球圓	球圓
二、一〇〇	二、二二七	一、九〇四	二、三八七	二、八三七	二、三〇三	一、九八五	一、五三二
濃綠	濃綠	帶青濃綠	濃綠	濃綠	濃綠	濃綠	濃綠
紅	紅	淡紅	紅	紅	紅	紅	紅
中	中	中	下	下	下	中	下
黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒
						褐	褐

第二十八節 南 瓜

縣下に栽培する南瓜の品種を分ちて大略二種とす
 一は三河地方にて専ら栽培する松江南瓜と他は尾張地方にて栽培する清洲地方在來種とす
 松江南瓜は碧海郡新川町松江にて最も古くより盛んに栽培し來りし所の品種にして諸地方に輸出すること夥しく且品質優良にして成熟早く各市場に好評あり本種は甘味強く果皮黒色にして縮緬形の小皺あり居留木橋種と殆んど同一なるも稍や早熟なるの長所あり
 清洲在來種は一名「ヂキ」と稱し西春日井郡春日村、海部郡甚目寺村壹津地方にて専ら栽培する所のもの

にして彼の枇杷島市場に集積する南瓜の大部分は本種とす
 形状は居留木橋種に類似するも色澤は淺黄白綠色網狀の班線ありて外觀優美なり本種は元來縮緬南瓜より變種せしものにして其特徴は收量最も多く且つ早熟種なるにあり栽培法は各地多少の相違あるも最も普通に行はるる方法を示すべし
 一、苗の仕立方
 苗床は多く宅地内の温暖なる場所に設け巾四尺長一間深さ一尺乃至一尺二寸に堀下げ醸熟物としては普通大根葉刈草藁等を用ひ凡そ二三寸の厚さに踏込み其の上に床土五寸を置き種子を播下し地平線上に油障子を覆ふ播種期は二月中旬にして發芽後眞葉

一枚を出せし頃第一回の移植を行ふものにして其の際苗床の淺き者は更に地平線上より壁土を以て高さ二寸位に床の四壁を造り其上に障子を架するものとす
 一、整 地
 麥播の際畦間八尺毎に空畦を設け彼岸頃に至り深さ四寸位に掘り割り其の中に塵芥堆肥を入れ土を覆ひ高さ三四寸の高畦を造り定植期迄放棄し元肥の腐敗するを待ち定植の準備をなし置くものとす
 一、定 植
 本圃に定植する時期は五月上旬を適期とし前記の如く豫め準備し置きたる畦上に株間三尺を距て、鋤を以て植穴を造り其の一方に練粕人糞尿を注ぎ定植するものとす
 一、肥 料
 定植後凡そ二週間にして五六寸を距て、鋤にて溝を掘り練粕一畝歩宛八百匁を施し直ちに覆土し其後蔓の成長して二尺位になりし頃第二回の施肥をなすものにして此際は前と反對の一侧に同じく練粕一貫目を施す人糞尿は兩回共に適宜施用す

一、摘芽及花粉媒助
 摘心は本葉五枚を發生せる時四枚の處にて摘心し四蔓を出し結果せしむ花粉媒助は清洲地方にて古より行ひ來りし方法にして早朝畑に至り雄花を取り其花粉を雌花に媒助するものとす
 收穫は七月中旬より始め三河地方にありては西尾岡崎豊橋知多郡等に販賣し近來三重縣長野縣地方へ移出するものあり尾張部は大部分枇杷島中央兩市場に販賣す

第二十九節 甜 瓜

一、沿 革
 甜瓜は縣下各地の風土に適當し古くより栽培し居りしも起原來歴等詳かならず而して其後梨瓜種の輸入せられしより他種は殆んど其の跡を斷ち専ら本種を栽培するに至れり
 始めて本縣に梨瓜の移入せられし起原を訪ぬるに明治十八年頃本縣植物園が清國より其の種子を取り寄せ試作せしを各郡に配布したるを嚆矢とす時に愛知郡笠寺村大字鳴尾の篤農家なる久野松五郎氏始めて

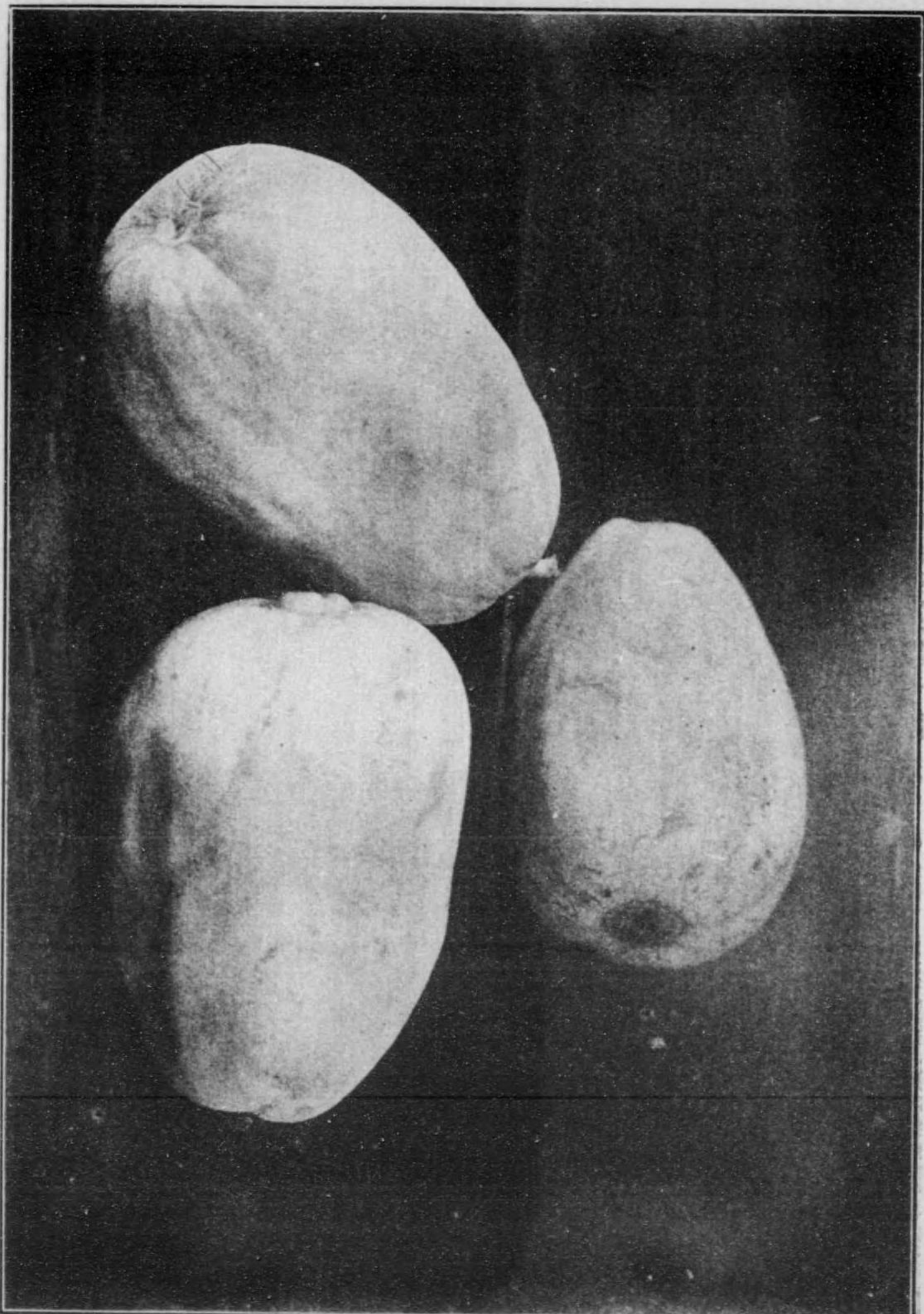
試作せしに味甚だ宜しく將來有望なるを認め附近の農家に栽培せしめたるを以て初めとす爾來非常の勢を以て縣下各地方に傳播し栽培するに至れりと雖も性軟弱の爲め相當の手入保護をせざれば好成績を揚ぐる事能はざるを以て在來種も依然として栽培せられたり斯くの如く長足に進歩せる梨瓜も栽培を繼續するに従ひ病虫の被害甚だしく充分の注意をせざれば收穫なきに至り稍々前途思ひやられしも又もや優品表はれ前に増し栽培面積増加し縣下甜瓜栽培一新起原を現出せり

此れ即ち棗瓜にして一名金梨瓜或は黃石瓜など稱するものあり本種は何年頃縣下に輸入し來りしや其の來歴明かならずと雖も本種の栽培最も盛なる愛知郡常盤村に於ては今を去る十五六年前なりとす、然れども縣下一般に此れが栽培を初めしは今を去る五六年前なりとす、尙愛知郡常盤村に於ては十五六年前某農事に熱心なる人名古屋にて青物商の店頭に於て發見し甚だ珍らしきものなりとて高價なるにもかゝはらず購入し試作せしに其味驚くほど美味なりしを以て翌年早く此れが栽培を行ひしに意外にも容易に

して且つ結果良好なりし爲め近隣の人々に種子を配布し栽培を進めしに始まると云ふ、尙ほ中島郡稻澤町附近に於ては以前より甜瓜の栽培盛なりしかど同じく病虫害の爲め甚だ願慮し居りしも今より五、六年前始めて同地の人栽培せしに其の味良好なりしと栽培容易なりしが爲め近隣皆競ふて本種を栽培するに至り昨今日當地方瓜作の大部分は棗瓜と變化したり

二、品 種

梨瓜 一名白皮甜瓜と云ふが如く外皮成熟すれば白色を呈し類は大にして尻部太き卵形をなし底には臍を有するが普通なりと雖も近年此の臍部なきもの多し、肉は厚く稍青味を帯び白色にして甘味及水分多く肉質は極めて良好にして一度口中に入るゝときは溶解し肉質サク／＼として梨の如き爲め斯の名稱あり只收量稍少きと草勢稍軟弱なるの欠點あり
棗瓜 (一名黃石瓜、金梨瓜) 果は小形にして色澤黃金色なるを以て黃石瓜及び金梨瓜などの稱あり、形狀は卵形にして梨瓜の如くに臍なし果皮は甚だ薄く



瓜

梨

して且つ肉も薄し肉は白色にして甘味梨瓜に増し風味良好水分は梨瓜に比し少し少量極めて多く且つ草勢前者に比し強きが爲め良品種なりとす
青梨瓜 本種は大正元年に朝鮮平安南道より當場に輸送せられ大正二年始めて栽培せしものにして果の色澤完熟すれども青色にして熟度明ならざるが如く肉質及び甘味前二種を凌ぐ觀あり草性は越瓜の如く甚だ強健にして病虫害に對し強きが如し、以上三種の外在來の金甜瓜及び銀甜瓜あると雖も特に記すべき事なく且つ栽培面積極めて少き爲め省畧す

三、前後作物の關係

前作は皆大小麥にして後作は漬菜類、白菜類、大根類等とす愛知郡常盤村地方は毎年同地に栽培し連作とすれども何の被害なしと云ふ、尙愛知郡笠寺村大字鳴尾に於ては三年乃至四年間の輪栽を行ふ其方法は次の如し

第一年	麥	甜瓜	白菜
第二年	麥	蕃茄	白菜
第三年	三寸人參	各西洋野菜	麥

四、栽培法(愛知郡笠寺村大字鳴尾)

一、下種

下種は苗床に於て行ひ移植法によるものと直播法によるとの二法あれども普通皆苗床に於て行ふ以下の養成法を記すべし

三月上旬に至り素焼の植木鉢に砂を盛り其中に下種し温床内に置いて發芽せしむ發芽後約十日内外にして双葉の充分展開するを待ちて冷床に距離二寸内外に移植し油障子或は硝子障子を覆ひ置き其後五月上旬頃本葉三枚位發生せし時幼根を損傷せざる様懇切に本圃に定植す

一、整地

五月上旬定植せんとする一週間位前に於て麥畦中を整地す、麥は前年下種の際畦巾二尺のものを二畦置に一畦空畦となし置きたるものにして此の畦間を堀り起し原肥を施し充分精耕す

一、定植

前記せる圃場に五月上旬苗を丁寧幼根を損せざる様に定植す畦巾は六尺にして株間は二尺とす、定植後は直ちに人尿の稀薄なるものを施用す

一、肥料

主なる肥料は鯨粕にして人尿及び堆肥、過燐酸石灰、糞灰等を施用す次に一反歩に對する施肥表を示さん

肥料名	總量	元肥			
		第一回	第二回	第三回	第四回
鯨粕	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
過燐酸石灰	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
堆肥	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
人尿	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
糞灰	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

一、施肥及中耕

第一回補肥 定植後十日内外にして乃ち五月中旬頃施用し少しく土寄をなす
 第二回補肥 五月下旬にして第一回補肥の場合と反對の方向に穴を掘り施肥し前回と同様少しく土寄をなす
 第三回補肥 六月中旬頃にして麥收穫後施用中耕し第一回の土寄を行ふ
 第四回補肥 六月下旬にして前回と同様に施用し第二回の中耕土寄をなし畦形を完成す

一、敷 糞

大部分愛知縣産のものなりと云ふ

第三十節 越 瓜

本縣に於ける越瓜の栽培地は愛知郡常盤村地方にして全村大字四女子、小本、烏森等を主とし四女子、小本に於て栽培するものは「たわけうり」と稱し早漬の用に供し烏森にて栽培するものは「かたうり」と稱し専ら奈良漬の原料に供せられ全く其品種を異にし左に「たわけうり」栽培の大要を記載すべし

一、沿 革

栽培の起原は全く不明にして四女子にて栽培するは相當古きが如く小本は近來に屬し他作物に比し收益多きを以て自然栽培者を増加し尙逐年作付反別漸加の趨勢なり

一、品 種

早生にして形状橢圓大形にして果面に毛茸なく條溝は淺くして青く大なるものは一個能く二百五十匁に達す

一、輪 作 法

前作は麥、蕓苔等にして後作は方領大根を普通とす

第三回施肥土寄の後稻葉を以て株元に敷き蔓及び葉に土砂の附着せざる様にするものとす
 尙第四回施肥土寄後麥稈を以て畦全部に敷き蔓の蔓延を可良ならしむ

一、摘 心

本葉四五枚の節摘心を行ひ四本の主枝を出し各枝は本葉七枚目位にて摘心し各節より生ずる側芽に雌花を着するを以て結果後二葉を残して摘心す爾後同様に摘心を行ふものとす

一、收 穫

收穫の早きは七月中旬頃にして成熟の兆候は香氣色澤及び硬軟の度によりて定む收穫は早朝缺を以て行ふものとす

五、販賣及販路

愛知郡常盤村及び笠寺村地方に於ては枇杷島市場及び名古屋中央市場を主とし販出す、而して中島郡地方は従前枇杷島なりしが近來岐阜青物市場の有望なるを知り五六里あるも早朝二時乃至三時頃より起き出で搬出するものにて同市場に出づる甜瓜は先づ

分葱の跡作としては生育不良なり

一、育 苗 法

下種は四月上、中旬にして多く釜出法を行ふ其法は扁盆に細砂を盛り之れに一晝夜浸漬せる種子を尖れる方を下方とし一粒宛挿入し薄く細砂を以て被覆をなし之れを釜に入れ攝氏二十度位の温度を持続せしむべき様注意し然る時は一晝夜にて發芽し始むるを以て之れを取出し温暖なる場所にて日光に當て嫩苗をして強健なる發育をなさしめざるべからず而して三、四日を経れば甲折は全く開展するを以て豫め備へたる本圃に定植す

苗の釜出は短時間に於て甲折を促進するものにして周到の注意を要し屢々検温をなし温度の高低なからしめざるべからず

一、整地及定植

麥播種の際二畦置に一畦を空畦となし此空畦に冬期中數度人糞尿を澆注し以て肥沃ならしめ定植に際し木灰を施し精耕し畦形(揚畦)を作り株間一尺五寸に植孔を手にて作り能く土揉をなし之れに一株二本宛を甲折の部まで埋め定植し軽く鎮壓す而して鬚又は

小箱に油紙を張りたるものを以て防霜をなす

一、肥料及中耕

定植後一週間に於て輪肥と稱し株の周圍を淺く掘り稀薄人糞尿を施し爾後一週間に於て稍濃厚なる人糞尿を施用す

其後一週間に於て小鞍の肥料と稱し株の兩側に五寸位を距て、淺く「コマザラ」にて淺溝を設け人糞尿を注ぎ乾くを待ち藁苔粕を施し被覆として堆肥及藁灰の少量を與へ尙一週間に於て溝鞍と稱し人糞尿、油粕を前回と同様に施用し麥刈取後大鞍を築き之れに人糞尿、油粕を施用し畦形を完成す

肥料中輪肥は人尿の能く腐熟したるものを稀釋し施用す濃厚なるもの又は完熟に達せざるものは越瓜の心止りを生ずると稱し施用せず

一、敷 藁

大鞍の肥料を施し成畦を了り麥稈を敷き蔓の土地に接觸し發根する事及病虫害發生等の防除に具ふ

一、摘 心

本葉六、七枚を發生せし時四枚を残し摘心し三、四本の主枝を出さしめ主枝の四、五寸に伸長せる時更

に摘斷し之れより生せる側枝に結莢せしめ一葉を残し摘斷を行ひ蒴果の結成を促進せしむ

一、收 穫

成熟の中途に於てし然らざれば品質外觀共に劣變するのみならず鹽藏となし貯藏力を減じ市場の需要一顧の價値なきものなり收穫に適する熟度は果面の毛茸を脱落し着色の減退せんとする時を可とす然れども短期の貯藏又は調理の料に供する初期の採收は毛茸の脱落せざる以前に行ふものあり而して採收期は七月上旬より九月下旬に至り隔日位に缺を以て果梗を切り自家に運搬す

一、販 賣

販路は専ら名古屋市にして毎朝中央市場又は枇杷島市場に販出し熱田附近に出で小賣をなすもの一部分を占む

第三十一節 葱

(一) 麻生田葱

(寶飯郡豊川町大字麻生田)

一、沿 革

栽培の起因古きも記録の微すべきものなく全く不詳

と雖も口碑に依るに往昔より當地栽培の葱は莖葉軟弱にして甘味多きを以て人の嗜好に適し豊川參詣として新城、田口及信州路より來るもの一度此地に足を入るゝや注文をなし行くを常とせるより爾來今日まで當地より新城まで搬出し新城より夫々各地に搬出する量甚だ多く一時は葱車の往來頻繁にして栽培家は新城通を唯一の作業としたりと云ふ此等の點より窺知するも如何に葱栽培の盛なりしやを知り得べし輒近に至りては他の品性を輸入し本種の栽培は多少減じたるの傾向あり

二、地勢及土質

地勢は概ね平坦なれども西方の小部分は本野ヶ原高臺の一端に當り其斜面は急斜若くは緩傾斜にて平坦部に連亘す

土質は高臺及其附近は洪積層平坦部は沖積層にして葱其他根采類の栽培に適す

三、輪 作 法

輪作の方法は多く甘藷を早收し其後作とするもの良

好にして午莠の後地又可なり而して陸稻の跡に栽培するものは生育不良なりと云ふ、而して後作は概ね麥又は午莠を栽培するを普通とす

四、品種の特徴

形質能く九條葱に類し分蘖多く能く一株二十本以上に達し葉は淡綠色にして青葉部多く極めて柔軟にして丈短く越津葱の如く細からず本種の特徴は煮沸する時は容易に柔軟となり甘味を生じ長く煮沸するも形態を變じ泥状とならざるにあり

五、育 苗

下種は六月中旬を適期とし早きは病害多しと云ふ二尺幅の花壇を構成し之れに堆肥の細碎せるものと糠粕を刻み込み込み土地を均平にし鍬を以て軽く填壓し人尿を施し一畝歩三合の割合にて下種し薄く覆土をなし藁の細かに切斷したるものを撒布し床面の乾燥を防ぐ而して發芽するに至れば定植迄に數回稀薄人尿を施與し苗の肥大を圖るものとす

六、定 植

定植は九月上旬即ち秋彼岸十日前に行ふもの多く前作甘藷を收穫し耕耘均平となし畦幅二尺二三寸に作條を附し原肥を施し株間七、八寸に一株二本宛を北側に伏せ植付け一寸位の覆土をなし置くものとす

七、施肥及中耕

肥料は原肥として定植の際一畝歩當鯨粕一貫二百匁、完全肥料七百五十匁を刻込み補肥としては第一回は活着の後凡そ二十日を経て小溝を附し是れに稀薄人尿二荷を與へ第二回は爾後一週間を経て前記小溝に鯨粕一貫五百匁を施し堆肥三十五貫を以て之れを覆ひ其後十月頃迄に一、二回稀薄人尿を施用するもの多し而して更に十一月上旬稍深く溝を作り鯨粕一貫匁を施し此際除草及充分土寄せをし軟白の用に供す

八、收穫調製荷造販路

收穫は普通十一月下旬より翌年一月下旬迄に行ふも後作に麥を下種するものは稍早時に收穫するを常とす

而して收穫したるものは附着せる土壤を落し枯葉其他を取除き豊橋市場に搬出のものは其儘八百屋番に入れ新城田口及信州路に齧出するものは麥稈製の俵又は米空俵等に一俵十四五貫入れとし二三ヶ所を繩にて緊縛するものとす

第三十二節 葱 頭

一、沿 革

縣下葱頭の栽培に付ては其起因余り遠からざるも其栽培反別相當に多く現今西洋蔬菜中の主位を占むるに至れり而して之が主産地は知多及愛知の二郡にして殊に知多郡横須賀町及上野村は其栽培最も盛なり今之れが濫觴を尋ぬるに記録の徴すべきものなきを以て知る事を得ざれども口碑の傳ふる處によれば横須賀町大字太田に大村鹿之助氏なる精農者あり明治二十五年北海道札幌農園より少許の種子を購入し試作し又上野村大字荒尾蟹江松三郎氏の弟知多郡立農學校に入學中全校より少許の種子を貰ひ受け栽培したり之れに據て見れば横須賀町にありては大村鹿之助、上野村に於ては蟹江松三郎兩氏の栽培せしを

以て嚆矢なるもの如し而して何れも其栽培に於ては好結果を得たるも臭氣高きを以て一般の嗜好に適應せず需用極めて僅少にして唯當時名古屋市富澤町階樂亭にて洋食の料理に使用せし故幾分の需用ありし外枇杷島青物市場に於ても伊藤幸八にて僅に取扱をなすに止まり一時に多量を出荷する時は忽ち停滯を來し殆んど販路に窮するの狀態なりしが明治二十七八年頃より漸次需用する處となり稍栽培に注目するに至り殊に日露戰役當時戰捷の祝賀及俘虜の食用品として多大の需用を來し一般に栽培する處となり以て今日の盛況を見るに至れり
栽培の最も盛なる横須賀町に於ける栽培反別は二十四町四反其産額拾四萬六千四百貫金額壹萬貳千四百圓にして各大字の栽培歩合は太田八分、高横須賀一分、養父一分の割合にして農家一戸の栽培する最多面積は四反歩に及ぶものあり而して栽培の趨勢を見るに内地の需要及海外輸出額増加の結果今後益々栽培反別を増加するに至るべし

二、地勢及土質

知多郡は三河に接觸し海中に突出南北に延長し東西極めて狭し西は熱田灣に面し郡の中心南北に涉りて岳山あり以て本郡を東浦西浦に區別す横須賀町及上野村は西浦に屬し一面は海に望み一面小岳に連り氣候概ね温暖なり土質は別項番茄栽培に於けると同様なれば記載せず

三、種 類

品種は白、赤、黄の三種あるも白色種は貯藏に堪へず赤色種は需要少なく栽培するもの少なし一般に黄色種即ち「エロダンバース」種を栽培す其他黄大玉（ラージグローブ）丸玉（エロスキン）白早生（アーリーホワイト）等を栽培す此等の品種は何れも良好なるも特に「エロダンバース」は貯藏に堪へ栽培容易なり黄大玉は收量多きも貯藏に堪へず

四、栽 培 法

一、輪 栽

畑及田に栽培し畑に於ては一般二年輪栽を施行し葱頭の跡作として落花生、麥、豌豆、陸稻、黍等の順序に

作付し再び葱頭を栽培す最も好都合なるは葱頭の跡に小豆を播付け收穫後馬鈴薯を植付るものとす

一、苗床

苗床は播種一週間前に於て構成するものにして巾四尺高さ三、四寸の短冊形とし床面一坪に付き大豆粕五合藁灰六升人糞尿の三倍に稀釋したるもの凡そ一斗を地下に埋施し土塊を細碎し床面を均らし八月下旬乃至九月上旬一坪約六勺の割合を以て撒播とし種子の隠るるを程度に砂を覆ひ其上に乾燥を防ぐ爲め藁又は藎を覆ひ發芽後一週間に於て藎を除去し爾後一、二回液肥を施し培養す本畑一反歩に要する苗床は約十坪にして種子六合を要す

一、定植

定植の時期は十一月上旬より初め遅きは一月中旬頃迄行ふものとす早植は出穂多く遅植は發育宜しからず普通十二月上旬を最良とす定植の方法は前作の跡地を耕起し畦巾二尺の揚畦を作り原肥を施し二列として株間三寸の距離に一本宛定植するものとす

一、肥料

施肥の方法としては元肥は定植前畦上に施し土を覆

ひ追肥は彼岸前に二列の中間を熊手にて掘り其中に施用し土を覆ふものとす下肥は随時使用するものとす今左に一反歩に對する肥料の種類及分量を示すべし

肥料名	元肥		補肥		備考
	數量	價格	數量	價格	
大豆粕	40,000	7,800	30,000	5,000	補肥として春彼岸前
人糞尿	30,000	1,500	10,000	1,000	補肥後隨時
過磷酸石灰	6,000	600	5,000	500	補肥として春彼岸前

一、收穫其他

收穫は早出と稱して四月下旬に採收するものあるも普通莖の倒るるを程度として收穫す即ち六月中旬頃晴天を見計ひ鋏を以て掘取り自宅に運搬し日光にて乾燥するものとす

販路は枇杷島市場六分、名古屋市一分、大阪、神戸、敦賀等三分位にして附近への出荷は馬車及船を使用し其他は鐵道便とす

貯藏の方法は日光にて乾燥したる後莖を切断し少量なれば四、五個宛根部を結束して竹竿に掛け日蔭に置き多量なる時は蠶座様のものに伏せ並列貯藏す然

れとも九月乃至十月に至れば往々發芽するを以て冬期迄貯藏するもの少なし

五、採種法

固有の形狀及色澤を有し品質佳良なる中位の球を撰擇し九月下旬畦巾二尺九寸株間七、八寸に一個づゝ定植し十日内外にて發芽するを以て其後大豆粕下肥等を二、三回施用す斯くすれば四月上旬に至り出穂するを以て若し倒臥の恐ある場合は畦の兩端に杭を建て繩を張りて豫防すべく七月中旬に至り種實の充實したる時鎌を以て穂を刈取り藎の上にて日乾し乾燥するを待ち手に草履を當て藎の上にて摺り然る後水撰或は唐箕撰を行ひ乾燥して貯藏す一反歩の收量は開花時期の天候及虫害の如何により一定せざるも凡そ九斗内外とす

種子の販路は縣内の需要は甚だ少量にして重に山口福井、滋賀、岐阜、静岡、長野の諸縣に販賣す最近朝鮮方面へも多少輸出するに至れり價格は收量の如何により一定せざるも普通一升貳圓五拾錢内外とす

六、病虫害

雨天連續する時は亦澁病の發生する事あり之れが豫防としては二斗五升式乃至三斗式石灰「ボルドー」液に膠又は石鹼を混じたるものを數回に撒布す
害虫の重なるものは「むくげむし」を主とし其害甚しく採種用の如き收穫皆無の場合あり之れが驅除としては多く除虫菊加用石鹼合劑を使用す

第三十三節 菜豆

菜豆の栽培は縣下至る處に之れを行ふも其最も盛なるは愛知郡荒子村附近なれば左に同地方に於ける栽培法の一一般を記すべし

一、沿革

明治維新前より自家用として多少栽培せられたるも當時栽培のものは晩生種にして莢は扁平豐産ならずして栽培の價値なかりしを以て野崎徳四郎氏は之れが優良種を求めんと腐心し明治十八年東京の知人より品名不詳の菜豆種子三粒を寄贈され栽培したるに草姿矮生、早生豐産にして味又佳なりしを以て之れ

を増殖し近隣の菜園家に頼ち栽培せしめたるより漸次栽培盛となり世に云ふ御厨菜豆とは本種にて以前本村を御厨村と云へるより村名を冠し枇杷島市場にて賞讃の餘り命名せられたるものなりと云ふ當時にありては別に早期の栽培をなすものなかりしも現今は殆ど温床を利用し五月上旬より已に收穫し得るが如き栽培を爲すに至れり

二、品種の特徴

草姿矮生にして草丈一尺内外、早生種豊産にして莢は上下同大長さ四寸位其色緑色熟すれば黄色となる種子は赤褐にて小斑紋を有す

三、輪作法

普通前作に麥を一畦置きに栽培し後作としては黍藍等を栽培し未だ輪栽的關係詳ならず

四、育苗法

専ら温床を用ひ宅地内陽光の投射充分にして温暖な

る場所を相し幅一尺八寸乃至二尺五寸長さ適宜にて深さ五寸位掘り下げ米糠未熟堆肥又は落葉等を填充踏み込みをなし高さ四寸の框を備へ三寸深さに川砂を入れ種子を點播し砂を以て被土をなす

一反歩に要する苗床は三坪にて種子六升を要す而して適量に灌水す、尙發芽する迄稻藁を被ひ温度の高下に注意し凡そ攝氏二十度位を適温とす、而して下種期は二月二十日前後に行ふもの多し
一週内外にて發芽を始むるを以て稻藁を除去し三日間位充分陽光に浴せしめて後冷床に移植するものとす

冷床は又温暖なる場所に幅六尺長さ適宜にして南側は六寸北側は九寸の高さの框を備へ床土は定植の際臺付きを便にする爲め緻密なる園土を用ふ移植の適期に生育せる苗は甲折が全く開展し終らんとする頃にて株間四五寸の距離に淺植灌水をなし油障子を架し温暖なる日には開放し其他の時は之れを架し夜間は菰を二重に覆ふ而して定植せんとする三日前に腐熟油粕を與へて發育を助長す

五、栽培法

一、整地

一畦置きに作付せる麥の根元より約五寸隔て、土壤を北側に返し付け幅二尺の花壇畦を形成し之れに定植す

一、定植

四月二十日前後を以て適期とし株間一尺二寸に二列に植穴を穿ち稀薄人尿を注加し一株二本宛を定植す
一、肥料及中耕除草

第一回は原肥として人尿百二十貫を第二回は定植一週間後人尿二百貫を畦上に灌注し第三回は爾後一週間の後株間及畦間を「こまざら」にて掻き鯨粕十貫堆肥二百貫、藁灰二十貫、人尿百五十貫を施與し麥の根元を少しく削り覆土し其後は草勢を見て一二次人尿を施用し除草は隨時に行ふものとす

一、收穫調製及荷造

收穫は五月上旬より六月中旬迄隔日に行ひ十莢を一把とし棕櫚又は藁を以て把束し幅八寸長さ一尺二寸深さ二寸五分の籠に五十把を入れ市場に販出す

第三十四節 番椒

番椒は知多、愛知、碧海、實飯の各郡に栽培せらるゝも就中知多郡上野村地方を以て最とす以下同地方に於ける栽培狀況を示すべし

一、地勢及土質

東南方大府及大高町に接する一部は丘陵を以て境し西方海岸に接す南方より北に走る丘陵あり北部は一帯の平地にして大高町及天白川に境し後田川は村の中部の丘陵より發し東方及西方の丘陵間を南に流れ横須賀町に入り土留木川は村の北部を西流す
土質は丘陵地は多く埴土にして低地は壤土又は砂質壤土なり何れも排水能く地味肥沃にして各種作物の栽培に適す

二、品種

品種は從來「鷹の爪」種のみにて本種は木立性にして繁茂密生し葉は小形淡綠色類は濃赤色にして普通の鷹の爪種より稍大形なり輸出に好適し其栽培面積二十町歩に達す

三、輪 作
茄子科植物栽培の跡地には四、五年間栽培を避け其他の作物なれば差したる好悪なく普通麥の跡地に栽培す

四、整 地

麥の畦間に鋤を入れ片側に土寄をなし原肥を施用し原の如く土寄をなし作畦を設くるものとす

五、播種及定植

四月中、下旬一反歩三坪の割合に冷床を設置す其の苗床は巾四尺長さ適宜にて周圍を高さ五寸乃至八寸位藁を以て圍繞し其中に三寸位の床土を入るゝものとす床土は豫め田土を乾燥粉砕し細砂、藁灰、大豆粕を混じて堆積し大豆粕の充分腐熟したる後使用す而して細目の篩を通して苗床に入れ表面を均平ならしめ之れに苗床三坪につき種子一合を播下し細砂を以て浅く覆土し如露にて充分灌水す爾後乾燥の度合を見て適宜灌水する事普通苗床に同じ而して十日内外を經過すれば發芽するを以て二、三回間引を行ひ

最後に株間三、四寸を保たしめ尙生育の如何により稀薄人尿尿を一、二回施用し苗の肥大を圖るものとす
植付は六月上、中旬頃にして麥刈取後直ちに行ふ畦間二尺株間一尺とし定植終れば稀薄なる人糞を根邊に施用す

六、施 肥

肥料の種類は大豆粕、人糞尿、藁灰、過磷酸石灰等にして其用量は一反歩當り左の如し

大豆 粕	三十五貫
人 糞 尿	百二十貫
藁 灰	二十貫
過磷酸石灰	五貫

原肥として整地の際大豆粕十五貫、藁灰二十貫を與へ定植後鉢廻と稱して人尿尿六十貫を稀釋施與し追肥は七月上、中旬第二回中耕の際畦の両側を浅く削り之れに殘量を施し土寄をなし畦を完成す

七、中耕及除草

中耕は二回行ひ第一回は六月中、下旬活着後麥の刈株より側方に土寄をなす第二回は七月上、中旬第一回中耕の際土寄したる處を浅く削り片側麥の刈株を取り之れに施肥をなし両側より土寄を行ひ畦形を完成す

八、病 虫 害

病害としては往々立枯病を發生するも近年苗床當時より多量の藁灰を使用するを以て殆んど被害なく害虫としては著しきものなく時々二十八星瓢虫の喰害する事あり

九、收穫及調製

八月中旬より十月上旬に渡り成熟のものより四、五回に採收し五、六日間日乾す一反歩の收量は七十貫乃至九十貫を普通とす

一〇、販 賣

地方の仲買人之れを買求め需用地の商人に見本を示し賣買の協定をなすものとす取引先は全部神戸市に

して荷造は南京袋に壹百斤を入れ繩にて緊縛し發送す而して最近十ヶ年間平均市價一貫外五拾五六錢なりとす

第三十五節 落花生

(一) 知多部横須賀地方の方法

一、沿 革

栽培の起源は微すべきものなく嘗自家用とし小兒の間食用として始め栽培されたるものゝ如きも爾後風土に好適なると輸出用として市場に歡迎せらるゝに至り大に栽培者を増加したるものなり

二、輪 作法

普通麥を前作とし年々交互栽培す近來葱頭栽培の勃興と共に葱頭を前作とし其跡作に落花生を栽培するもの多し

三、栽 培 法

一、下 種
下種には三様ありて一つは直播法にして在來より行

はれたる方法にて八十八夜五日乃至十日前に畦幅二尺株間一尺五寸の畦を造り其中腹に直径七、八分の棒を以て深さ一寸五分位の穴を穿ち是れに一粒宛種子を投下し後覆土す、而して十數日を経れば發芽するも鳥又は蟲鼠害の爲め發芽を誤ること多し今一つは芽出蒔にして前者にては發芽を誤ること多きを以て近來本法に依り下種するもの多し其方法は種子を一晝夜浸水し能く水を除き藁苞に巻き軒下の温暖なる場所に置き嚴寒時及夜間は屋内に入れ如斯ければ四五日にて發芽するを以て之れを本圃に定植す、尙一つは苗床を構成し之れに下種し成苗を得て本圃に定植するものにして其方法は種子は芽出蒔の如く處理し苗床は宅地内の温暖なる場所に幅三尺長さ適宜

(二)反歩なれば長さ二間を要す)の花壇形に構成し相互の距離七、八分位に種子を挿し込み手にて土を種子の漸く見へざる程度に覆ひ置けば一週間内外にて發芽す而して草丈三寸葉數(簇葉)五、六枚を生じたる時即ち六月中旬本圃に定植す

一、肥料及中耕、除草

肥料は肥沃なる土地に施用する時は徒らに莖葉繁茂

し子實の結成不良なるを以て土地の肥瘠を仔細に考へ施肥用量を定む而して普通七月上旬一回中耕を兼ね大豆粕八貫匁を施用す莖葉の發育遅緩なる時は人尿尿を施用すれば幾何もなくして強盛となり除草は莖葉の圃全面に蔓延する以前に於て隨時行ふ尙暑夏の候旱魃の際は早朝又は夕刻の時期に於て日々灌水をなすを可とす

一、收穫、干燥及調製

七月上旬より九月中旬に亘り開花し十月下旬に至り子實結成するを以て備中鋏を以て掘り起し土を落し竹を以て種實を打ち拂ひ一週間位陽光にて乾燥せしめ上下に撰別をなす一反歩の收量は上八十貫、下二十貫内外を普通作とす

四、種子の撰擇及貯藏法

種子用子實は二つ玉にして豊圓引締りたるものを選び奄又は適宜の器物に入れ著しき寒暖の差なき物置又は納屋に懸垂し貯藏す

五、販路及需給の狀態

販路は近隣を始め名古屋地方にして多く土地の仲買人之れを買集め一部分は同地市場に販出するものあり而して價格の最も高きは收穫時にして此際多く販賣し十二月頃迄には全部賣却し盡し販賣に窮するが如きことなく益々需用を増加し來れり

(二) 碧海郡旭村地方の方法

一、沿革

明治五年始めて郡内矢作町大字下佐々木太田坂治郎氏横濱市某商館より落花生を當村に持來り之れが栽培の有利なるを説きたるも村民之れを試食し其不味を喜ばず甚しきは有毒なりと疑ふものさへありて遂に栽培せざりき然るに明治七年同地高松惣吉氏は獨り落花生種子數十粒を得私かに試作したりしに頗る豊産なりしかば尙翌年試作をなしたるに再び豊産にして第三年目には從來の經驗により栽培法も改良し一反歩當五拾圓餘の收益を得たり當時一般に棉作盛なりしも尙收益貳拾圓内外を出でず落花生の收益に及ばざること遠きを見郷黨競ふて之れが栽培を爲す

に至り明治二十年には其作付反別十五町歩に達し爾來當村落花生の聲價日々擧がり販路四方に擴まり明治四十一年には販賣組合設立せられ海外輸出をなすに至り而も彼地に於ける市價頗る良好にして年々多額を輸出す現今栽培反別百五十餘町歩に達し益々増加の勢を呈しつゝあり

二、地勢及土質

地勢は西北より東南に至るに従ひ順次傾斜し矢作川流の低溫地に至り高臺地と區別することを得れども其高低の差は何れも數十尺を出でざる範圍にありて落花生を栽培し得るは矢作川沿岸の低地にして土質は該川の沖積土たり表土極めて深く肥沃なる壤土又は砂質土壤なりとす而して地下水高きも過度に濕潤ならず

三、輪栽法

専ら麥を前作とし年々交互に栽培するも近來連年作付の結果稍多量に施肥せざるべからざるの不利を呈せるより一ヶ年之れが栽培を止め西瓜、梨瓜等を栽

培し麥を下種し其後に栽植し成績良好なるものあり而して當村に於ける落花生は甘藷と伴隨し栽培せらるゝものにして多く甘藷と混植をなし甘藷收穫後種々管理操作を行ふものとす

四、種類

當村栽培の種類は草姿矮性にして莖葉餘り繁茂せず子實は大粒にして色澤能く品質優等なり

五、栽培法

一、下種

下種法には苗床に於て苗を養成し本圃に定植するものと芽出蒔の二法あり前者は輕砂地に堆積肥料を施し其上に砂を覆ひたる苗床を設け殻を剥ぎたる種子を是れに播下し覆土をなし發芽後一株若くは二株宛本圃に定植す後者は濕氣ある土砂中に子實を混じ藎苞に包み日光に晒し二三分發根したるを度とし本圃に播下し降雨の爲め露出を防ぐ爲め粉殻を以て覆ふ而して此方法は鳥獸の害を受くることなく發芽生育可良なるものなり

下種の時期は八十八夜十日前後の二期に行ふも八十八夜前下種に係るものは土用前に於て莖葉繁茂し早魍に遭遇するも之れが害を蒙ることなく栽培安全なり

一、整地定植

畦は三尺幅波形の大畦を作り其高き場所に株間一尺毎に定植す平畦の場合には排水に注意を要せざれば著しく收量を減ず

一、肥料中耕除草

肥料は地質に依り一定せざれども多く窒素質肥料を施すの用なく酸質肥料及加里質肥料を少量に施用せば可なるものゝ如く窒素質肥料過用の場合は莖葉徒らに繁茂し成果少く空果多く品質劣等なり普通過燐酸石灰十貫匁、藎灰十貫匁位を七月上旬中耕除草と相俟つて一回に施用す

一、收穫、乾燥及撰別

收穫の時期は十月上旬にして收穫したるものは蔓を上げ倒にし果實を日光及霜に晒したる後摘採す斯の如くする時は光澤を生じ品質を可良ならしむ摘採し

たる種實は凡そ一週間日光に晒し十分乾燥せしむ乾燥不充分なる時は貯藏中腐敗變色するものを生じ品質を害するに至るべし

六、販路及荷造

從來は近隣を始め岡崎町、西尾町或は枇杷島地方に販出し往々地方仲買人の奸手段に掛り收益を減殺せられ是れが爲め屢々販賣方法に付き研究したる結果明治四十一年同村高松和次郎氏主唱者となり碧南甘藷落花生販賣組合なるものを組織し組合員の生産に係る甘藷落花生は必ず該組合の手を経て販賣する事となり尙同年初めて横濱市駒田商會と特約し海外輸出をなし其結果良好なりしかば栽培者は競ふて組合に加入するに至り更に神戸なる外國貿易商「ジョン・ジョーシー・シグレット」商會と販賣の契約をなし年々多額の輸出を見るに至れり而して海外に輸出するものは精撰品を用ひ南京米空袋に十二貫匁を入れ緊縛し商標(鷹印)を附し輸送す普通品は近隣を始め岡崎、西尾、枇杷島等に組合經由販出す

七、種子の撰擇及貯藏法

種子用の果粒は一本の蔓中第二、第三の位置に結實したるもの最も佳良にして其他は發芽不良なり果粒は收穫後充分乾燥せしめたる後濕氣なき處に貯藏し置くものとす

第三十六節 早期栽培

本縣にて露地にて早期栽培をなすは渥美郡牟呂吉田村中島駒次氏及外敷氏にして之れが種類は重に茄子及蕃茄とす左に中島氏栽培の主要を記載すべし

一、茄子

種類は東京山茄子にて一月中旬豫め催芽したる種子を温床中に下種し四回假植をなし長するに及び温室内に培養し花の開くに至り露地に定植す而して其時期は凡そ四月下旬にて猶當時降霜の虞なしと云ふを得ざるを以て其憂なきに至るまで圃場全面に油障子を覆架するものとす

定植の距離は畦巾二尺五寸、株間一尺五寸とし肥料

は原肥として堆肥三百貫、大豆粕三十貫木灰十二貫（一反歩宛）を施用し定植後四、五日を経て大豆粕三十五貫、過燐酸石灰十五貫を施し爾後勢力の強弱を見て數回人糞尿を施し其他第一回補肥中耕と同時に敷藁を行ふものとす

斯くして五月上旬には最早や採收する事を得大正二年度の如きは初期には悉く一個五錢に販賣し五畝歩にて百六拾圓の粗収入を得たりと云ふ而して販路は豊橋、岡崎、大阪、敦賀、長野、飯田等とす

二、蒔 加

栽培の品種は「アローリエストオブオール」、「ステーショントウワリ」、「ホワイトゼム」、「アローリフワリドム」等の早生種を採用し一月中旬温床に下種し五回の移植をなし生育するに従ひ温室内に培養し一尺三、四寸の所にて摘心を行ひ四月中旬本圃に定植す本圃は豫め麥を二間に一畦宛下種し防風の備となし畦巾二尺、株間一尺五寸の距離に定植し原肥は定植十數日前より三回位人糞尿を施用するか又は大豆粕十四貫、過燐酸石灰十貫を定植一週間前に鋤込み所

定の距離に植付根付肥を施し降霜の憂なきに至る迄夜間油障子を架し爾後別に補肥を施さず結果を待ち時々發生する腋芽を摘採し一本に一花序を附せしめ肥大なる鹹果の結成に努む

而して收穫は五月下旬より七月上旬に及び只一花序のみの結果に止め採果後は株を除去するものとす

一本の收量は平均一百匁位にて一畝歩の收量三十貫其收益平均百匁拾五錢の割合に販賣し一畝歩四拾五圓を收得すると云ふ

販路は東京、大阪、神戸、長野等にして蜜柑空箱又は石油罐空箱に填充搬出す

第二章 收支計算

縣下の主要蔬菜に付一反歩に對する收支計算を記載すべく且又調査の時期たるや稍長期に涉りたれば從て肥料の價格市價等に多少の相違あるを免がれず

一、宮重大根（西春日井郡春日村産）

收 入
一金五拾貳圓五拾錢也

内 譯

金參拾圓 (上品二千本一本壹錢五厘)
金貳拾圓 (中品二千五百本一本八厘)
金貳圓五拾錢 (下品五百本一本五厘)

支 出

一金貳拾九圓參拾七錢也

内 譯

金六圓 小作料
金七拾貳錢 種子六合代
金拾五圓 肥料代
金七圓五拾錢 耕夫及收穫人夫賃
金貳拾錢 農具損料

差引純益金貳拾參圓〇八錢也

二、方領大根（海部郡甚目寺村産）

收 入

一金六拾五圓八拾九錢貳厘也

内 譯

金參拾九圓 上品一千三百本一本參錢
金貳拾壹圓六拾錢 中品一千八十本一本貳錢
金五圓貳拾九錢貳厘 下品七百五十六本一本七厘

支 出

一金參拾貳圓五拾錢也

内 譯

金六圓 小作料
金拾八圓 肥料代
金八圓 人夫賃
金五拾錢 農具損料

差引純益金參拾參圓參拾九錢貳厘

三、方領大根

（愛知郡常盤村大字小本産）

收 入

一金六拾八圓四拾五錢也

支 出

一金參拾參圓七拾五錢也

内 譯

金壹圓五拾錢 種子八合代
金參圓八拾錢 公 稅
金拾貳圓 鹹粕三十四貫匁代
金四圓五拾錢 油粕九貫匁代
金壹圓五拾錢 人糞尿二百八十五貫匁代
金壹圓 整地男二人
金壹圓 畦作男二人

金壹圓參拾錢
 金壹圓五拾錢
 金貳圓五拾錢
 金參圓
 金拾五錢
 差引純益金參拾四圓七拾錢

四、御器所大根 (愛知郡御器所村産)

收 入
 一 金貳拾貳圓也
 支 出
 一 金拾八圓七拾五錢也
 内 譯
 金五圓
 金五十錢
 金壹圓
 金壹圓
 金壹圓貳拾五錢
 金七拾錢
 金參圓
 金貳圓五拾圓
 金貳圓八拾錢
 人糞尿四十五荷代
 第一回開引女二人
 第二回開引男一人女二人
 第三回開引男二人
 整地男二人
 下種男二人女一人
 種子一升代
 施肥男六人
 收穫架掛男五人
 借地料

一三四
 差引純益金參圓貳拾五錢也

五、春福大根 (西春日井郡清洲町大字一場産)

收 入
 一 八拾圓也
 内 譯
 金六拾貳圓五拾錢
 金拾五圓
 金貳圓五拾錢
 支 出
 一 金四拾四圓四拾錢也
 内 譯
 金六圓
 金六拾錢
 金貳拾圓
 金拾貳圓
 金貳拾錢
 金五圓六拾錢
 小作料
 種子五合代(一合拾貳錢)
 肥料代
 耕夫及收穫調製人夫賃
 農具損料
 問屋手數料
 差引純益金參拾五圓六拾錢也
 六、胡蘿蔔

一、布袋産

收 入
 一 金七拾八圓也
 内 譯
 金七拾圓
 金八圓
 支 出
 一 金四拾四圓拾錢也
 内 譯
 金拾貳圓貳拾錢
 金貳圓
 金拾五圓
 金拾四圓六拾錢
 金貳拾錢
 差引純益金參拾參圓九拾錢也
 二、豊川産
 收 入
 一 金七拾圓也
 内 譯
 金六拾圓
 金拾圓
 上等品六百貫壹圓に付拾貫匁
 下等品百貫壹圓に付七貫匁

上等品六百六十貫壹圓に付九貫匁
 下等品八十貫壹圓に付十貫匁

年拾七圓五拾錢にして胡蘿蔔に七分を負擔す
 種子代

肥料代
 整地下種男五人女二人其他男三十人
 女五人男一人五拾錢女一人參拾錢
 農具損料

支 出
 一 金參拾貳圓七拾錢也
 内 譯
 金九圓
 金貳圓
 金九圓五拾錢
 金拾貳圓
 金貳拾錢
 差引純益金參拾七圓參拾錢也
 三、荒子産(西洋胡蘿蔔)

收 入
 一 金百〇五圓也
 内 譯
 金四拾五圓
 金六拾圓
 支 出
 一 金六拾七圓〇參錢
 内 譯
 金六圓八拾參錢
 金四圓
 金貳拾貳圓五拾錢
 (年拾五圓胡蘿蔔に於て六分負擔)
 種子代
 肥料代
 人夫賃
 農具損料
 第一回收穫三千把一担壹錢五厘の割
 第二回收穫二萬本一本參厘の割
 大麥六升四合八勺米六升四合八勺
 (一畝)之れを時價に見積り三毛作
 なれば三分の一を負擔す
 種子代
 人糞尿七百五十貫堆肥三百五十貫
 葉灰五十貫油粕二十貫代
 一三五

金參拾參圓五拾錢
 整地下種十人同引施肥耕耘十五人
 收穫調製販賣三十人女二十人計男
 五十五人女二十人
 農具損料

差引純益金參拾七圓九拾七錢也

七、牛 勞 (丹羽郡古知野産)

收 入
 一金八拾七圓五拾錢 牛勞七百貫代

支 出
 一金五拾壹圓五拾錢

内 譯

金六 圓 小 作 料
 金貳圓五拾錢 種子一升代
 金貳拾圓 糶種精 三石代
 金五拾錢 糶灰十貫代
 金貳圓 過糶酸石灰十二貫代
 金壹圓五拾錢 麥 稈 代
 金拾參圓五拾錢 人 夫 賃
 金五拾錢 農具損料
 金五圓 收穫及調製運搬

差引純益金參拾六圓也

八、蕪 菁 (海部郡大治村産)

收 入
 一金五拾八圓也

内 譯

金貳拾五圓 上品一千個 一個貳錢五厘
 金參拾圓 中品千五百個 一個貳錢
 金參圓 下品五百個 一個六厘

支 出
 一金四拾壹圓五拾六錢也

内 譯

金五拾錢 種 子 代
 金拾五圓 肥 料 代
 金拾圓 人 夫 賃
 金壹圓五拾錢 雜 費
 金五圓 小 作 料
 金五拾錢 農具損料
 金四圓〇六錢 問屋手數料

差引純益金拾六圓四拾四錢也

九、蓮 根 (海部郡立田村産)

收 入
 一金九拾九圓五拾錢參厘(一反步當植付二年目)

内 譯

計算を省略し第一回の收穫に係るもの收支計算を記さん

收 入
 一金參拾五圓五拾錢也 八百貫代

支 出

一金拾七圓參拾五錢也

内 譯

金參圓五拾錢 借 地 料
 金八拾錢 整地鞍鑿男一人半
 金貳拾五錢 蔓切女一人
 金貳拾五錢 挿秧女一人
 金八拾錢 施肥中耕除草男一人女二人
 金五拾五錢 運返し男一人
 金壹圓六拾錢 收穫男二人女二人
 金五拾錢 運搬調製女二人
 金壹圓拾錢 育苗男二人
 金貳圓參拾錢 苗床維持料油障子張替代
 金四圓六拾錢 肥料代
 金壹圓拾錢 醱酵材料代

差引純益金拾八圓拾錢也

支出内譯中種蕪代金を控除したるは第二回收穫金より支出し得る故なり

金五拾四圓貳拾八錢 上品(大頭)百九十貫壹圓に三貫五百
 金貳拾六圓六拾六錢八厘 中品(中)百二十貫壹圓に四貫五百
 金八圓參拾參錢參厘 下品(シャミ)五十貫壹圓に六貫
 金貳圓七拾七錢八厘 屑(ツグ)二十五貫壹圓に九貫
 金四圓四拾四錢四厘 屑(頭)二十貫壹圓に四貫五百
 金參圓 屑(生根)四十五貫壹圓に十五貫

支 出

一金五拾貳圓貳拾七錢也

内 譯

金八圓參拾錢 肥料代及運代
 金拾圓 施肥耕耘、除草人夫二十人
 金參圓七拾五錢 洗滌人夫女十五人
 金五拾錢 荷造人夫一人
 金貳圓九拾貳錢 枇杷島市場行運賃
 金八拾錢 農具損料
 金拾六圓 年 賃 料

差引純益金四拾七圓貳拾參錢參厘也

一〇、甘 藷

一、碧海郡旭村産

當地にては二回收穫の栽培をなすも第二回分は主として種藷を得るが爲めの栽培なるを以て之れが收支

二、渥美郡高師村産

收入

一金貳拾八圓也 七百貫久代

支出

一金拾四圓參拾錢也

内譯

- 金壹圓四拾錢 公 種 代 稅
- 金五拾錢 種 代
- 金參圓五拾錢 肥 料 代
- 金壹圓 糞 三十貫代
- 金壹圓貳拾錢 苗 床 肥 料 代
- 金壹圓五拾錢 育 苗 男 三 人
- 金壹圓五拾錢 整 地 挿 秧 男 二 人 女 二 人
- 金五拾錢 返 送 男 一 人
- 金五拾錢 除 草 女 二 人
- 金壹圓貳拾五錢 收 穫 男 一 人 女 三 人
- 金七拾五錢 調 製 運 搬 男 半 人 女 二 人
- 金壹圓貳拾錢 苗 床 構 設 費

差引純益金拾參圓七拾錢也

一、蠶

收入

一金七拾七圓貳拾錢也

内譯

- 金七拾貳圓(新舊全部一等品) 一俵壹圓貳拾錢 六百貫(六十俵)
- 金四圓 古 根 一貫目八錢 五十貫
- 金壹圓貳拾錢 莖 葉 壹貫目參厘 四百貫

支出

一金六拾圓八拾四錢貳厘也

内譯

- 金八圓四拾錢 種 子 代 十 貫 目 壹 圓 貳 拾 錢 七 拾 貫
- 金壹圓 整 地 人 夫 賃 男 貳 人 壹 人 五 拾 錢
- 金壹圓 下 種 人 夫 賃 男 一 人 男 一 人 五 拾 錢
- 金壹圓 女 二 人 女 一 人 參 拾 錢
- 金拾四圓八拾五錢 肥 料 代 堆 肥 三 百 貫 參 圓 鹹 糞 二 十 貫 貳 拾 圓 糞 尿 四 十 貫 六 拾 錢
- 金壹圓 糞 灰 三 十 貫 壹 圓 貳 拾 五 錢
- 金壹圓 施 肥 人 夫 賃 男 二 人 男 一 人 五 拾 錢
- 金壹圓 中 耕 除 草 人 夫 賃 男 二 人 男 一 人 五 拾 錢
- 金貳圓四拾錢 病 虫 驅 除 豫 防 費 男 三 人 女 三 人 男 一 人 五 拾 錢
- 金壹圓六拾五錢 藥 液 ホ ル ド 一 液 三 斗 式 三 石
- 金壹圓六拾錢 採 收 費 (堀 上 壘 取) 男 二 人 女 三 人 男 一 人 參 拾 錢
- 金壹圓六拾九錢貳厘 地 租 公 課 其 他 諸 掛 全 年 分 六 割 本 作 に 對 當 す
- 金拾八圓 土 地 に 對 する 利 子 實 買 價 格 六 百 圓 利 子 年 五 分 此 六 割
- 金五拾錢 農 具 損 料

- 金貳圓五拾錢 其他の資本に對する利子 年七分使用期間一ヶ年
- 金壹圓 貯 藏 人 夫 賃 男 二 人 一 人 五 拾 錢
- 金壹圓貳拾五錢 糞 代 糞 五 十 貫 一 俵 貳 錢 五 厘
- 金貳圓參拾錢 荷 造 費 表 俵 六 十 俵 一 俵 貳 錢 繩 六 拾 錢
- 差引純益金拾六圓參拾五錢八厘也

備考

一、當字に於ける栽培者は全部自作なるを以て小作料を省略す

一、當字に於ける蠶は主として種蠶として販出するを以て洗滌乾燥費等省略す

一、生姜製造は一部分古根を以て製造するのみにて其製造僅少なるを以て省略す

二、土當歸 (中島郡祖父江町産)

收入

一金貳百拾參圓也

内譯

- 金百參拾五圓 上 品 五 千 四 百 本 代 (一 本 貳 錢 五 厘)
 - 金六拾參圓 中 品 四 千 二 百 本 代 (一 本 壹 錢 五 厘)
 - 金拾五圓 下 品 三 千 本 代 (一 本 五 厘)
- 支 出 (但 初 年 定 植 の 期)
- 金八拾八圓七拾四錢也
- 内 譯

- 金貳拾四圓 小 作 米 壹 石 二 斗 代
 - 金拾八圓 苗 六 百 株 代
 - 金拾圓拾錢 栽 培 人 夫 賃
 - 金貳拾壹圓六拾四錢 肥 料 代
 - 金拾四圓五拾錢 收 穫 販 賣 人 夫 賃
 - 金五拾錢 農 具 損 料
- 差引純益金百貳拾四圓貳拾六錢也

一、薯蕷 (海部郡神守村)

收入

一金壹百六拾五圓也

内譯

- 金壹百六拾五圓 三 百 三 十 貫 壹 圓 に 付 二 貫 久 代
- 支 出
- 金八圓 小 作 料
 - 金貳拾五圓 肥 料 代
 - 金參拾四圓七拾錢 種 薯 代 (一 個 八 厘)
 - 金拾五圓 人 夫 賃
 - 金參圓 繩、竹、藁

金壹圓五拾錢

農具損料

差引純益金七拾七圓八拾錢也

二、本 薯 (葉栗郡淺井町産)

收入

一金貳百〇貳圓參拾錢也

内 譯

金百拾參圓七拾錢

金六拾圓

金貳拾八圓六拾錢

支出

一金壹百拾九圓九拾錢也

内 譯

金七圓

金參拾參圓九拾錢

金六拾圓

金拾八圓

金壹圓

三、江戸薯

收入

一金百八拾八圓八拾錢也

内 譯

金百八拾八圓八拾錢

支出

一金八拾六圓也

内 譯

金七圓

金參拾圓

金拾八圓

金壹圓

差引純益金壹百〇貳圓八拾錢也

一四、秋冬(早生) (西春日井郡新川町産)

收入 (第一年)

一金金百四拾五圓也

内 譯

金百貳拾圓

金貳拾圓

金五圓

支出

一金百五拾壹圓五拾錢也

金拾六圓五拾錢

金貳拾圓

金四圓

金參圓

金七圓五拾錢

金五拾圓

金參圓

金六圓

金拾貳圓

金九圓

金八圓

金五拾錢

差引不足金六圓五拾錢也

收入 (第二年目)

一金貳百拾圓也

内 譯

金百六拾圓

金四拾圓

金拾圓

一金百四拾七圓五拾錢也

小 作 料

苗代(六十坪分)

定植人夫男十人

施肥及中耕人夫賃

防寒用藁三百束

肥料 代

防寒用杭及び竹の償却代

藪二百枚拾貳圓二ヶ年使用として一ヶ年分

藪圍及棚作り人夫賃男三十人代

收穫人夫賃男三十人

調製人夫賃女三十人

運搬人夫賃二十人

農具損料

内 譯

金拾六圓五拾錢

金參圓

金九圓

金六拾圓

金參圓

金六圓

金拾貳圓

金拾六圓

金拾貳圓

金拾圓

差引純益金六拾貳圓五拾錢也

第一年不足金差引純益金五拾六圓也

一五、愛知白菜 (西春日井郡清洲町産)

一金百貳拾七圓九拾貳錢也

内 譯

金百圓六拾貳錢

金貳拾參圓四拾錢

金參圓九拾錢

一金八拾壹圓四拾錢七厘也

小 作 料

施肥及中耕人夫賃

除草人夫賃女三十人

肥料 代

防寒用杭及び竹償却金

藪二百枚拾貳圓二ヶ年使用として一ヶ年分

藪圍及棚作り人夫賃男三十人

收穫人夫賃男四十人

調製人夫賃女四十人

運搬人夫賃二十五人

(上品貳千參百四拾株一株四錢參厘)

(中品千七百七拾株一株貳錢)

(下品參百九拾株一株壹錢)

内 譯

金六圓八拾參錢

金四拾五錢

金貳拾六圓拾錢

金參拾七圓貳拾錢

金貳圓五拾錢

金八圓參拾貳錢七厘

差引純益金四拾六圓五拾壹錢參厘也

一六、甘

收 入

一金百拾四圓也

支 出

一金六拾五圓貳拾九錢也

内 譯

金六圓八拾五錢

金六

金九

金四圓八拾錢

金拾

金七圓五拾錢

大麥六升四合八勺米六升四合八勺
(一畝宛)を年貢とし之れを時價に
見積り二毛作なるを以て三分の一
として計算
(種子三合代一合拾五錢)

肥料代

人夫賃(計四十二人一人六拾錢)

農具損料

問屋手數料

藍 (愛知郡荒子村産)

小作料
大豆類四十貫代
練粕二十貫代
人糞尿六百貫代
過磷酸石灰一貫代
硫酸安母尼亞十三貫代

一四二

金貳圓

金壹圓

金九拾錢

金壹圓貳拾錢

金壹圓八拾錢

金壹圓貳拾錢

金參拾錢

金四圓五拾錢

金九

金壹圓拾錢

金四拾錢

差引純益金四拾八圓七拾壹錢也

一七、菠 稜 草 (愛知郡荒子村)

收 入

一金壹百圓也

支 出

一金五拾六圓四拾五錢也

内 譯

金五圓五拾五錢

金壹圓貳拾錢

金壹

金參

堆肥三百貫代

糞灰二十貫代

青苗男一人半

整地男二人

定植男二人女二人

中耕男二人

除草女一人

收穫男五人女五人

運搬男十五人

農具修繕費

種子代

公 稅
整地男二人
種子五合代
下種男五人

金六圓
金拾圓五拾錢
金壹圓貳拾錢
金參
金貳拾四圓
金壹

差引純益金四拾參圓五拾五錢也

一八、茄 子 (西春日井郡新川町寺野産)

收 入

一金百四拾六圓九拾五錢也

内 譯

金九拾七圓六拾錢

金四拾貳圓六拾錢

金六圓七拾五錢

支 出

一金八拾圓六拾九錢也

内 譯

金拾四圓五拾六錢

金參拾圓參拾壹錢

金拾八圓拾錢

金壹圓五拾錢

金五圓五拾錢

施肥男十人
人糞尿代
中耕男二人
間引及除草女十人
收穫調製運搬男二十五人女三十人
器具損料

(上品二萬四千四百個一ヶ四厘)
(中品二萬一千三百個一ヶ二厘)
(下品一萬三千五百個一ヶ五毛)

苗代
肥料代
人夫賃
雜費
小作料

金五拾錢

金拾圓貳拾錢

差引純益金六拾六圓貳拾六錢也

一九、胡 瓜 (西春日井郡新川町寺野産)

收 入

一金百拾壹圓也

内 譯

金七拾五圓

金參拾圓

金六

金八拾圓八拾六錢也

支 出

金拾五圓

金貳拾圓參拾錢

金貳拾五圓四拾六錢五厘

金六圓參拾貳錢五厘

金五圓五拾錢

金五拾錢

金七圓七拾七錢

差引純益金參拾圓拾四錢也

上品 壹萬五千本代
中品 壹萬本代
下品 六千本代

苗代
人夫賃
肥料代
支柱材料代
小作料
農具損料
問屋手數料

一四三

二〇、冬 瓜 (一畝步當冷床に依る)

(愛知郡常盤村産)

入金 上二百四十個中三百個下二百個代

一金八圓貳拾壹錢也

内 譯

金參拾八錢 公 稅
金五拾錢 育苗男一人
金五拾錢 種子代
金壹圓參拾錢 人糞尿六十五貫代
金四拾壹錢 堆肥四十一貫代
金壹圓貳拾錢 油粕五貫八百多代
金貳拾錢 大根枯葉五貫多代
金五拾錢 整地定植男一人
金壹圓五拾錢 施肥中耕男三人
金五拾錢 麥稈及稻藁
金參拾錢 藁敷女一人
金參拾錢 收穫女一人
金壹圓 運搬男二人
金五拾錢 其他管理男一人
金五拾錢 器具損料

差引純益金貳圓壹錢也

二一、西 瓜 (丹羽郡丹陽村傳法寺産)

入金 上球 百八十個 四拾五圓
中球 三百十個 四拾六圓五拾錢
下球 三百十個 拾七圓五拾錢

一金百〇九圓也

内 譯

金壹圓八拾錢 小作料
金拾六圓 肥料代
金貳拾五圓 人夫賃
金五拾錢 種子代
金五拾錢 器具損料

差引純益金六拾貳圓也

二二、南 瓜 (西春日井郡清洲町産)

入金 金七拾五圓六拾錢也

内 譯

金七拾五圓六拾錢 八百四拾貫 壹貫九錢換

一金四拾六圓八拾壹錢也

内 譯

金貳圓五拾貳錢 苗 代
金拾五圓八拾八錢 肥料 代
金拾四圓六拾錢 人夫賃 代
金貳圓五拾貳錢 敷 代
金五圓五拾錢 小作料 代
金五拾錢 農具損料
金五圓貳拾九錢 間屋手數料

差引純益金貳拾八圓七拾九錢也

二三、甜 瓜

(愛知郡笠寺村大字鳴尾産)

收 入

入金 上品 五百個代 一個六錢
中品 千四百個代 一個四錢
下品 千個代 一個壹錢五厘

一金百〇壹圓也

支 出

公 租
種子代(果四十個代)
育苗男三人

一金四拾四圓八拾七錢也

内 譯

金五圓 借地料
金四拾錢 種子代
金拾九圓八拾六錢 肥料代
鹹粕拾八圓、人尿參拾五錢、堆肥五拾錢、過燐酸石灰九拾錢、糞灰拾壹錢 人夫賃
金拾九圓五拾錢 栽培人夫男二十人、女十人 男一人五拾錢
運搬人夫男十人、女五人 女一人參拾錢
金五拾錢 農具損料

差引純益金五拾六圓拾四錢也

二四、越 瓜 (愛知郡常盤村産)

收 入

入金 上品千八百本中品千八百本下品二百七十本代

一金八拾五圓五拾錢也

支 出

公 租
種子代(果四十個代)
育苗男三人

一金四拾壹圓八拾錢也

内 譯

金參圓八拾錢
金貳圓
金壹圓五拾錢

金壹圓 整地男二人
 金壹圓五拾錢 土探男三人
 金壹圓 定植男二人
 金壹圓五拾錢 施肥中耕男三人
 金九拾錢 藪敷女三人
 金壹圓五拾錢 摘心男三人
 金八圓 收穫男十人、女十人
 金七圓五拾錢 荷造運搬男十五人
 金四圓五拾錢 油粕十八貫
 金貳圓七拾錢 人糞尿二百四十貫代
 金壹圓五拾錢 堆肥三百貫代
 金壹圓貳拾錢 木灰二十貫代
 金壹圓貳拾錢 麥秆千二百把代
 金五拾錢 器具損料

差引純益金四拾參圓七拾錢也

二五、葱

收入

一金六拾八圓也 收量八百貫 一貫外八錢五厘

支出

一金六拾四圓也

內譯

金參圓五拾錢 公租

一四六
 金九圓 種子三升代
 金貳拾圓 鯨粕三十七貫
 金參圓五拾錢 堆肥三百五十貫
 金貳圓五拾錢 植付人夫五人
 金參圓 人尿二十荷
 金拾五圓 施肥中耕人夫三十人
 金七圓五拾錢 收穫調製運搬人夫十五人

差引純益金四圓也

收入

二六、葱頭 (知多郡橫須賀產)

支出

一金六拾壹圓參拾參錢也

內譯

金五拾參圓參拾參錢

金八圓

上品四百八十貫、壹圓二付九貫換
 下品百二十貫、壹圓三付十五貫換

一金四拾壹圓參拾錢也

內譯

金八圓

金壹圓五拾錢

金拾六圓七拾壹錢

借地料
 種子六合代
 大豆稻七十貫、人糞尿五十荷、過糶
 酸石灰十一貫

金五圓六拾錢 整地植付男四人、女三人、施肥
 耕男二人、除草女三人、收穫
 人夫賃男三人、女二人、計男九人、女
 五人、男一人四拾錢、女一人貳
 拾五錢
 金五圓 市場運搬費
 金四圓貳拾九錢 問屋手數料
 金貳拾錢 農具損料

差引純益金貳拾圓參錢也

二七、菜豆 (愛知郡荒子村產)

收入

一金百參拾圓也 二萬把代(一反步)

支出

一金百六圓八拾六錢也

內譯

金六圓八拾六錢 公租
 金參圓 種子六升代
 金四圓五拾錢 框價却金
 金六圓 油障子張替代
 金壹圓 醱熟材料代、
 育苗管理男十五人
 金九圓 藪代
 金六圓 竹及繩代
 金壹圓貳拾錢

金參圓 苗床構設男五人
 金壹圓五拾錢 苗常公租
 金壹圓貳拾錢 整地男二人
 金九圓 定植男十人女十人
 金拾壹圓參拾錢 肥料代
 金壹圓八拾錢 施肥男三人
 金壹圓五拾錢 中耕除草男二人女一人
 金參拾九圓 收穫調製荷造運搬男四十八
 女五十八人
 器具損料

差引純益金貳拾參圓拾四錢也

二八、蕃椒 (知多郡上野村產)

收入

一金五拾參圓貳拾五錢也

內譯

金四拾壹圓貳拾五錢

金七圓五拾錢

金四圓五拾錢

五十五貫外(一等品)單價七拾五錢
 十五貫外(二等品)單價五拾錢
 十五貫外(三等品)單價參拾錢

一金參拾九圓八拾壹錢也

內譯

金壹圓

苗床構設費

金拾 錢
 金五拾五錢
 金五拾五錢
 金五拾五錢
 金五拾五錢
 金九圓七拾錢
 金壹圓拾錢
 金壹圓拾錢
 金五拾錢
 金七圓五拾錢
 金壹圓貳拾五錢
 金貳圓貳拾錢
 金八圓七拾五錢
 金五拾六錢
 金壹圓五拾五錢

種子代一合拾錢
 苗床肥料大豆粕八百匁、人糞尿十五匁、藎灰四匁
 苗床構設費男一人
 苗床管理費男一人
 本圃整地人夫賃男二人
 定植人夫賃男一人
 肥料 代
 施肥人夫賃男二人
 中耕人夫賃男二人
 除草人夫賃女二人
 採收入夫賃女三十人
 乾燥人夫賃女五人
 地租公課及諸掛り
 農具 損料
 土地資本に對する利子
 其他の資本金に對する利子
 荷造 費

二九、落花生 (知多郡横須賀村産)

一 金參拾壹圓七拾九錢也
 内 譯

金貳拾八圓五拾錢
 金參圓貳拾九錢

上八十貫 壹圓に付三貫五百匁
 下二十三貫壹圓に付七貫匁

一四八

支 出
 金參圓拾六錢
 金七拾錢
 金壹圓七拾貳錢
 金參拾錢
 金四拾五錢
 金六拾錢
 金參拾錢
 金壹圓八拾錢
 金壹圓五拾錢
 金拾五錢
 金六拾錢
 金貳拾錢
 金九拾錢

公 租
 種子一貫五百匁代
 大豆粕八貫匁代
 整地男半人
 下種女一人半
 施肥中耕男一人
 除草女一人
 收穫男三人
 全 女五人
 乾燥女半人
 撰別女二人
 運搬男三分
 灌水男一人女一人

三〇、堀江大根

一 金拾貳圓參拾八錢也
 内 譯

收 入

一 金八拾貳圓貳拾錢也
 内 譯

金四圓
 金七拾五圓
 金參圓貳拾錢

間引大根菜代
 上大根五千本代
 屑物四百本代

一 金五拾圓五拾錢也
 内 譯

金拾參圓八拾錢
 金拾五圓
 金貳拾圓
 金壹圓
 金七拾錢

小作料
 肥料代
 人夫賃
 種子代
 農具損料

差引純益金參拾壹圓七拾錢也

(尙自家に於て加工漬物として販出する場合には三拾圓内外の純益を増加するを得べし)

第三章 蔬菜類の加工

序上の如く本縣は蔬菜類の生産に對し天與の地形を有し其生産多大にして其結果各種加工の事業も相當に發達しつつあり、大根は尾張の名物として往古より名聲甚だ高く此等大根を加工したる切干も其生産

多大にして全國は勿論海外にまで供給し縣下唯一の特産品たるなり
 日露戦後各種事業の勃發と共に蔬菜類の加工事業を經營するもの多く特に日露戦争當時軍需品として乾燥蔬菜の需要を増加し其結果該事業の層發達を見るに至れり歐洲戦争以後加工品の輸入少なく内地の需要を増加し、トマトソース、罐詰等の製造は左記の如く著しき發達を見るに至れり以下縣下に於ける蔬菜類の加工の概要を記載すべし

一、大根切干

大根切干は大根を細切し乾燥せしものにして甘味多量且つ特有の風味を有し貯藏に耐へ輸送便なるが爲め其の需要甚だ廣し、縣下に於ては毎年十八萬俵以上の切干を産出し其の價格も實に百萬圓以上に達し廣く全國に販賣するのみならず、遠く朝鮮、滿洲、露西亞、東洋の諸地方へ輸出するに至り縣下重要産物の一なり、殊に尾張部に於ては尾張大根切干同業組合知多大根切干同業組合なるものを組織し相互の粗製濫造を戒め鋭意製造法の研究改良に腐心し販路の擴

張を努めつつあり、而して縣下に於て製造せらるる切干の種類は、長割干、割干、千切干、上切干、角切干（一名蠶切干）及び花丸切干（輪切干）の六種なりとす、何れも製造は冬季農閑の時期なれば農家の副業として最も好適物なりと云ふべし、今順次之が製造法を記載すべし

一、割干製造法
割干大根は大根を細切乾燥伸したるものにして特異の美味を有し且つ風味よきものなり、尙製造に手数を要すること多く且つ熟練を要するを以て一般に製造せられざるも縣下中島郡に於て最も有名なり



製造に供する大根の種類は如何なるものにも可なりと雖も宮重大根を最も可とす、何れにしても最も必要なるは根身の形状真直にして根部の末端に至るに従ひ徐々に細小となり且つ水分の含量多からざるものを良とす、中島郡荻安賀附近に於ては多く氏永大根と稱して栽培盛なり該種は元と全郡大和村大字氏永より産出せる一種にして形状及性状何れも宮重大根と異なる点少なく蓋し同一種なるべし

一、貯藏
收穫後直ちに製造に着手する時は之れを貯藏する必要なしと雖も通常農家は十二月下旬乃至一月中旬の農閑を利用して製造をなすものなれば之れを貯藏せざる可からず、其方法

は清潔なる場所を選び縦横大凡三尺深一尺五寸乃至二尺五寸の穴を掘り（大根大凡百本を埋藏するに適す）此中に葉部を除去せる大根を横に列べ漸次積み重ねて地平面より少しく高き位にして止め其上に藁を厚く被ひ且つ少しく土を被ふべし、穴の大きは大根の量に應じて大小適宜なりと雖も大に過ぐる場合には腐敗を來すことあるものなれば一ヶ所に多く貯へざるを良とす、此の如くする時は能く二月頃に至るまで貯藏に堪ゆると雖も二月以後に至れば風味下劣となり製品佳良なるものを得ざれば一月中に製造に供するを可とす

一、洗滌
貯藏所より取出したる大根は水にて能く洗ひ土砂塵芥等を除き軒下等の雨露に觸れざる處に於て藁に廣げ一日間乾燥す而して夜中は凍結せざる様藁等にて覆蓋するを要す、熟練せるものは乾かざるも能く製造をなすと雖も初心の人に在りては日乾して少しく柔かになりたる頃製するを便なりとす

一、皮剝

大根の地上に露出する部分は綠色を呈するを以て之れを其儘に製造するときは製品の外觀を損す故に皮剝器（第三圖）を以て根頸四五寸の間皮を剝ぎ去るべし、又頭部の葉痕は庖刀を以て削り去り可成美麗ならしむるべし

一、割り方
以上の如く皮剝を了りたれば大根を一本づゝ組上に安置し頭部を右に末端を左にして定木を付したる庖刀（第一圖第二圖）を以て一分乃至一分五厘の厚さに剝離す（第五圖）定木を付るは各片の厚さを一様ならしむる爲めにして其厚さは定木用材の厚薄如何により自由ならしむるを得べし、大抵の大根は十八片より二十六片に縦斷するを普通とす

此の如く縦斷せる各片を剝ぐに従ひて一片づゝ積み重ね大根の原形の如くならしむべし、此作業を「板あげ」と稱す、蓋し板の如くなすを以てなるべし、次に之れを一本づゝ其中央より二分し内部を組に接せしめ（第六圖）組を稍傾け大根の根部を上首部を下になし又細切後散亂せざる様に圖の如く組の一方

に竹釘或は木釘を立て大根の移動せざる様にすべし
而して一方より根の末端部一寸内外を其儘となし他
を幅一分計の廣さに細く縦断す、又切片の中央一
のみ特別に深く切り込み置くときは乾燥の際繩に懸
くるに當り便宜あるものとす

一、乾 燥

細断終りたれば乾燥場に運びて乾燥せしむべし、乾
燥場は風通充分なる場所を撰び長さ一丈より一丈二
三尺の丸太を二間位隔てに立て此れに水平に三段内
外の繩を張り此の繩に前記の大根を一片一片に懸け
乾燥するものとす

乾燥の日数は天候の如何によりて一定ならずと雖も
普通一晝夜乃至二晝夜とす此際雨水に逢ふときは製
品下劣となるを以て降雨のときは速かに納屋等に取り
込むべし、既に乾燥を終り製造所に入取る、は早
朝若くは夕方に於てし日中之れを取入る、ときは乾
燥に過ぎ作業上不便なるが故に通常之れを行はず、
然れども已むを得ずして日中に取り入る、ときは繩
の儘浸水し直ちに引き上げ二三回振り廻し水滴を去

るべし、次に之を藁に包み、其上口を軽く押し濕氣
の一樣に浸潤するを待ちて燃伸に着手す

一、燃 伸

以上の方法にて一面に稍漏りたるものを取り一片一
片よく列べ三四片を一束となして燃伸に取りかゝる
ものとす其方法は粗上に一寸目毎に斜に細線を入れ
たるもの、上にて右手にて其の三四片を握り左手を
以て揉み伸ばす事十數回にして右手に握りたるまゝ、
強く粗上に打ち付け細片の紛糾したるを解き又粗上
にて前の如く伸ばし幾回ともなく前同様の操作を反
覆し全部一様に燃伸するに至り此作業を終るものに
して該作業は割干製造中最も熟練を要するものとす
斯くの如く伸ばせしむれば長さ一尺の大根より八寸
位の切干を得而して其後二三時間位陽乾せしめ屋内
に搬入し荷造に取りかゝるものとす

一、結 束

乾燥終らば各片を長短數種に區別し各切片二十位づ
ゝを一束とし藁を以て結束す、即ち第七圖甲の如く
二本の藁(一)(二)を十字形に交叉し(二)の一端

金四圓五拾錢也

内 譯

金壹圓五拾錢也

生大根百本代

金參圓也

工費五日間

收 入

金五圓四拾錢

割干大根二貫七百匁

(但し一貫匁貳圓替)

差引純益金九拾錢

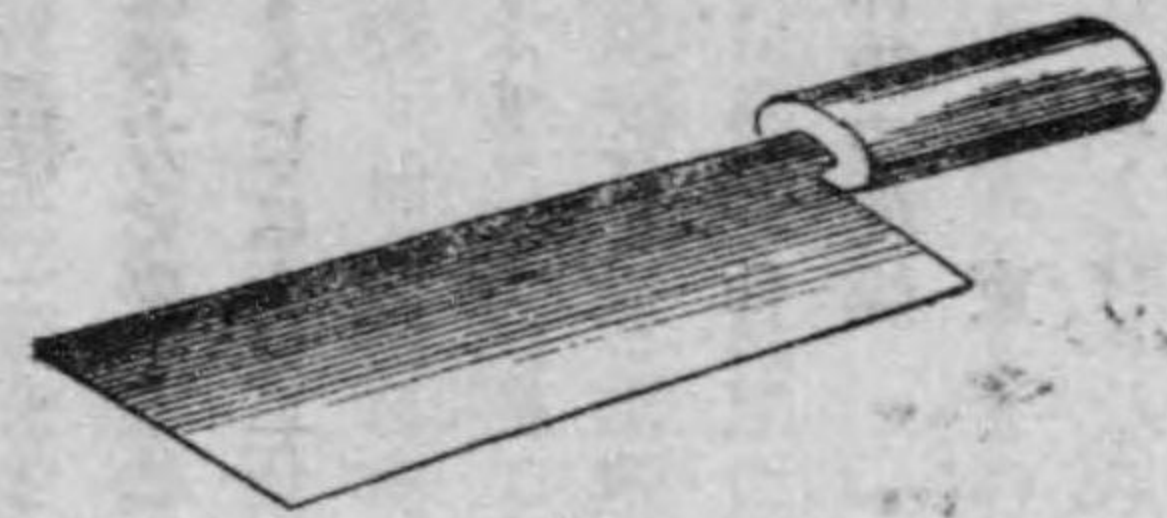
割干製造は勞力を要すること多きものにして百本の
大根を製するには大畧左の時間を要す

一、洗 滌	三 時 間
二、割 ヲ 方	十 一 時 間
三、乾 燥	四 時 間
四、燃 伸	十 時 間
五、燃伸後の乾燥	三 時 間
六、結 束	十 時 間
七、仕 上 げ	八 時 間
合計五日間 (十時間を以て一日とす)	

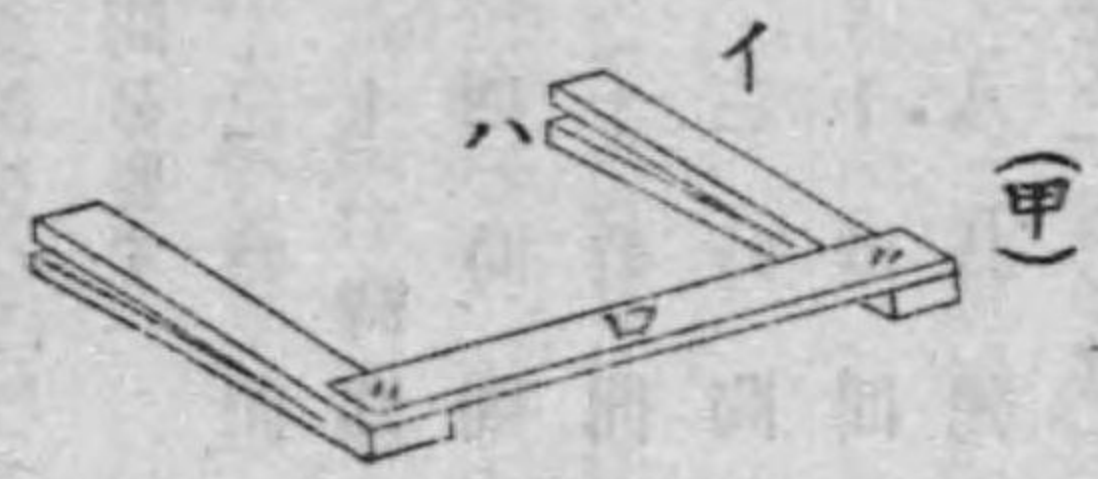
一、收支計算
支 出

左に參考の爲め本場に於て宮重大根を使用し試験し
たる成績を擧ぐべし

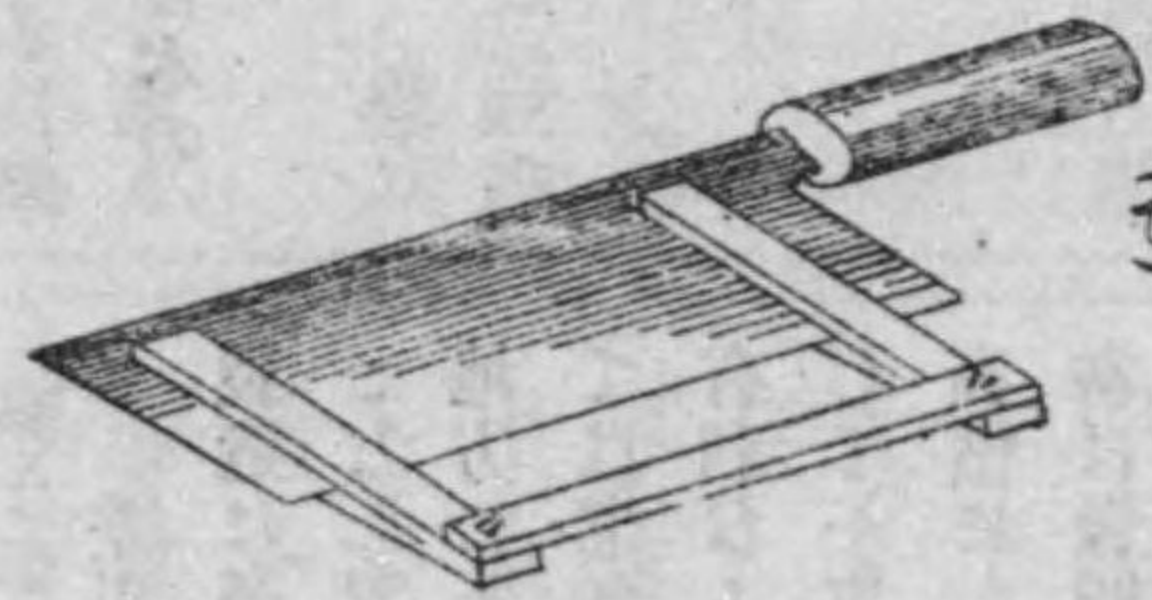
第一圖



第二圖



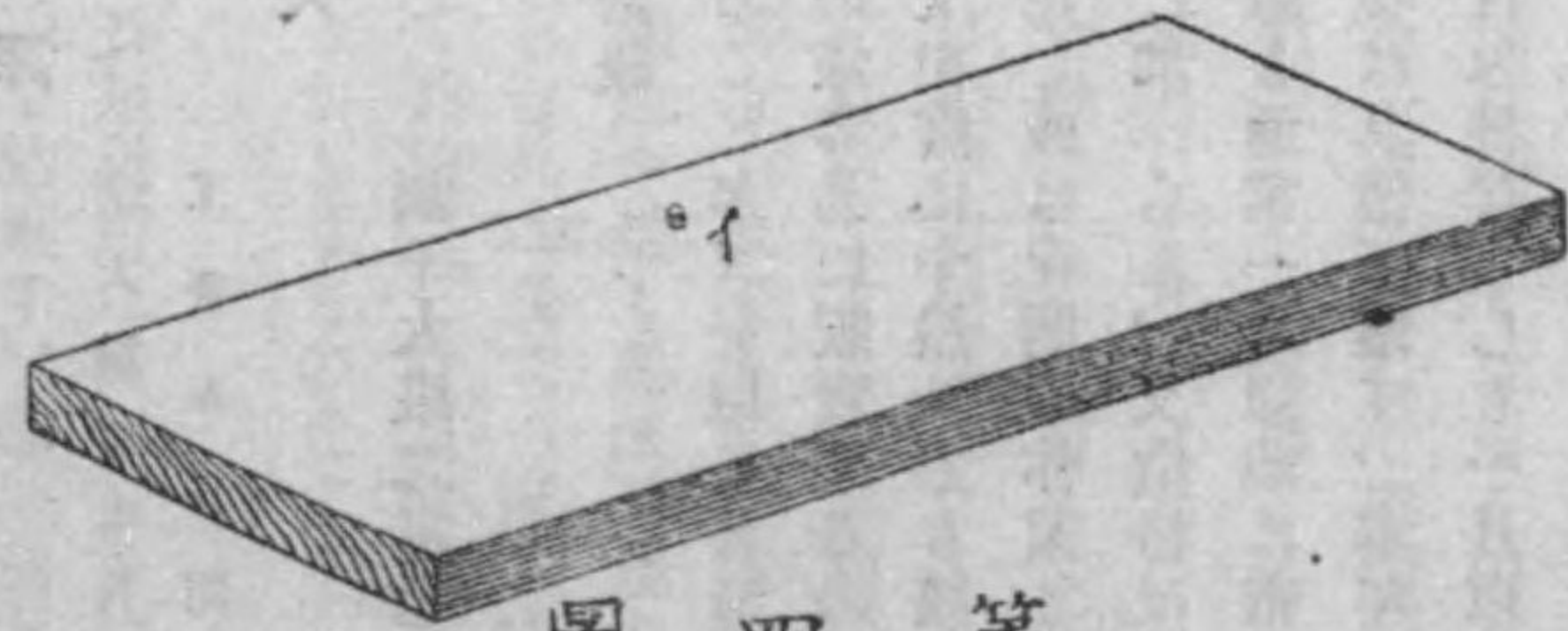
(乙)



第三圖



(乙)

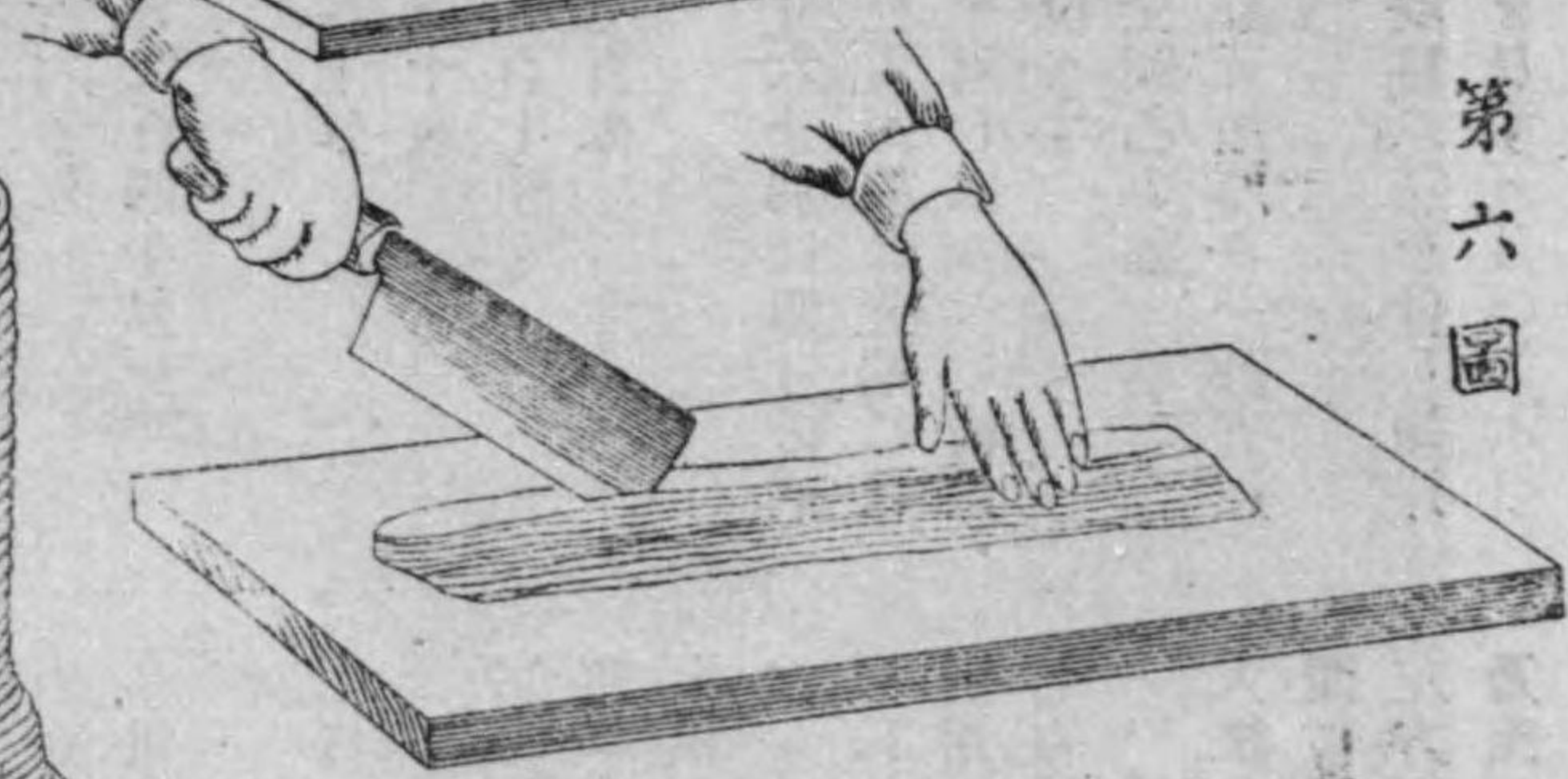


第四圖

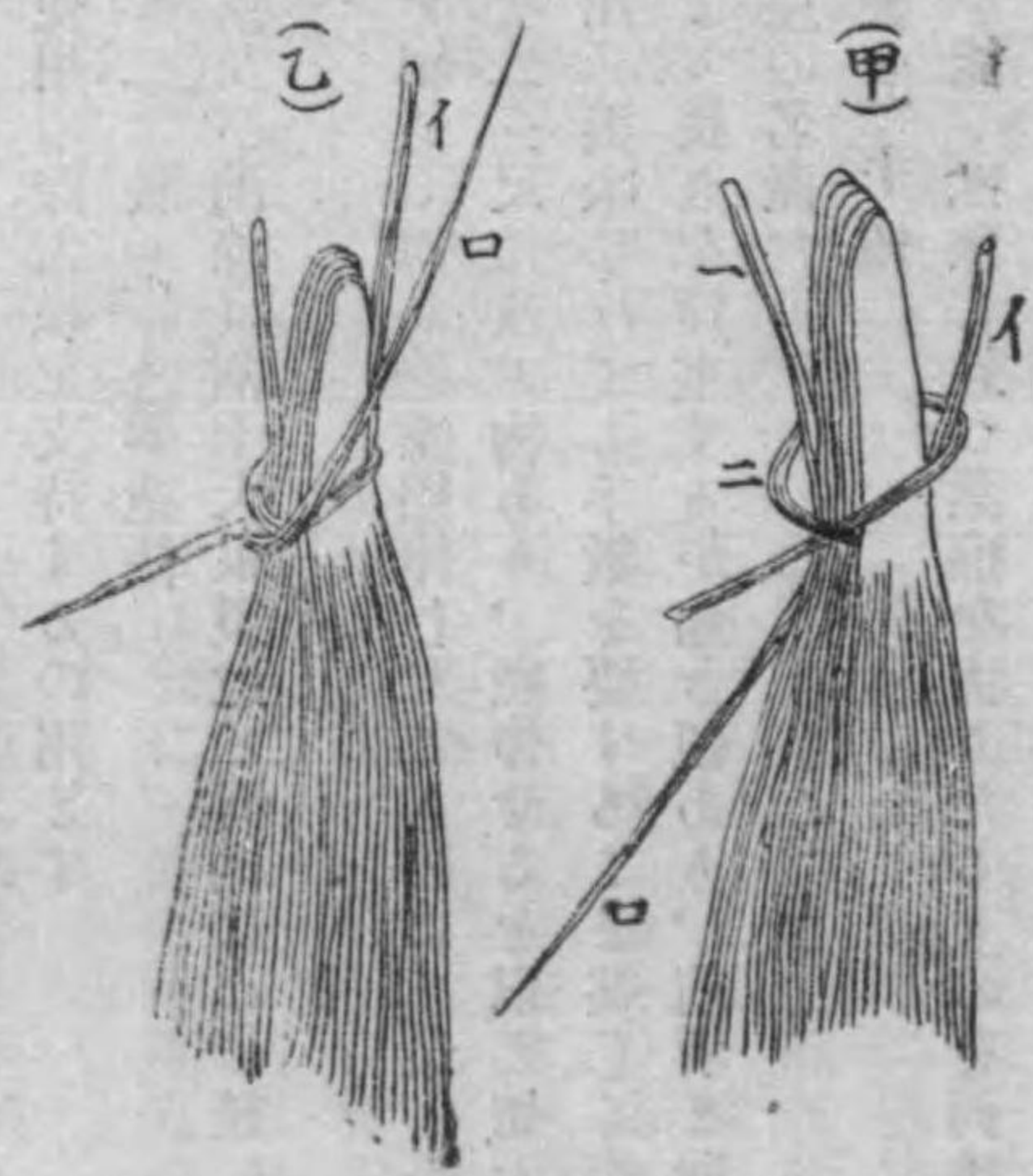
第五圖



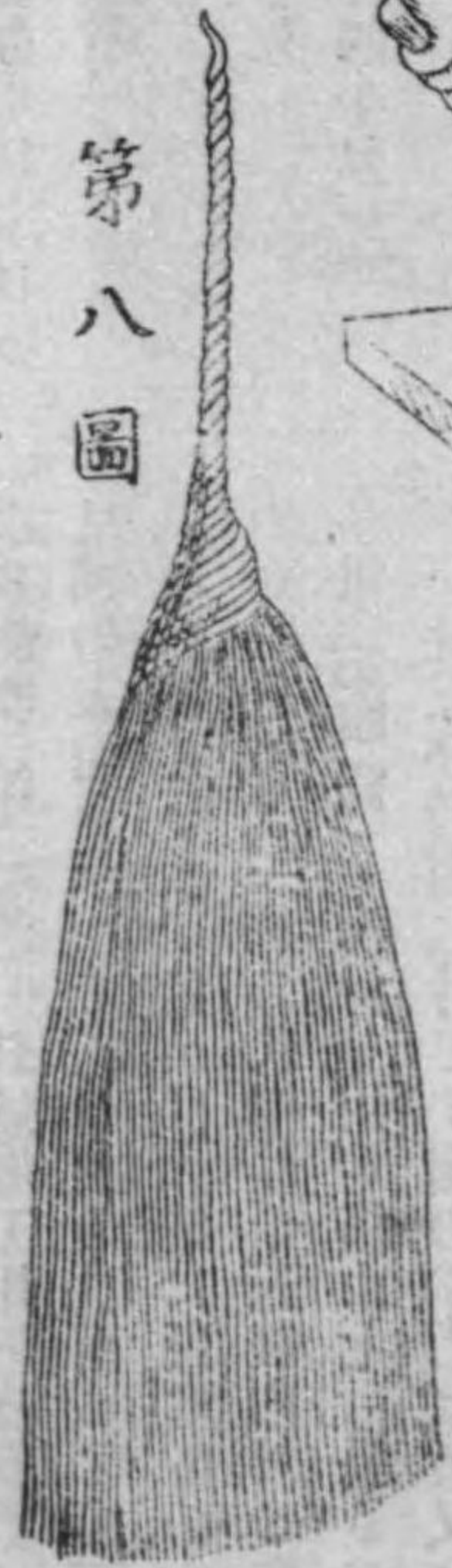
第六圖



第七圖



第八圖



宮重大根百本重量 四十五貫匁
内譯

皮 屑 一貫八百匁
切斷屑 一貫四百六十匁
残り正味原料 四十一貫九百四十匁
右原料より得たる製品左の如し
割干一等品長さを以て等級を定む 四百八十匁
全 二等品 六百五十匁
全 三等品 一貫五百七十匁
計 二貫七百匁

一、製造に要する器具
◎庖刀(第一圖) 長さ六寸巾一寸六分別に四寸の柄を附し使用の際は多く先端を用ひるが故に先端には圖の白色部の如く斜に多く鋼鐵を附し成るべく精鍊なるを要す、代價は大凡五拾錢位とす
◎定木(第一圖甲) 竹にて造り全圖乙の如く庖刀に嵌入す(イ)は長さ二寸九分巾五分五厘厚さ一分五厘(ロ)長さ五寸五分とす
庖刀は嵌入する部分(ハ)の如き刻目二三を付し切片の厚薄を自由ならしむるの装置をなす

六づゝを取り其の中心を金串にて貫通し且つ竹木片にて楔を付し以て動搖を防ぎ之れを(第十圖)の如く臺に装置して右手に庖刀を取り左手を以て大根を廻轉しつゝ削り行くときは細長き素麺状の切片となるものとす
斯く素麺状に細削せるものは乾燥の際至つて散亂し易きを以て其數條を纏めて中央部を緩く結び然る後西風の透過宜しき隅地を撰び高さ架を設け乾燥すること一日にして多少縮みを生じ稍短縮するを以て懸垂せるまゝ両手にて撚り伸ばし各部一様に糸状となり殆んど水分を脱却せしむる位に至らしむべし右の如くして充分乾燥するときは之れを



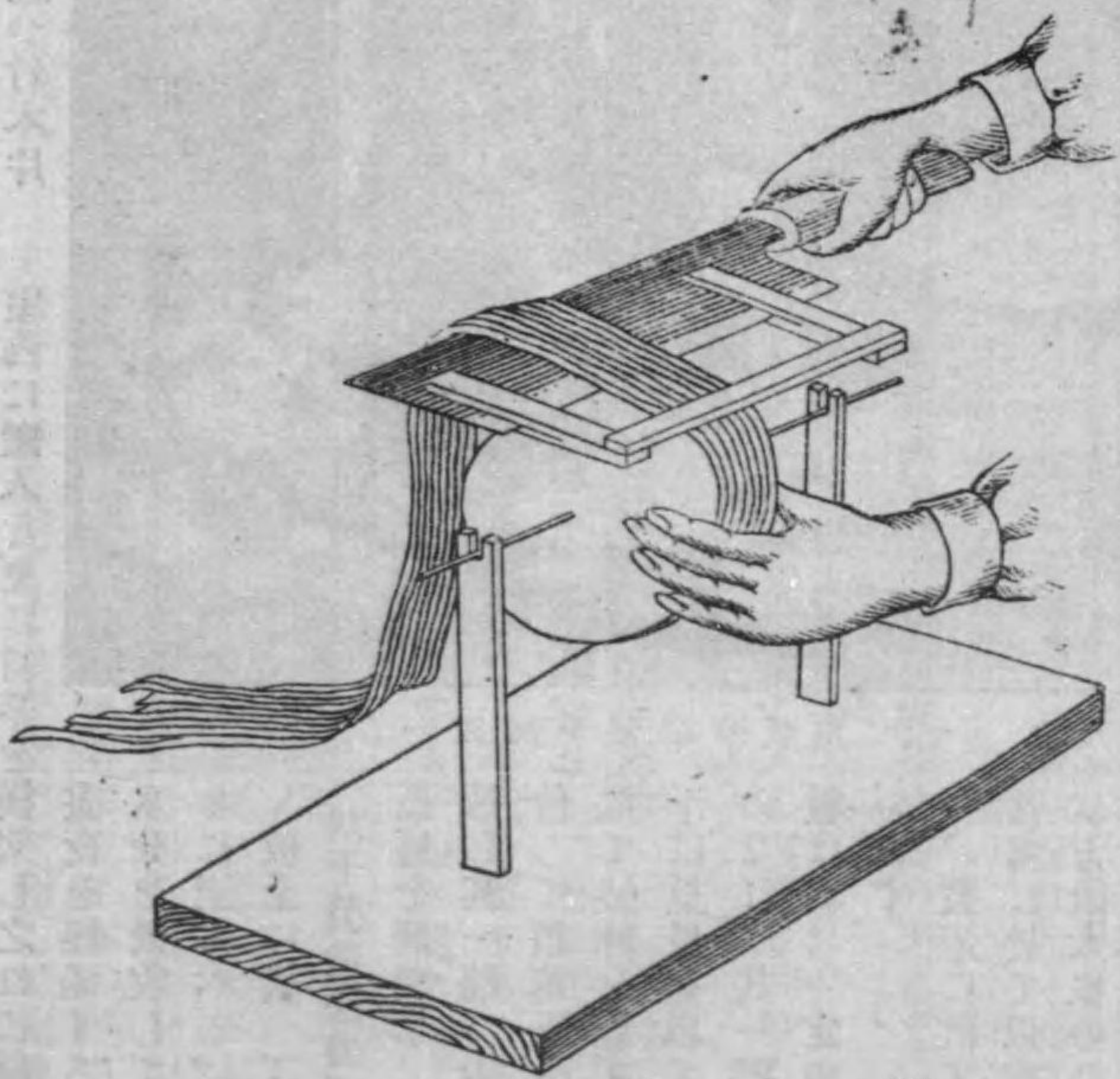
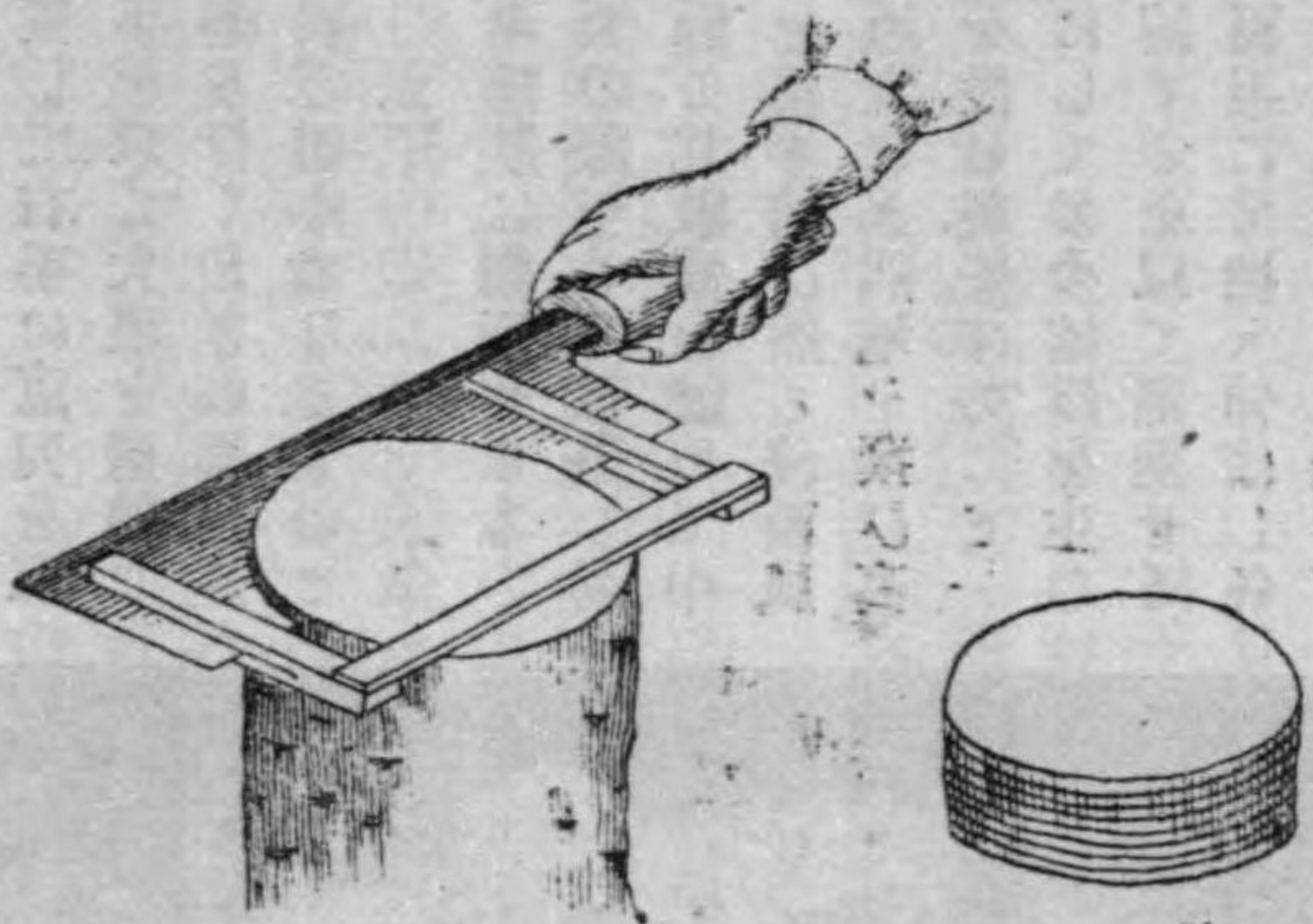
試験着手の際調査せる容積及重量(各種五本平均)

長割干製法の状況

室内に搬入し更に竹竿を横架し之れに懸垂し大凡一晝夜を経過するときには再び水分を吸収して濕氣を帶ぶるに至るべし、此際一把づゝ板上に横へ丁寧に撚伸す(割干製造法参照)然る後其長短を撰別し二三十條を一括し其一端に少許の藁を添付して頂端五寸許を琉球蘭にて裝飾を施すべし、長割干は重量を以て販賣するものなれば其一把に於ける條數は別に一定の標準なきものとす
一、製造に供する種類
當場に於て以前宮重大根及び方領大根の二種に付き試験せる結果左の如き成績を得たり

◎皮剥器(第三圖) 普通庖刀用の皮剥器とす圖の甲は其の表面を示して乙は其の裏面とす裏面には(イ)の如く鐵葉を張り置かば作業に便なるのみならず材の磨滅を防ぎ一挺の代價は十五錢内外とす
◎粗(第四圖) 柳材を用ゆ横巾七寸長さ二尺五寸厚さ一寸五分乃至二寸とす圖の(イ)は竹又は木の釘にして使用の際大根を支持するの用とす
(二) 長割干製造法
貯藏法及び洗滌は割干大根製造と同様なれば茲に省略す
大根を細長く切り乾燥撚伸したるものにて最も長きは一丈二三尺に及ぶ物あり、撚伸せるを以て切干大根に比し美味なれども手數を要すること甚しく寧ろ實用より長きを珍重するが如き觀あり、前者と同様名古屋の名産たり
一、製造手續
大根を能く洗滌し且つ葉痕を去りたるものを兩膝の間に直立せしめ定木を嵌めたる庖刀を以て右方より左方に輪狀に切り落すものにて其の厚さは大抵一分乃至一分五厘とす(第九圖)、而して此輪狀の切片五

第九圖



第十圖

品名 根身の周圍 根身の長さ 重量
 宮重大根 頭部 中央部 端末
 〇、六 〇、六 〇、六
 方領大根 一、二 〇、六 〇、六 一、六 四、七

等級	製品長さ	宮重目方	方領長さ	目方
一	七尺八寸	三十八匁五分	一丈一尺九寸	五十匁
二	六尺七寸	四十九匁五分	八尺四寸	百二十匁
三	六尺二寸	六十八匁	七尺四寸	百〇五匁

右の如き大根各種十本づゝを以て製造したる長割干は左の如し
 前表によれば方領種は製品の長さ及び製造歩合に於て遙かに宮重種に優るが如し宮重種は其の特性として根身の上半部は地上に露出し青緑色を帯ぶるを以て製造の際は深く其外皮を除去せざるべからず然らざれば製品の色澤一様ならずして大に外觀を損すべし、然れども水分の含量は方領に比して少なく随て製造容易にして且つ甘味に於ては多少優位を占むるが如し要するに長割干大根は實用よりも寧ろ其外觀の美麗なるを貴ぶものなれば根身純白にして豊大なる品種を選んぜざるべからず、故に此の目的に添ふ

ものは宮重種よりも寧ろ方領種を以て適良なりとす又櫻島大根は肉質最も緻密柔軟にして頗る偉大なれば充分之れが外皮を去りて製造に供すれば色澤品質共に最も優等なる製品を得べし、本年一回の試験に係るものは最長一丈五尺四寸最短一丈二尺一寸にして品質、色澤共に他の大根に優るを覺ゆ尙製造器具特に庖刀の寸法を増大すれば最も壯麗なる製品を得べし

(三) 千切干製造法

千切干 大根切干中最も細きものにして尾張大根切干同業組合にて定款を以て定めたるものを示せば次の如し

千切干は幅曲尺二寸七分に四十五目を附し刃の高さ一分の衡器を用ひたるもの

以上の衡器を以て製造したるものにして其の製造法は次の如し

普通一月上旬頃より二月上旬迄を以て最も盛なりとす、且つ此頃は天氣乾燥して風寒く乾燥に便なればなり、洗滌は前記の場合と同様なるを以て省畧す
 一、切 斷

洗滌後は(普通の場合)剥皮を行はず直に圖示せる如き衝器を桶上に装置し自然に其中へ落つるが如く而して大根を稍斜に持ち適宜に突き落し斯くして筑に移し汁液を滴らせし後乾燥場に運搬乾燥せしむ

一、乾 燥
乾燥棚は廣潤なる畑内空氣の流通可良なる殊に西北の風の多き場所を擇び長さ適宜に高さ五尺位の陽光に反對なる西北に面する傾斜の棚を設け之れに長さ六尺巾四尺の竹箆を掛けたるものなり(第十二圖参照)



状況ノ造製干切干

尾張大根切干製造の中心地たる中島、海部、西春日井、丹羽郡地方は地勢上冬季に入れば連日乾燥せる

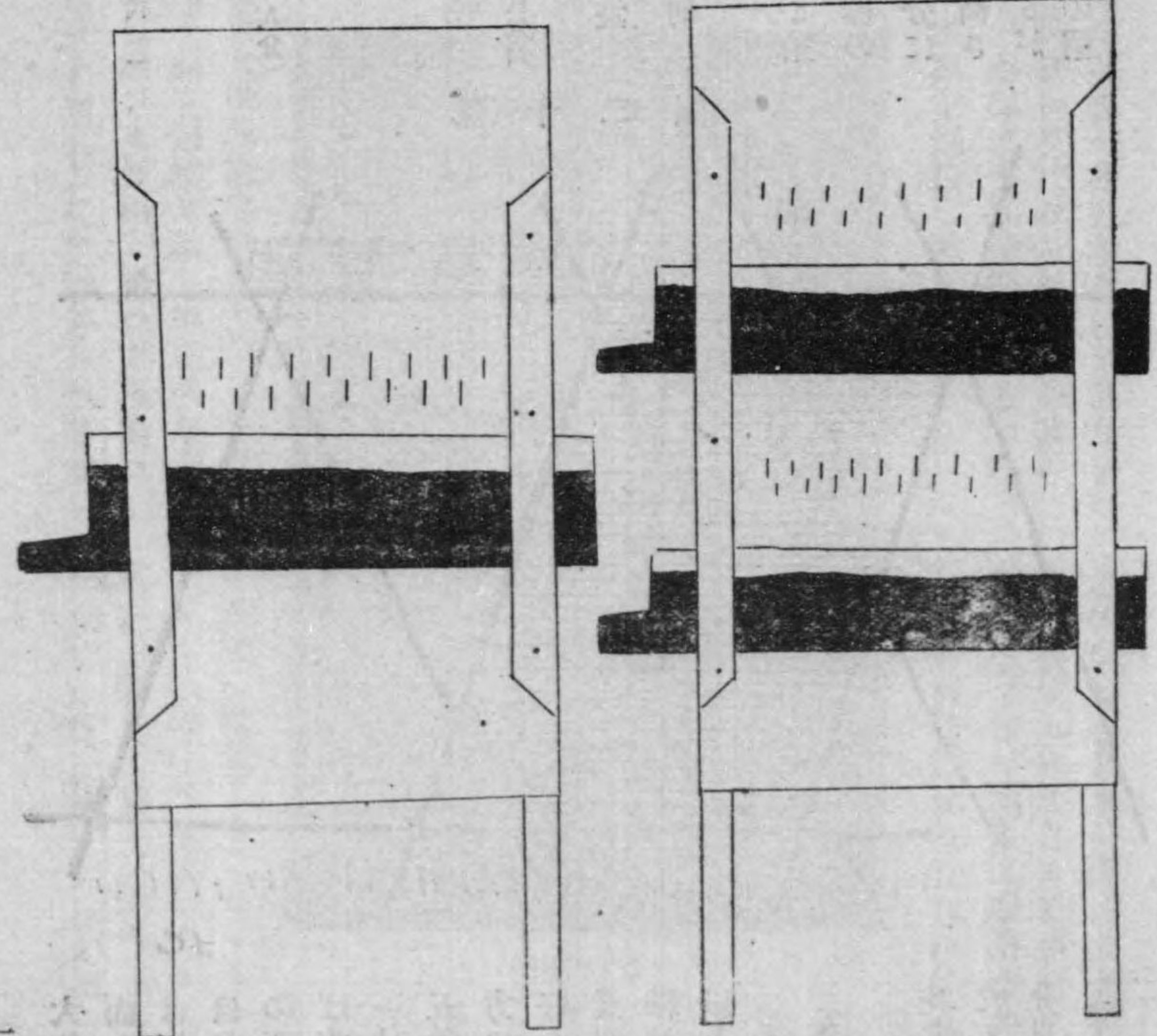
伊吹風の寒風強く農家は爲めに「乾きは風七分三分」と稱して殆んど此乾燥せる風によりて乾燥せしむるものなれば該風を受けんが爲めなり

全國各地方大根の名産地あるも本縣の如き優品を産出し能はざるは氣候の然らしむるものなるべし、竹箆は餘り古きは乾燥を害し且製品の色澤を損ずる故年々清洗し且つ四五年度に一度は取り換ふべし而して切干を乾燥棚に均平に撒布し晴天の夜は其儘とし雨天の際は竹箆に巻揚げ藁又は藁束等を覆ひ雨水の浸入を防ぐ乾燥の日数は氣候の如何により一定せず、寒冷なる西風の強き時は僅か一晝夜にて乾燥し得るも温暖にして無風の日は四五日を要するものとす

切干乾燥上天候の如何は色澤乾燥時に大なる關係を有するを以て大に注意をなす而して乾燥せし切干は直に俵装となし同業組合の検査を受け販賣に供す一俵の重量は正味十五貫にして四俵を以て一駄と稱す

一、産 量
一反歩の大根收量五千本内外にして之より百貫乃至百五十貫の製品を得るもの

圖 一 十 第



にて其價格は一定せざるも普通十貫乃至五圓乃至八圓の間を上下す而して一畝歩の大根につき採集より乾上に至る迄平均男一女一人を要し製品十貫乃至十五貫を得るものとす

一、收支計算
農閑を利用して行ふ處の副業なれば大なる利益なきも勞力の報酬は全部自己の收入となり相當に收利あるものなり左に一例として一畝歩に對する收支を示すべし

支 出
一金七圓六拾壹錢也